

科目名	保育原理				担当者	上村 裕 樹						
区分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、又は uemurahiroki@seiwaa.ac.jp への連絡（学籍番号・氏名記載必須）とする。											
専門的 学習成果	①	保育の今日的な役割について社会状況を踏まえた上で、適切に説明、報告することができる。										
	②	保育の意義について、自らの学習に基づき、相互インタビューを通して、互いに学び合うことができる。										
	③	保育所保育指針について、協同学習を通して主体的に学び、保育の場面や子どもの姿に応じた適切な解釈を説明、報告することができる。										
	④	保育の目標や方法について、自らの学習に基づき、グループワークでの対話を通して、実習を含めた保育現場のイメージをもちながら具体的な子どもや保育者の姿を説明、報告することができる。										
	⑤	現在の保育の理念を説明できるとともに、それらの理念を基に、これからの保育の課題について、その解決に向けた提案ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	現代社会における保育の必要性の高まりを理解し、実践において必要とされる知識や理論の基礎について自ら学びに向かい、得た内容について、説明、報告する事ができる。(専門的学習成果①②③④⑤に関連)										
	(2)	他者と協働的に学び合い、高め合うための方法を知り、実践することが出来るとともに、協働的な関係性の構築に向けて、自ら協力的に体制づくりに参加することができる。(専門的学習成果②③④に関連)										
	(3)	幅広い教養を身に着け、自ら課題を見出し、将来に渡り学び続けるための基礎となる研究心が養われ、学びに向かい続け探求することができる。(専門的学習成果③④⑤に関連)										
授業概要	保育及び幼児の教育のこれまでの歴史的展開を踏まえ、その理念や原理、保育・教育課程についての理解を果たす。また、各種指針・要領(保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育保育要領)に基づいて、保育の理念や基本的立場づけ、保育の目標や方法、内容等について、事前学習をもとにした自らの学びを積み重ねると同時に、対話的な学習による協働的な学びを積み重ねていくことで、学習を深めていく。 これらの学びを通して、理論の上にしたった保育実践の展開について考え、今後の課題について自らが説明、報告する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	5	学習ノートの提出と評価								
		課題	30	学習課題の取り組み、実施の評価								
		報告書	40	授業内容の取り組みの報告書(提出状況(20)・内容(20))								
		ワーク	15	グループワークへの取り組み(参加・貢献)の評価								
事前学習	10	事前学習課題への取り組みと提出の評価										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②・③・④・⑤にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②・③・④にて評価を行う。 (3) は、専門的学習成果③・④・⑤にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名										出版社名
		アプリを使用(授業中に指示します)。										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名										出版社名
	文部科学省	「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示)										
	厚生労働省	「保育所保育指針」(平成29年3月告示)										
内閣府・文部科学省・厚生労働省	「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年3月告示)											
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	<p>①準備学習等履修上の留意点：授業計画に従い、時間外学習を必ず行うこと。学習時間の自らの確保と保障は本講義受講において、必須とする。</p> <p>＜事前学習＞事前学習課題に基づく学習を必須とする。テキストや参考文献資料に目を通し、専門用語の意味を含め、各回での学習内容について、事前の基礎学習を行うこと。また、講義理解のため、子どもや子育て家庭を取り巻く現在社会の状況について社会制度や生活課題等に関するニュースに目を通しておくこと。</p> <p>＜事後学習＞毎回の講義の内容について振り返りを行うとともに、講義において示された学習課題について、能動的に取り組み提出を必ず行うこと。それらを通して、講義内容の理解を深め、講義の中で得られた自らの疑問や課題について、担当教員への質問だけでなく、図書資料等を用いながら学習を深めること。</p> <p>②フィードバックの方法等：専門的学習成果の評価における評価内容のフィードバックの方法は、以下の通りとする。</p> <p>▶授業の中で取り扱うコメントペーパーに関する内容は、次回講義開始時にコメントへのフィードバックを行う。</p> <p>▶各種テストの内容に関しては、テスト終了時に問題の解答に關してのフィードバックを行う。</p> <p>▶ワーク課題に関するフィードバックは、グループ課題は講義内でのハートと返却によりフィードバックとする。</p> <p>▶学習内容を学習ノートに指示された通り段階的にファイリングし、自らの学習の成果を視覚的に捉えることが可能となるよう取り組むこと。</p> <p>▶評価基準の補足は、以下の通りであり、自己学習のフィードバックの際の参考とすること。</p> <p>▶各種テストに関しては解答正解率により評価される。</p> <p>▶グループワークやワーク課題に関しては、ワークを通して得られる成果のみならず、ワーク活動への参加を含めた活動のプロセスも同様に評価される。</p> <p>▶事前・事後の学習に伴う提出課題は、各個人での取り組みが必要となるため、その取り組みのプロセスについても同様に評価される。</p> <p>▶学習ノートは、学びの成果を自らがまとめることが必要であるため、その取り組みが評価される。</p>											

		授業計画		学習成果の評価	
1回	授業内容	保育の今日的役割 テーマ：保育の現在の社会における役割(グループワーク)		トグループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 学習内容報告書 当該議題定時まで作成の上提出 確認小テスト	
	学習成果	保育の今日的役割について事前学習の理解を基に、GWにおいて意見交換が出来るとともに、メンバー学生との対話を踏まえ、保育の今日における役割について、積極的に説明、報告ができる。			
2回	授業内容	保育の意義(保育の理念と概念) テーマ：保育とは・保育者とは(相互インタビュー)		トグループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 学習内容報告書 当該議題定時まで作成の上提出 確認小テスト	
	学習成果	保育の理念や概念に関して、これまでの動向を踏まえ、保育者、保育とは何かということ、相互インタビューの活動をし、自らの言葉で具体的に説明、報告することができる。			
3回	授業内容	保育の意義(保育の社会的意義) テーマ：現在の社会における保育の役割と社会的意義(相互インタビュー)		トグループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 学習内容報告書 当該議題定時まで作成の上提出 確認小テスト	
	学習成果	保育現場や保育者が置かれている立場や現状を理解し、保育の社会的役割やその社会的意義について、相互インタビューの活動をし、自らの言葉で具体的に説明、報告することができる。			
4回	授業内容	保育の意義(保護者との協働) テーマ：保護者との協働の重要性(相互インタビュー)		トグループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 学習内容報告書 当該議題定時まで作成の上提出 確認小テスト	
	学習成果	保護者の社会的状況や生活状況、子育ての現実などから保護者との日常的な関わりや協働に関して、相互インタビューの活動をし、自らの言葉で具体的に説明、報告することができる。			
5回	授業内容	保育の意義(保育所保育指針の制度的位置づけ) テーマ：現在の社会における保育の役割と社会的意義(相互インタビュー)		トグループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 学習内容報告書 当該議題定時まで作成の上提出 確認小テスト	
	学習成果	保育所保育指針のこれまでの変遷や改定後の経緯などを踏まえ、指針の位置づけに関して、相互インタビューの活動をし、自らの言葉で具体的に説明、報告することができる。			
6回	授業内容	保育所保育指針の理解(役割と働き) テーマ：指針の役割と働きを踏まえた子どもも理解(協同学習)		ト理解程度確認まとめテスト トグループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 学習内容報告書 当該議題定時まで作成の上提出 確認小テスト	
	学習成果	保育所保育指針の役割と働きについて、第一章総則の内容より読み解き、協同学習を通して、提示される子どもの姿や保育場面における自らの解釈を説明、報告することができる。			
7回	授業内容	保育所保育指針の理解(職業と教育の一体性) テーマ：指針の役割と働きを踏まえた子どもも理解(協同学習)		ト保育所保育指針の理解 トグループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 学習内容報告書 当該議題定時まで作成の上提出 確認小テスト	
	学習成果	「職業と教育の一体性提供」について、第一章総則の内容より読み解き、協同学習を通して、提示される子どもの姿や保育場面における自らの解釈を説明、報告することができる。			
8回	授業内容	保育所保育指針の理解(環境を通して行う保育) テーマ：指針の役割と働きを踏まえた子どもも理解(協同学習)		ト保育所保育指針の理解 トグループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 学習内容報告書 当該議題定時まで作成の上提出 確認小テスト	
	学習成果	「環境を通して行う保育」について、第一章総則の内容より読み解き、協同学習を通して、提示される子どもの姿や保育場面における自らの解釈を説明、報告することができる。			
9回	授業内容	保育所保育指針の理解(発達過程に応じた保育) テーマ：指針の役割と働きを踏まえた子どもも理解(協同学習)		ト保育所保育指針の理解 トグループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 学習内容報告書 当該議題定時まで作成の上提出 確認小テスト	
	学習成果	「発達過程に応じた保育」について、これまでの指針も合わせて活用し、協同学習を通して、提示される子どもの姿や保育場面における自らの解釈を説明、報告することができる。			
10回	授業内容	保育所保育指針の理解(保育士の専門性) テーマ：指針の役割と働きを踏まえた子どもも理解(協同学習)		ト保育所保育指針の理解 トグループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 学習内容報告書 当該議題定時まで作成の上提出 確認小テスト	
	学習成果	「保育者の専門性」について、第一章総則の内容より読み解き、協同学習を通して、提示される子どもの姿や保育場面における自らの解釈を説明、報告することができる。			
11回	授業内容	保育の目標と方法(生活と遊びを通して総合的に行う保育) テーマ：生活と遊びを通して総合的に行う保育とは(グループワーク)		ト理解程度確認まとめテスト トグループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 学習内容報告書 当該議題定時まで作成の上提出 確認小テスト	
	学習成果	事前学習の理解を基に、メンバーとの対話を踏まえ、生活と遊びを通して保育が総合的に展開されることについて、具体的な子どもとの姿と保育者の姿を含めて説明、報告することができる。			
12回	授業内容	保育の理解を基に、メンバーとの対話を踏まえ、個と集団へ十分に対応された保育の必要性について、具体的な子どもとの姿と保育者の姿を含めて説明、報告することができる。		トグループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 学習内容報告書 当該議題定時まで作成の上提出 確認小テスト	
	学習成果	事前学習の理解を基に、メンバーとの対話を踏まえ、個と集団へ十分に対応された保育の必要性について、具体的な子どもとの姿と保育者の姿を含めて説明、報告することができる。			
13回	授業内容	保育の目標と方法(計画・実践・記録・評価・改善の過程) テーマ：計画・実践・記録・評価・改善のプロセスに基づく保育とは(グループワーク)		トグループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 学習内容報告書 当該議題定時まで作成の上提出 確認小テスト	
	学習成果	事前学習の理解を基に、メンバーとの対話を踏まえ、生活と遊びを通して保育が総合的に展開されることについて、具体的な子どもとの姿と保育者の姿を含めて説明、報告することができる。			
14回	授業内容	保育の思想と歴史的変遷を踏まえた自らの保育実践(グループワーク)		ト理解程度確認まとめテスト トグループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 学習内容報告書 当該議題定時まで作成の上提出 確認小テスト	
	学習成果	保育の思想や歴史的変遷について理解するとともに、現在の保育との関連を考え、説明できる。また、自ら取組みたいと考える保育実践方法について、メンバーに説明、提案する事ができる。			
15回	授業内容	保育の現状と課題 テーマ：保育の現状と課題を踏まえたこれからの保育への提案(グループワーク)		トグループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 学習内容報告書 当該議題定時まで作成の上提出 確認小テスト ト学習ノートの提出	
	学習成果	保育の現状について意見交換ができ、現在の保育が抱える課題について、自らの言葉で説明、報告することができる。また、自らが今後どのように解決に携わることが出来る。			

科目名	教育の制度と原理				担当者	井 本 佳 宏 ・ 頼 昇 延						
区 分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	通年
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	質問や要望等については、授業の前後に教室で受け付ける。必要に応じて教員へのメール連絡も可能とする。											
専門的 学習成果	①	教育の基本概念を身につけ、教育に関する歴史及び指導についての基礎知識と多様な教育の理念や実際の教育及び学校とを関連付けて説明できる。										
	②	社会状況が学校教育に与える影響と課題、それに対応した教育政策の動向について説明できる。										
	③	保育施設と地域との連携や協働、学校の管理下での危機管理を含む学校安全の目的と取り組みに参加できる。										
汎用的 学習成果	(1)	幅広く教養を身につけ保育者及び社会人として、地域社会で活用することができる。										
	(2)	自己の課題を客観的に見出し、解決に向け学び続けることができる。										
授業概要	教育の基本（理念、歴史、指導法、カリキュラム、制度等）を解説するとともに、現代日本における教育および保育の営みと家庭的教育の方向性と課題について考察していく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	80	これまでの修学内容に基づいて記述式問題（持ち込み不可）を実施し、評価する。								
		レポート	20	授業内容に関わるレポート（A4用紙2枚程度）を課す。体裁・内容・根拠を評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により行う。 (1) は専門的学習成果①②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前にテキストや参考資料を読みポイントを把握した上で授業に臨み、講義内容の理解に備えておく。また、筆記試験の準備を行い、理解の定着に努めること。受講希望者は、第1回に必ず参加すること。なお、テキストを購入する必要はない。 ②レポートは授業で返却し解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価		
1回	授業内容	教育の意義と教育の目的（頼）		毎回、授業の終盤に確認テストを実施する。	
	学習成果	教育の意義・語源、教育の形態、教育の機能について説明できる。			
	予習復習の内容	授業資料を読んで要点を整理しておくこと。授業内容について、ノートを見返して復習すること。			
	授業内容	子ども観の歴史の変遷と近世の教育理念（頼）			
2回	学習成果	中世～近世の子ども観の変化とその要因を説明でき、中世～近世ヨーロッパの主要な教育思想と日本の「教化／教育」概念の違いを踏まえて、教育の理念・方法の特徴を比較できる。			
	予習復習の内容	授業資料を読んで要点を整理しておくこと。授業内容について、ノートを見返して復習すること。			
3回	授業内容	人間の発達と教育（頼）			
	学習成果	成長と発達の違いを説明し、発達に影響する要因（遺伝・環境）を踏まえつつ、主要な発達理論（ピアジェ／エリクソン／ヴィゴツキー）の特徴を整理して説明できる。			
	予習復習の内容	授業資料を読んで要点を整理しておくこと。授業内容について、ノートを見返して復習すること。			
	授業内容	教育制度の諸原理と現代的課題（教育制度の基本原則／公教育／教育法）（井本）			
4回	学習成果	教育制度について理解し、説明することができる。			筆記試験（4～8回分の内容を問う）。第15回授業終了後、試験期間中に実施する。もしくは第8回授業時に小テスト（4～8回分の内容を問う）を実施する。
	予習復習の内容	参考資料を熟読しておくこと。授業内容について見返すこと。			
5回	授業内容	乳幼児期の保育制度、初等教育制度（井本）			
	学習成果	乳幼児期の保育制度について説明することができる。			
	予習復習の内容	参考資料を熟読しておくこと。授業内容について見返すこと。			
	授業内容	義務教育と諸外国の教育制度（井本）			
6回	学習成果	義務教育についてより認識し、諸外国との違いについて説明することができる。			
	予習復習の内容	参考資料を熟読しておくこと。授業内容について見返すこと。			
7回	授業内容	学校の現代的課題と可能性（開かれた学校／カリキュラムを開発する学校）（井本）			
	学習成果	現代の課題について説明することができる。			
	予習復習の内容	参考資料を熟読しておくこと。授業内容について見返すこと。			
	授業内容	安全管理と安全教育（井本）			
8回	学習成果	安全管理と安全教育について説明することができる。			
	予習復習の内容	参考資料を熟読しておくこと。授業内容について見返すこと。			
9回	授業内容	西洋教育思想の源流とその展開（頼）			毎回、授業の終盤に確認テストを実施する。
	学習成果	西洋教育思想の歴史的展開（古代ギリシャ～中世）を概説し、近代の主要な教育思想家（バスターロッチ／ヘルバルト／フレイベル）の教育観と教授法の特徴を説明できる。			
	予習復習の内容	授業資料を読んで要点を整理しておくこと。授業内容について、ノートを見返して復習すること。			
	授業内容	近代公教育の形成（頼）			
10回	学習成果	近代公教育成立の社会的背景を説明し、公教育の理念を踏まえて、近代学校成立の意義を説明できる。			
	予習復習の内容	授業資料を読んで要点を整理しておくこと。授業内容について、ノートを見返して復習すること。			
11回	授業内容	新教育の理念と実践（頼）			
	学習成果	公教育が「開かれている」ことの条件（内容・対象・費用等）を説明でき、19世紀後半以降の新教育運動の理念と代表的実践を概説できる。			
	予習復習の内容	授業資料を読んで要点を整理しておくこと。授業内容について、ノートを見返して復習すること。			
	授業内容	日本における近代学校制度の確立（頼）			
12回	学習成果	明治期の学校制度の成立過程（公教育の開始～制度改革～確立）を説明でき、近代学校制度が形成された意義を整理して説明できる。			
	予習復習の内容	授業資料を読んで要点を整理しておくこと。授業内容について、ノートを見返して復習すること。			
13回	授業内容	戦後日本の学校教育（頼）			
	学習成果	戦後日本の学校教育について、占領期の民主化改革（1945～1952）と主権回復後（1952～1960）の政策転換の要点を整理して説明できる。			
	予習復習の内容	授業資料を読んで要点を整理しておくこと。授業内容について、ノートを見返して復習すること。			
	授業内容	1960年代以降の日本の学校教育（頼）			
14回	学習成果	1960年代以降の学校教育の変遷を社会背景と関連づけて説明でき、学習指導要領の改訂にみる教育課程方針の転換を整理して説明できる。			
	予習復習の内容	授業資料を読んで要点を整理しておくこと。授業内容について、ノートを見返して復習すること。			
15回	授業内容	教育者のあり方（頼）			
	学習成果	教育者に関する基本概念（呼称・役割）を説明でき、教師の影響（期待効果等）を踏まえて教職員の類型を整理し、「よい教師」像を根拠とともに言語化できる。			
	予習復習の内容	授業資料を読んで要点を整理しておくこと。授業内容について、ノートを見返して復習すること。			

科目名	子ども家庭福祉				担当者	君 島 智 子						
区 分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30							
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーで受け付ける。											
専門的 学習成果	①	児童福祉の意義と歴史を学び児童の権利とその価値を獲得する。										
	②	児童と家庭を取り巻く課題それらに対する施策や福祉制度を学ぶ。										
	③	児童福祉法をはじめとして、その他の法制度についても理解する。										
汎用的 学習成果	(1)	保育士としての業務の広汎性を理解する。(専門的学習成果①②③)										
	(2)	自らの課題を追究し、将来にわたり学び続けるための基礎となる力を獲得している。(専門的学習成果①②③)										
授業概要	日本では1994年に「子どもの権利条約」が批准されたが、児童を取り巻く状況は深刻さを増し、児童の最善の利益に拠って立つ専門職の役割は大変重要なものとなっている。本授業では、児童と家庭の現状と支援についてや児童・家庭福祉制度について学んでいく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	レポート	60	授業の理解についてレポートを課す。								
		中間ミニレポート	40	授業の理解についてレポートを課す。								
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③で行う。 (2) は専門的学習成果①～③で行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	公益財団法人児童育成協会	『子ども家庭福祉論』				中央法規						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	授業中に紹介する。											
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①教科書を事前に読み込んでおくこと。(予習を週2時間程度) 教科書並びに配布資料を基に復習すること。(週2時間程度) ②公務等(実習・部活動等)で欠席する場合は、必ず所定の様式の欠席届を提出すること。また、病欠についても事後に届け出ること。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション	授業内容についてレポート課題の提出を行う。
	学習成果	授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価方法を理解する。	
	予習復習の内容	配布資料で復習する。	
2回	授業内容	児童福祉の意義と歴史1	
	学習成果	日本における児童福祉の歴史と子ども観の変遷を学ぶ。	
	予習復習の内容	配布資料で復習する。	
3回	授業内容	児童福祉の意義と歴史2	
	学習成果	憲法・児童憲章・子どもの権利条約・子どもの権利の形成過程を理解する。	
	予習復習の内容	配布資料で復習する。	
4回	授業内容	子どもと家庭の現状と課題1	
	学習成果	少子高齢化社会のなかの子どもと家庭の現状を理解する。	
	予習復習の内容	配布資料で復習する。	
5回	授業内容	子どもと家庭の現状と課題2	
	学習成果	ひとり親家庭の現状と課題また支援策の概要を学ぶ。	
	予習復習の内容	配布資料で復習する。	
6回	授業内容	子どもと家庭の現状と課題3	
	学習成果	児童虐待の現状と被虐待児への支援について理解する。	
	予習復習の内容	配布資料で復習する。	
7回	授業内容	子どもと家庭の現状と課題4	
	学習成果	D Vの現状と被害者支援の実態について理解する。	
	予習復習の内容	配布資料で復習する。	
8回	授業内容	子どもと家庭の現状と課題5	
	学習成果	青少年の健全育成の現状や性犯罪や性被害も含めて理解する。	
	予習復習の内容	配布資料で復習する。	
9回	授業内容	児童・家庭福祉に関する法制度1	
	学習成果	児童福祉法の概要について学ぶ。	
	予習復習の内容	配布資料で復習する。	
10回	授業内容	児童・家庭福祉に関する法制度2	
	学習成果	児童虐待防止法、DV防止法の概要について学ぶ。	
	予習復習の内容	配布資料で復習する。	
11回	授業内容	児童・家庭福祉に関する法制度3	
	学習成果	児童手当法、次世代育成支援対策推進法等のその他の法について理解する。	
	予習復習の内容	配布資料で復習する。	
12回	授業内容	児童・家庭福祉関連の行政機関	
	学習成果	福祉事務所・児童相談所等の役割と現状について理解する。	
	予習復習の内容	配布資料で復習する。	
13回	授業内容	児童・家庭福祉関連の福祉施設1	
	学習成果	通所型の施設を取り上げ、特に待機児童の問題を考える。	
	予習復習の内容	配布資料で復習する。	
14回	授業内容	児童・家庭福祉関連の福祉施設2	
	学習成果	入所型の施設を取り上げ、社会的養護について考察する。	
	予習復習の内容	配布資料で復習する。	
15回	授業内容	まとめ	
	学習成果	これまでの授業のふりかえりとまとめを行い、これからの課題と展望を考察する。	
	予習復習の内容	配布資料で復習する。	

科目名	社会福祉				担当者	上村 裕 樹						
区分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、又は uemura.hiroki@seiwai.ac.jp への連絡（学籍番号・氏名記載必須）とする											
専門的 学習成果	①	社会福祉の歴史的展開や法制度などについて理解し、適切に説明・報告することができる。										
	②	社会福祉の理念や原理を理解し、現在の社会福祉サービスについて、説明することができる。										
	③	社会福祉の対象を理解し、その対象者の背景や状況を踏まえた上で、対象者が抱える課題とその解決策について説明・報告することができる。										
	④	社会福祉の働きを理解し、実習を含む施設保育の場をイメージしながら社会福祉の役割や意義について、自ら積極的に説明することができる。										
	⑤	社会福祉の課題について自ら考えることができると共に、その解決に向けた提案を対話型学習において、提案することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	現代社会における社会福祉の必要性を理解し、実践において必要とされる知識や理論の基礎について自ら学びに向かい、得た内容について、説明、報告することができる。(専門的学習成果①②③④⑤に関連)										
	(2)	他者と協働的に学び合い、高め合うための方法を知り、実践することが出来るとともに、協働的な関係性の構築に向けて、自ら協力的に体制づくりに参加することができる。(専門的学習成果①③④⑤に関連)										
	(3)	幅広い教養を身に着け、自ら課題を見出し、将来に渡り学び続けるための基礎となる研究心が養われ、学びに向かい続け探求することができる。(専門的学習成果③④⑤に関連)										
授業概要	社会福祉のこれまでの歴史的展開を踏まえ、その理念や原理、各種法制度の成立の状況やその変遷を知り、社会福祉サービスの成立とその役割について、理解する。また、社会福祉の対象についても同様に社会的状況やその背景、各対象へのサービスの具体的な内容についても理解する。 そして、これらの理解を得るための事前学習をもとにした自らの学びを積み重ねると同時に、対話的な学習による協働的な学びを積み重ねていくことで、学習を深めていく。 これらの学びを通して、理論の上に立った社会福祉実践の展開について考え、今後の課題について自らが説明、報告する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	5	学習ノートの提出と評価								
		課題	30	学習課題の取り組み、実施の評価								
		報告書	40	授業内容の取り組みの報告書（提出状況（20）・内容（20））								
汎用的 学習成果	ワーク	15	グループワークへの取り組み（参加・貢献）の評価									
	事前学習	10	事前学習課題への取り組みと提出の評価									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②・③・④・⑤にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①・③・④・⑤にて評価を行う。 (3) は、専門的学習成果③・④・⑤にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
		【施設実習必携ハンドブック】				見洋書房						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	<p>①準備学習等履修上の留意点：授業計画に従い、時間外学習を必ず行うこと。学習時間の自らの確保と保障は本講義受講において、必須とする。 <事前学習>事前学習課題に基づく学習を必須とする。テキストと参考文献資料に目を通し、専門用語の意味を含め、各回での学習内容について、事前の基礎学習を行うこと。また、講義理解のため、子どもや子育て家庭を取り巻く現在社会の状況について社会制度や生活課題等に関するニュースに目を通しておくこと。 <事後学習>毎回の講義の内容について振り返りを行うとともに、講義において示される学習課題について、能動的に取り組み提出を必ず行うこと。それらを通して、講義内容の理解を深め、講義の中で得られた自らの疑問や課題について、担当教員への質問だけでなく、図書資料等を用いながら学習を深めること。</p> <p>②フィードバックの方法等：専門的学習成果の評価における評価内容のフィードバックの方法は、以下の通りとする。 ▶授業の中で取り扱うコメントペーパーに関する内容は、次回講義開始時にコメントへのフィードバックを行う。 ▶各種テストの内容に関しては、テスト終了時に問題の解答に関するフィードバックを行う。 ▶ワーク課題に関するフィードバックは、グループ課題は講義内でのハーベストと返却によりフィードバックとする。 ▶学習内容を学習ノートに指示された通り段階的にファイリングし、自らの学習の成果を視覚的に捉えることが可能となるよう取り組むこと。 評価基準の補足は、以下の通りであり、自己学習のフィードバックの際の参考とすること。 ▶各種テストに関しては解答正解率により評価される。 ▶グループワークやワーク課題に関しては、ワークを通して得られる成果のみならず、ワーク活動への参加を含めた活動のプロセスも同様に評価される。 ▶事前・事後の学習に伴う提出課題は、各個人での取り組みが必要となるため、その取り組みのプロセスについても同様に評価される。 ▶学習ノートは、学びの成果を自らがまとめることが必要であるため、その取り組みが評価される。</p>											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容 現代生活と社会福祉 テーマ：現代社会の生活と社会福祉	現代の社会状況について理解し、社会福祉の役割やその意義について、グループワークにおいて、積極的に説明・報告できる。	①グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ②学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ③確認小テスト
	学習成果	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）	
2回	授業内容 社会福祉の歴史 テーマ：日本における社会福祉の歴史	社会福祉の歴史について理解し、社会福祉の成立からその変遷について、グループワークにおいて、積極的に説明・報告できる。	①グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ②学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ③確認小テスト
	学習成果	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）	
3回	授業内容 社会福祉の法律 テーマ：社会福祉法制度	社会福祉の法律の成立から、その働きについて、グループワークにおいて、積極的に説明・報告できる。	①グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ②学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ③確認小テスト
	学習成果	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）	
4回	授業内容 社会福祉の行政組織 テーマ：社会福祉行政の仕組み	社会福祉の行政組織の仕組みについて理解し、その働きや役割について、グループワークにおいて、積極的に説明・報告できる。	①グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ②学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ③理解度確認テスト
	学習成果	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）	
5回	授業内容 社会福祉の民間活動 テーマ：社会福祉の民間活動の現状	社会福祉の民間活動について、その現状と課題について、グループワークにおいて、積極的に説明・報告できる。	①グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ②学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ③確認小テスト
	学習成果	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）	
6回	授業内容 社会福祉従事者 テーマ：社会福祉従事者の役割	社会福祉従事者の資格や業務について理解し、その役割と働きについて、グループワークにおいて、積極的に説明・報告できる。	①グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ②学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ③理解度確認テスト
	学習成果	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）	
7回	授業内容 社会福祉における相談援助 テーマ：相談援助の役割と仕組み	社会福祉における相談援助の意義と役割について理解し、福祉課題解決のための相談援助のあり方について、自ら説明することができる。	①グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ②学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ③確認小テスト
	学習成果	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）	
8回	授業内容 社会福祉における利用者の保護 テーマ：利用者保護の仕組み	社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解し、権利擁護や成年後見制度の役割について、グループワークにおいて、積極的に説明・報告できる。	①グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ②学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ③理解度確認テスト
	学習成果	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）	
9回	授業内容 児童家庭福祉 テーマ：現在社会の児童家庭福祉	現在の社会における児童家庭福祉の現状について理解し、児童家庭福祉におけるサービスの役割や課題について、グループワークにおいて、説明・報告できる。	①グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ②学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ③確認小テスト
	学習成果	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）	
10回	授業内容 高齢者保健福祉 テーマ：現在社会の高齢者保健福祉	現在の社会における高齢者福祉の現状について理解し、高齢者福祉におけるサービスの役割や課題について、グループワークにおいて、説明・報告できる。	①グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ②学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ③確認小テスト
	学習成果	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）	
11回	授業内容 障害者福祉 テーマ：現在社会の障害者福祉	現在の社会における障害者福祉の現状について理解し、障害者福祉におけるサービスの役割や課題について、グループワークにおいて、説明・報告できる。	①グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ②学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ③確認小テスト
	学習成果	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）	
12回	授業内容 生活保護制度 テーマ：生活保護制度の仕組みと課題	生活保護制度の仕組みや役割について理解し、現在の社会における生活保護制度の必要性とその課題について、グループワークにおいて、説明・報告できる。	①グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ②学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ③理解度確認テスト（質の向上）
	学習成果	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）	
13回	授業内容 地域福祉 テーマ：地域福祉の仕組みと課題	地域福祉の仕組みや役割について理解し、現在の社会における地域福祉の必要性とその課題について、グループワークにおいて、説明・報告できる。	①グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ②学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ③確認小テスト
	学習成果	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）	
14回	授業内容 保育と社会福祉 テーマ：社会福祉における保育	保育の仕組みや役割について理解し、現在の社会における保育の必要性とその課題について、グループワークにおいて、説明・報告できる。	①グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ②学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ③理解度確認テスト
	学習成果	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）	
15回	授業内容 社会福祉の課題 テーマ：社会福祉の課題の解決に向けて	社会福祉の課題について、これまでの学びをもとに、社会福祉に従事するものとして、自らの具体的な参与と福祉課題への解決のアプローチに関して提案ができる。	①グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ②学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ③理解度確認テスト（13-15回） ④学習ノートの提出
	学習成果	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）	

科目名	社会的養護Ⅰ				担当者	川上 芳夫						
区分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法				授業時のみ								
専門的 学習成果	①	社会的養護とは何か、現状と今後の課題を論じることができる。										
	②	社会的養護の制度、仕組みを理解し、説明できる。										
	③	児童養護の先駆者の業績、現在につながる諸制度を理解し、説明できる。										
	④	施設養護、家庭養護の役割を理解し、説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育士としての業務の広汎性を理解する。(専門的学習成果①②③④)										
	(2)	自らの課題を追究し、将来にわたり学び続けるための基礎となる力を獲得している。(専門的学習成果①②③④)										
授業概要	平成28年6月に改正された児童福祉法は、これまでの社会的養護を大きく変革するものとなった。これらを踏まえて、戦後70年の社会的養護の歩みと現状、そしてこれからの社会的養護のあり方を探っていく。また、大きな社会的課題となっている、児童虐待の現状と課題にも焦点をあてる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	50	全15回分の講義内容について筆記試験を行い、評価する。								
		平常点	50	授業への関心、意欲、態度を評価するとともに、原則として毎回課す提出課題への取り組み状況を評価する。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①～④で行う。 (2)は専門的学習成果①～④で行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	伊藤嘉余子、福田公教 編著	『社会的養護』				ミネルヴァ書房						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	授業の中で紹介する。											
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①教科書を事前に読み込んでおくこと。(予習を週2時間程度) 教科書並びに配布資料を基に復習すること。(週2時間程度) ②公務等(実習・部活動等)で欠席する場合は、必ず所定の様式の欠席届を提出すること。また、病欠についても事後に届け出ること。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価方法	授業内容について 報告課題を与え、提出させる。
	学習成果	社会的養護の大綱を理解する。	
2回	授業内容	日本の社会的養護の現状と子ども虐待	2回目の授業内容について報告課題を与え、提出させる。
	学習成果	社会的養護の現状を理解し、説明できる。	
3回	授業内容	子どもの権利擁護から考える。	3回目の授業内容について報告課題を与え、提出させる。
	学習成果	社会的養護の再編の方向性を理解し、説明できる。	
4回	授業内容	子どもの権利擁護から考える。	4回目の授業内容について報告課題を与え、提出させる。
	学習成果	社会的養護の再編の方向性を理解し、説明できる。	
5回	授業内容	社会的養護の歴史1	5回目の授業内容について報告課題を与え、提出させる。
	学習成果	古代から大正期までの社会的養護の歴史を理解し、説明できる。	
6回	授業内容	社会的養護の歴史2	6回目の授業内容について報告課題を与え、提出させる。
	学習成果	昭和から現在までの社会的養護の歴史を理解し、説明できる。	
7回	授業内容	社会的養護の課題と将来像	7回目の授業内容について報告課題を与え、提出させる。
	学習成果	社会的養護にかかる施策の動向を理解し、説明できる。	
8回	授業内容	社会的養護の課題と将来像	8回目の授業内容について報告課題を与え、提出させる。
	学習成果	社会的養護の課題と将来像	
9回	授業内容	社会的養護の制度と実施体系	9回目の授業内容について報告課題を与え、提出させる。
	学習成果	社会的養護の相談システムを理解し、説明できる。	
10回	授業内容	子どもの権利擁護と社会的養護	10回目の授業内容について報告課題を与え、提出させる。
	学習成果	社会的養護の国際的な動きを理解し、説明できる。	
11回	授業内容	社会的養護の理念と原理	11回目の授業内容について報告課題を与え、提出させる。
	学習成果	社会的養護を支える理論の概要を理解し、説明できる。	
12回	授業内容	施設養護の実践と方法1	12回目の授業内容について報告課題を与え、提出させる。
	学習成果	施設養護の実践と方法1	
13回	授業内容	施設養護の実践と方法2	13回目の授業内容について報告課題を与え、提出させる。
	学習成果	施設養護の実践と方法2	
14回	授業内容	家庭養護の実践	14回目の授業内容について報告課題を与え、提出させる。
	学習成果	家庭養護の実践	
15回	授業内容	児童心理治療施設、児童自立支援施設等の概況を理解し、説明できる。	15回目の授業内容について報告課題を与え、提出させる。
	学習成果	児童心理治療施設、児童自立支援施設等の概況を理解し、説明できる。	

科目名	保育者論				担当者	中 島 恵 (実務家教員)						
区 分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、又は nakajima.megumi@seiwa.ac.jp への連絡 (学籍番号・氏名記載必須) とする。											
専門的 学習成果	①	子どもを取り巻く現在社会の状況について理解し、幼児教育や保育、保育士の必要性と役割について説明できる。										
	②	保育者の専門職としての業務について理解し、職務内容及び服务内容について説明できる。										
	③	少子化・経済状況・教育課題・家庭の養育力などの面から現在の社会状況について理解し、その中で必要とされる保育者の役割について説明できる。										
	④	求められる保育者としての理想像や資質能力について理解し、保育者の専門性を向上させることの意義について説明できる。										
	⑤	保育者の専門性を向上させるために必要な保育者自らの取り組みについて理解し、保育者を目指す受講生自らの取り組みへき学習や、期待される役割について理解し、自らの働き方のイメージを持ち、具体的な保育場面を想定し、自ら説明することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	現代社会における保育者の重要性の高まりを理解し、教職の意欲を高め、進路選択における保育職のあり方を考え表現することができる。(専門的学習成果①②③④)										
	(2)	幅広い教養を身につけ、自ら課題を見出し、将来に渡り学び続けるための基礎となる研究心が養われ、学びに向かい続け探求することができる。(専門的学習成果①④⑤)										
授業概要	現代社会における社会状況について理解を深め、教育課題の現状とこれからの教育が担う役割や課題について、自ら説明することが可能となるよう理解を深める。また、保育・教育の重要性を理解するとともに、保育者の役割や働きについて理解する。そして、保育者の職務について適切に理解し、自らの保育者としての質の向上の必要性と意義、向上に向けた学習の手法と仕組みについて学ぶ。その他、保育者の連携や協働の重要性、家庭との協力連携体制の構築の重要性を認識し、社会資源を有効に活用した協働の方法を模索するとともに、子どもの発達に沿った就学に向けて、小学校教育との連続性についても学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		テスト	30	理解度確認テスト・確認小テストの正否による得点での評価								
		レポート	40	授業内容の取り組みのレポート (提出状況 (20)・内容 (20))								
		ワーク	20	グループワークへの取り組み (参加・貢献) の評価								
事前学習	10	事前学習課題への取り組みと提出の評価										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②・③・④にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①・④・⑤にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
	佐藤哲也編著	『子どものこころにより添う保育者論』					福村出版					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
	文部科学省	『幼稚園教育要領』(平成29年3月告示)										
	厚生労働省	『保育所保育指針』(平成29年3月告示)										
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成29年3月告示)										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	<p>①準備学習等履修上の留意点：授業計画に従い、時間外学習を必ず行うこと。学習時間の自らの確保と保障は本講義受講において、必須とする。 <事前学習>事前学習課題に基づく学習を必須とする。テキストや参考文獻資料に目を通し、専門用語の意味を含め、各回での学習内容について、事前の基礎学習を行うこと。また、講義理解のため、子どもや子育て家庭を取り巻く現在社会の状況について社会制度や生活課題等に関するニュースに目を通しておくこと。 <事後学習>毎回の講義の内容について振り返りを行うとともに、講義において示される学習課題について、能動的に取り組み提出を必ず行うこと。それらを通して、講義内容の理解を深め、講義の中で得られた自らの疑問や課題について、担当教員への質問だけではなく、図書資料等を用いながら学習を深めること。 ②フィードバックの方法等：専門的学習成果の評価における評価内容のフィードバックの方法は、以下の通りとする。 ▶学習内容を学習ノートに指示された通り段階的にファイリングし、自らの学習の成果を視覚的に捉えることが可能となるよう取り組むこと。 評価基準の補足は、以下の通りであり、自己学習のフィードバックの際の参考とすること。 ▶グループワークやワーク課題に関しては、ワークを通して得られる成果のみならず、ワーク活動への参加を含めた活動のプロセスも同様に評価される。 ▶事前・事後の学習に伴う提出課題は、各個人での取り組みが必要となるため、その取り組みのプロセスについても同様に評価される。</p>											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション・保育者の定義	ワークシートの提出及び授業課題の提出 確認テスト
	学習成果	保育者の定義について理解し、その社会的意義について説明ができる。	
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告	
2回	授業内容	保育者の役割と倫理	
	学習成果	保育者の役割について理解し、幼児教育や保育におけるその必要性について、説明ができる。	
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告	
3回	授業内容	教職の社会的意義	
	学習成果	教職の役割について理解し、幼児教育や保育における教職の意義とその必要性について説明ができる。	
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告	
4回	授業内容	保育者に求められる資質 (1) 理想的な保育者像	
	学習成果	自らの理想的保育者像について言語化することができ、グループワークを通し、他者の理想像を学ぶことで、保育者の理想像について報告・検討することができる。	
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告	
5回	授業内容	保育者に求められる資質 (2) 体験の中の保育者理解	グループワーク ワーク評価・相互評価
	学習成果	保育者に必要とされる資質・能力について理解し、その育成のために必要な取り組みについて、グループワークにおいて、積極的に報告・検討する。	
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告	
6回	授業内容	保育者の専門性 (1) 今保育者に求められること・信頼関係	ワークシートの提出及び授業課題の提出 確認テスト
	学習成果	保育者に求められる信頼関係について理解し、具体的に説明することができる。	
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告	
7回	授業内容	保育者の専門性 (2) 成長と省察	
	学習成果	保育者に求められる、省察について理解し、説明することができる。	
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告	
8回	授業内容	保育者の専門性 (3) 心を育てる保育	
	学習成果	子どもの心を育てる保育について、言語化することができる。	
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告	
9回	授業内容	保育者の職務 (1) 豊かな環境の構築	
	学習成果	保育者の職務である、環境構築について理解し、説明ができる。	
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告	
10回	授業内容	保育者の職務 (2) 欠格事由、信用失墜行為及び秘密保持義務等	
	学習成果	保育者としての欠格事由、信用失墜行為及び秘密保持義務等について理解し説明ができる。	
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告	
11回	授業内容	保育者の職務 (3) 危機管理	ワークシートの提出及び授業課題の提出 確認テスト
	学習成果	保育上の危機管理について、理解し説明ができる。	
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告	
12回	授業内容	保育者の職務 (4) 小学校との連携	
	学習成果	小学校との連携について、理解し説明することができる。	
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告	
13回	授業内容	保育者と同僚性	
	学習成果	保育者にとって必要とされる同僚との協働について理解し、自らの保育者としての働きについて自らの意見をグループワークにおいて伝え、学び合うことができる。	
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告	
14回	授業内容	質の向上と研修制度 (学び続けることの意義)	
	学習成果	学習し続ける専門職において、自らの実践を常に振り返り課題を見出すことの必要性を理解し、そのような保育者の働き方について言語化することができる。	
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告	
15回	授業内容	保育・保育者の課題と展望	
	学習成果	保育者として課題について理解し、言語化することができる。	
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告	

科目名	保育の心理学				担当者	山本 信 (実務家教員)						
区分	必修	2	単位	授業回数 15	15	回	授業 形態	講義	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、または email:yamamoto.makoto@seiwa.ac.jp への連絡 (学籍番号・氏名記載必須) とする。											
専門的 学習成果	①	子どもの発達について理解し、保育・教育における発達理解の意義について説明できる。										
	②	運動・言語・認知・社会性・感情など領域ごとの発達メカニズムとプロセスについて理解し、想定された保育場面における具体的な子どもの姿と関連付けて説明できる。										
	③	子どもの学習の原理について理解し、子どもの主体的な学習に必要とされる保育者の姿勢・能力について考察し、説明できる。										
	④	子どもの学びと遊びとの関連について理解・考察し、具体的な保育場面における保育者の役割について説明できる。										
	⑤	特別な配慮を必要とする子どもの特徴について理解し、子どもを取り巻く現在の状況とともに、保育現場においてどのような支援が行われているかについて説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	子どもの育ちに関する知識を身につけ、保育者としてどのように子どもを理解し支援していくことができるかについて考え表現することができる。(専門的学習成果①②③)										
	(2)	現代社会における保育者の役割を理解し、発達や学習に関する専門的知識を活用しながら自ら課題を見出し、学びに向かい続けることができる。(専門的学習成果①④⑤)										
授業概要	<p>発達についての知識を通じて乳幼児を理解し、支援・指導することの重要性について学ぶ。また、発達段階ごとの発達特徴とその変化を理解し、生涯発達の中での乳幼児期の位置づけをふまえた保育・教育のあり方について学ぶ。</p> <p>また、運動・言語・認知・感情・社会性などの領域ごとの発達プロセスについて学び、各領域が相互に関連していることを理解する。</p> <p>さらに、乳幼児の主体的な学びのメカニズムと保育・幼児教育との関連について理解し、発達や学びに関する専門的知識が、どのように保育現場において活用されていくべきかについて学ぶ。保育士としての実務経験をもとに保育現場における子どもの具体的な姿や発達障害等に関する現状や課題と照らし合わせながら授業を展開していく。</p>											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		ワークシート	30	ワークシート (2回) : 講義内容を踏まえ、テーマに沿ったレポートの評価を行う (各20点)。								
		小テスト	20	小テスト (2回) : 正答率に応じて評価を行う (各10点)								
		確認試験	50	これまでの学習内容に基づき、学習習熟度に関してのテストを実施し、評価を行う。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②・③にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①・④・⑤にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	本郷一夫・飯島典子 編者	『シードブック 保育の心理学』				建帛社						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	文部科学省	『幼稚園教育要領』(解説書含む)										
	厚生労働省	『保育所保育指針』(解説書含む)										
	内閣府・文部科学省・ 厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(解説書含む)										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	<p>①授業は、テキスト・参考資料・配付資料を中心に進める。また、授業計画に従い、時間外学習を必ず行うこと。</p> <p>＜事前学習 (週2時間程度)＞ : テキスト・参考資料を読み、専門用語の理解をはじめ、各回の学習内容について予習を行うこと。また、子どもを取り巻く社会状況の理解のために、新聞やニュース等から積極的な情報を取り入れ、学習内容と関連付けながら深く考える機会を多く持つこと。</p> <p>＜事後学習 (週2時間程度)＞ : 毎回の講義の内容について復習を行い、疑問や課題等については、担当教員への質問や参考資料・図書資料等を活用しながら理解を深めること。また、新聞・ニュース等で得られた情報と学習内容を結びつけながら、自分の考えを言葉や文字で表現できるようにし、レポートの作成等につなげること。</p> <p>②フィードバックの方法については、以下の通りとする。</p> <p>＜小テスト＞テストの実施後に解答・解説を行う。</p> <p>＜ワークシート＞提出後2週間以内を目安に、評価のポイントを含めたコメントとともに返却する。</p>											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	子どもの発達を理解することの意義	1～2回の講義内容を踏まえ、ワークシートを提出。 テーマ:「保育者の専門性①:子どもの発達理解と保育」 第2回の授業終了後、1週間以内に提出(研究室)
	学習成果	発達と発達を規定する要因について理解し、保育者として発達を理解することの意義について説明することができる。	
2回	予習復習の内容	発達の定義を理解し、発達を理解することの意義について考えておくこと。表面的発達や潜在的発達について理解し、保育者がどのように子どもの発達を捉え、保育を行うべきかについて、具体的な言葉でまとめておくこと。	小テスト 5回目の授業後半にて実施 ○身体・運動の発達 ○認知発達
	授業内容	子どもの発達と保育	
3回	学習成果	様々な子どもと親や保育親・発達親について理解し、子どもの発達と環境や、養護と教育との一体性について説明することができる。	小テスト 5回目の授業後半にて実施 ○身体・運動の発達 ○認知発達
	予習復習の内容	子ども親の変遷や代表的な保育親について理解しておくこと。様々な保育親の理解を通して、子どもと環境との関わりについて理解を深め、養護と教育が一体となった保育を行う意義についてワークシートにまとめること。	
4回	授業内容	身体・運動の発達	小テスト 5回目の授業後半にて実施 ○身体・運動の発達 ○認知発達
	学習成果	胎児期からの身体の発達や、発達の方向性・順序性について理解し、運動発達の分類と関連させながら具体的な子どもの動きや姿を説明することができる。	
5回	予習復習の内容	新生児反射や、運動発達の方向性と順序性について、保育の中での具体的な子どもの姿をイメージしながら理解しておくこと。運動発達と他の発達領域との関連について調べ、理解を深めておくこと。	小テスト 9回目の授業後半にて実施 ○言語の発達 ○感情の発達 ○社会性の発達 ○仲間関係の発達
	授業内容	乳児期・幼児期前期の認知発達	
6回	学習成果	知覚・模倣・表象の発達や代表的な発達理論について理解し、認知発達と関連した乳児期・幼児期前期の子どもの姿について説明することができる。	小テスト 9回目の授業後半にて実施 ○言語の発達 ○感情の発達 ○社会性の発達 ○仲間関係の発達
	予習復習の内容	認知発達の代表的な理論(ピアジェ理論)について理解しておくこと。認知が発達することにより、乳幼児ができるようになること、理解することについて具体的に説明できるように、まとめておくこと。	
7回	授業内容	幼児期後期・児童期の認知発達	小テスト 9回目の授業後半にて実施 ○言語の発達 ○感情の発達 ○社会性の発達 ○仲間関係の発達
	学習成果	実行機能やメタ認知の発達について理解し、心の理論や科学的概念の獲得のメカニズムについて説明することができる。	
8回	予習復習の内容	認知発達に関する専門的用語について調べ、具体的な子どもの姿とともに理解しておくこと。認知発達と他の発達領域との関連について調べ、理解を深めること。	小テスト 9回目の授業後半にて実施 ○言語の発達 ○感情の発達 ○社会性の発達 ○仲間関係の発達
	授業内容	言語の発達	
9回	学習成果	感情の分化や感情理解の発達について理解し、子どもの生活において感情がどのような役割を果たしているか、感情の発達とはどのようなことかについて具体的に説明することができる。	小テスト 9回目の授業後半にて実施 ○言語の発達 ○感情の発達 ○社会性の発達 ○仲間関係の発達
	予習復習の内容	感情が発達するとはどのようなことかを考え、調べておくこと。他者の感情理解や、感情を適切に調整するためには何が必要であるかについて考え、非認知能力の発達との関連について理解を深めること。	
10回	授業内容	社会性の発達	小テスト 9回目の授業後半にて実施 ○言語の発達 ○感情の発達 ○社会性の発達 ○仲間関係の発達
	学習成果	自己意識や自己制御の発達について理解し、道徳性や規範意識を育むための要因について説明することができる。	
11回	予習復習の内容	社会性の発達に関連する要因について調べ、理解しておくこと。社会性が発達するということはどのようなことか、他の発達領域との関連について理解した上で自分の言葉で表現できるようにすること。	小テスト 9回目の授業後半にて実施 ○言語の発達 ○感情の発達 ○社会性の発達 ○仲間関係の発達
	授業内容	仲間関係の発達	
12回	学習成果	幼児期・児童期における仲間関係の発達について理解し、集団の中で子どもがどのように社会的スキルを獲得していくのか、社会化に向かっていくのかについて具体的な場面を挙げて説明することができる。	小テスト 9回目の授業後半にて実施 ○言語の発達 ○感情の発達 ○社会性の発達 ○仲間関係の発達
	予習復習の内容	社会的スキルや社会化など、仲間関係に関する用語について調べ、理解しておくこと。個々の発達に加え、クラス集団の発達を捉えていくことの意味について理解を深めること。	
13回	授業内容	子どもの学びと発達	ワークシート 14回目の授業終了時に提出 ○特別な配慮を必要とする子どもの特徴と支援 ○子どもの発達と現代的課題 ○発達と学びの連続性・就学移行支援
	学習成果	学習の原理について理解し、意欲や動機づけの役割を理解しながら子どもの学びを支えるための保育者の役割について説明することができる。	
14回	予習復習の内容	保育の中で、子どもの学びがどのように展開されているのか自分なりに調べておくこと。学びを促すために、保育者がすべきことは何か、自分の言葉で表現できるようにすること。	ワークシート 14回目の授業終了時に提出 ○特別な配慮を必要とする子どもの特徴と支援 ○子どもの発達と現代的課題 ○発達と学びの連続性・就学移行支援
	授業内容	生活と遊びを通した学び	
15回	学習成果	生活や遊びがどのように学びにつながっているのかについて理解しておくこと。保育のあらゆる場面において、それらがどのような学びにつながっているかを考え、プレゼンテーション資料の作成を行うこと。	ワークシート 14回目の授業終了時に提出 ○特別な配慮を必要とする子どもの特徴と支援 ○子どもの発達と現代的課題 ○発達と学びの連続性・就学移行支援
	授業内容	特別な配慮を必要とする子どもの特徴と支援	
16回	予習復習の内容	障害の分類や主な症状について調べ、理解しておくこと。子どもの発達・学びを保障するための「特別な配慮」とはどのようなことを具体的に考え、理解を深め、表現できるようにすること。	ワークシート 14回目の授業終了時に提出 ○特別な配慮を必要とする子どもの特徴と支援 ○子どもの発達と現代的課題 ○発達と学びの連続性・就学移行支援
	授業内容	子どもの発達と現代的課題	
17回	学習成果	子どもを取りまく現代社会における様々な課題やそれらが子どもにも発達へ及ぼす影響について理解し、現代社会の特質を踏まえた具体的な保育・教育について語ることができる。	ワークシート 14回目の授業終了時に提出 ○特別な配慮を必要とする子どもの特徴と支援 ○子どもの発達と現代的課題 ○発達と学びの連続性・就学移行支援
	予習復習の内容	就学支援やスタートアップカリキュラムについて調べ、理解しておくこと。現代社会における様々な課題についてまとめ、その中で保育者の役割や、専門的知識の活用について考え、理解を深めること。	
18回	授業内容	発達と学びの連続性・就学移行支援	ワークシート 14回目の授業終了時に提出 ○特別な配慮を必要とする子どもの特徴と支援 ○子どもの発達と現代的課題 ○発達と学びの連続性・就学移行支援
	学習成果	これまでの学習内容について理解し、就学に向けての現在の取り組みや課題を踏まえて、保育者としてどのようにあるべきか、どのような環境構成をしていくべきかについて、自らの思いを含めて説明することができる。	
19回	予習復習の内容	これまでの学習内容を理解し、乳幼児期の育ちにおいて「保育」が果たすべき役割について考え、自らの言葉で表現できるようにすること。発達や学びに関する専門的知識の活用について考え、それらをふまえた自らの学習についても評価を行うこと。	ワークシート 14回目の授業終了時に提出 ○特別な配慮を必要とする子どもの特徴と支援 ○子どもの発達と現代的課題 ○発達と学びの連続性・就学移行支援
	授業内容	発達・学びの多様性と発達の機能関連、振り返りとまとめ	
20回	学習成果	各発達領域が互いに関連しながら、どのように子どもの育ちや適応に影響を及ぼしているかについて振り返り、自らの言葉で説明することができる。	ワークシート 14回目の授業終了時に提出 ○特別な配慮を必要とする子どもの特徴と支援 ○子どもの発達と現代的課題 ○発達と学びの連続性・就学移行支援
	予習復習の内容	各領域の発達プロセスやメカニズムについて理解し、領域間の関連や、学びとの連続性について理解を深めておくこと。また、本講義のまとめとして、学習内容の振り返りを行い、自らの学習成果に関して具体的な評価を実施すること。	

科目名	子どもの保健				担当者	トウカイリン ハツ ヌ 東海林 初 枝						
区 分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		連絡や質問は、クラスルームよりメールで連絡すること。学籍番号と氏名、用件を明記すること。										
専門的 学習成果	①	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義について説明できる。										
	②	子どもの身体的な発育・発達と保健について説明できる。										
	③	子どもの心身の健康状態とその把握の方法について説明できる。										
	④	子どもの疾病の予防方法と適切な対応について説明できる。										
	⑤	子どもの健やかな育ちを支援する多職種間の連携・協働について説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	子どもの身体的な発育・発達に関する専門的知識を修得し、保育及び保健活動に必要な基礎的な技能を高める（専門的学習成果①②に関連）										
	(2)	子どもの健康増進及び疾病予防と適切な対応について理解を深め、保育及び保健活動に必要な基礎的な技能を高める（専門的学習成果③④に関連）										
	(3)	地域における多職種連携・協働について理解を深め、保育者の社会的役割を果たすための基礎的な技能を高める（専門的学習成果⑤に関連）										
授業概要	この授業は、保育士養成カリキュラム「子どもの保健」に対応している。授業にて扱う内容は、子どもの心身の健康と保健の意義、子どもの身体的発育・発達と保健、子どもの心身の健康状態とその把握、子どもの疾病予防及び適切な対応、である。保育者が子どもや養育者のニーズを適切にとらえ、保育のスペシャリストとしての活動が展開できるようにするために、子どもそのものはもちろんのこと、子どもを取り巻く社会情勢、各種制度の内容が理解できるようにすることを旨とする。また、子どもの健やかな育ちを支援するためには、多職種による連携についての理解も重要であることから、それらの基盤となる内容も扱う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	20	テーマ：15回終了後提示する。レポートは、テーマに沿って論理的に述べているかを観点に評価する。								
		筆記試験	60	「学習成果の評価」に示す内容について単元の区切り時に小テストを実施する。								
	平常点	20	毎回振り返りシート（授業における学び）を提出する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習の成果は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①及び②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③及び④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果⑤で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	大澤 真木子 / 小国 美也子	『保育者・養護教諭を目指す人のための子どもの保健～健康と安全～第2版増補版』				へるす出版						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	医療情報科学研究所	『公衆衛生がみえる2025-2026』				メディックメディア						
	白木和夫 / 高田 哲	『ナースとコメディカルのための小児科学』				日本小児医事出版						
	厚生労働省	『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン（平成23年3月）』										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	厚生労働省	『2012年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン（平成24年11月）』										
	①準備学習等履修上の留意点 ・事前学習：教科書、配付資料をよく読んで授業に臨むこと。よく分からない部分や言葉は、調べるまたは、授業内で質問できるよう準備しておくこと。（予習：週2時間程度）・事後学習：毎回必ず振り返りシート「授業における学び」を期限内に提出すること。また、授業内で取り組むワークシートを整理、見直し小テストに備えること。（復習：週2時間程度） ②課題に対するフィードバックの方法：「授業における学び」の傾向及び質問を踏まえ、授業中に全体にフィードバックする。											

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	ガイダンス 子どもの心身の健康と保健の意義①	1～3回の内容のまとめテストを4回授業の前半に行う。	
	学習成果	乳幼児期の健康目標と保育施設における保健活動を理解する		
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返りシートを提出する			
2回	授業内容	子どもの心身の健康と保健の意義②		
	学習成果	乳児期の健康目標と保育施設における保健活動を理解する		
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返りシートを提出する			
3回	授業内容	まとめテスト1 / 子どもの身体的発育・発達と保健① 体格		
	学習成果	乳幼児期の身長・体重の発育、発育評価について理解する		
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返りシートを提出する			
4回	授業内容	子どもの身体的発育・発達と保健② 運動機能		4～6回の内容のまとめテストを7回授業の前半に行う。
	学習成果	乳幼児期の運動機能の発達の特徴を理解する		
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返りシートを提出する			
5回	授業内容	子どもの身体的発育・発達と保健③ 生理機能（呼吸・循環）		
	学習成果	乳幼児期の呼吸・循環の発達・特徴を理解する		
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返りシートを提出する			
6回	授業内容	子どもの身体的発育・発達と保健④ 生理機能（神経系・骨・歯）		
	学習成果	乳幼児期の神経系・骨と歯の発達を理解する		
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返りシートを提出する			
7回	授業内容	まとめテスト2 / 子どもの身体的発育・発達と保健④ 生理機能（感覚機能）		
	学習成果	乳幼児期の感覚機能の発達を理解する		
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返りシートを提出する			
8回	授業内容	子どもの身体的発育・発達と保健④ 生理機能	7～10回の内容のまとめテストを11回授業の前半に行う。	
	学習成果	乳幼児期の生理機能（内分泌・免疫）の発達を理解する		
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返りシートを提出する			
9回	授業内容	子どもの身体的発育・発達と保健⑤（体温・睡眠）		
	学習成果	乳幼児期の体温・睡眠の特徴及び健康状態の観察の視点を理解する		
予習復習の内容	テキスト、資料、ワークシートの見直し。終了後振り返りシートを提出する			
10回	授業内容	身体的発育・発達と保健⑥（消化・排泄機能）		
	学習成果	乳幼児期の消化・排泄機能の特徴及び健康状態の観察の視点を理解する		
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返りシートを提出する			
11回	授業内容	まとめテスト3 / 子どもの健康状態の把握		
	学習成果	健康診断の意義、保護者との情報共有について理解する		
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返りシートを提出する			
12回	授業内容	子どもの疾病の予防及び適切な対応①	11～13回の内容のまとめテストを14回授業の前半に行う。 15回終了後、提示するテーマについて、800字程度でレポートする。	
	学習成果	主な疾病の特徴、良く見られる症状について理解する		
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返りシートを提出する			
13回	授業内容	子どもの疾病の予防及び適切な対応②		
	学習成果	子どもの発育と感染症、予防接種について理解する		
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返りシートを提出する			
14回	授業内容	子どもの疾病の予防及び適切な対応③		
	学習成果	保育施設にける感染症対策について理解する		
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返りシートを提出する			
15回	授業内容	まとめテスト4 / 地域における保健活動		
	学習成果	子どもの健やかな育ちを支援する多職種間の連携・協働について理解する		
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返りシートを提出する			

科目名	子どもの食と栄養				担当者	岩田教子						
区分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
授業時間数	30											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	各授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	栄養に関する基本的知識を理解し、その内容を説明できる。										
	②	子どもの発育・発達と食生活について関連づけることができる。										
	③	食育の重要性について理解し、実践につなげることができる。										
	④	食生活全般について改善する方法や対策を考える力を習得し、実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる子どもの食と栄養について理解し、子どもの食生活を支援するための基礎的な技能を身につける。(専門的学習成果①②③)										
	(2)	栄養の重要性について理解し、自分自身が各ライフステージにおいてよりよい食生活を営み、さらには子どもや保護者に対して適切な支援ができる。(専門的学習成果③④)										
授業概要	子どもの健やかなよりよい成長と生涯にわたる健康への第一歩となる食・栄養に関する基礎的な知識を習得し、食生活全般について改善する方法や対策を考える力を模索する。また、それぞれの時期に望ましい食生活のあり方について、実践例も踏まえながら理解を深め、子どもの発育・発達と栄養・食の関連性について学ぶ。さらには、食育の重要性について理解し、子どもの発育・発達に応じた食を営む力を身につけるための支援方法や他職種間の連携による食育の実践について理解する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	全15回分の授業内容の理解について、筆記試験を行い評価する。								
		レポート	9	3回実施する。評価については各回3%を配点する。								
		課題作成	7	食育の実際への取り組み・意欲・態度・提出状況により評価する。								
		小テスト	24	8回実施する。評価については、各回3%を配点する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記のとおり、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1)は、専門的学習成果①・②・③にて評価を行う。 (2)は、専門的学習成果③・④にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	飯塚美和子 他	『最新子どもの食と栄養』				学建書院						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
		『授乳・離乳の支援ガイド』				厚生労働省						
	公益財団法人児童育成協会監修	『子どもの食と栄養』				中央法規						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと(予習:週2時間程度)。事後学習としては、単元ごとに小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりとすること(復習:週2時間程度)。 ②小テストのフィードバックは実施後に正解を示し、解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	子どもの健康な生活と食生活の意義	
	学習成果	子どもの食生活の実態や特徴について理解する。	
	予習復習の内容	子どもの食生活の実態や特徴について整理する。	
	授業内容	栄養に関する基礎的知識(1) 五大栄養素	
2回	学習成果	五大栄養素について理解する。	○小テスト(1) 五大栄養素
	予習復習の内容	五大栄養素の種類や機能について整理する。	
3回	授業内容	栄養に関する基礎的知識(2) バランスのよい食事	○レポート(1) バランスのよい食事について
	学習成果	バランスのよい食事について理解する。	
	予習復習の内容	食事バランスガイドを実践し食事のバランスについて考察する。	
	授業内容	栄養に関する基礎的知識(3) 日本人の食事摂取基準2020	
4回	学習成果	日本人の食事摂取基準2020について理解する。	○レポート(2) 日本人の食事摂取基準について
	予習復習の内容	日本人が1日に必要なエネルギー、栄養素の量について理解する。	
5回	授業内容	子どもの発育・発達の基本	○レポート(3) 子どもの発育発達について
	学習成果	子どもの発育・発達の概要及び発育曲線を用いた発育の評価方法について理解する。	
	予習復習の内容	子どもの発育・発達と評価方法について考察する。	
	授業内容	胎児期(妊娠期)の食生活	
6回	学習成果	胎児期の発育と妊娠期の食生活の関連について理解する。	○小テスト(2)・胎児期(妊娠期)の食生活
	予習復習の内容	妊娠期の栄養と食生活で注意すべき点について理解する。	
7回	授業内容	乳児期の授乳の意義と食生活(1) 母乳栄養について	○小テスト(3) ・母乳栄養について ○小テスト(4) ・人工乳栄養及び混合栄養について
	学習成果	母乳栄養の利点や成分、進め方及び支援方法について理解する。	
	予習復習の内容	母乳栄養の特徴について理解し、保育者として必要な知識をまとめておく。	
	授業内容	乳児期の授乳の意義と食生活(2) 人工乳栄養及び混合栄養について	
8回	学習成果	育児用ミルクの種類や特徴について理解し、授乳方法及び支援方法について理解する。	
	予習復習の内容	人工乳栄養及び混合栄養の特徴について理解し、保育者として必要な知識をまとめておく。	
9回	授業内容	乳児期前半の離乳の意義と食生活(1) 初期・中期	○小テスト(5)・離乳の意義と食生活①
	学習成果	離乳食前半の意義、進め方について理解する。	
	予習復習の内容	離乳食の具体的な進め方を知り、説明出来るようにする。	
	授業内容	乳児期後半の離乳の意義と食生活(2) 後期・完了期	
10回	学習成果	離乳食後半の意義、進め方について理解する。	○小テスト(6)・離乳の意義と食生活②
	予習復習の内容	離乳食の具体的な進め方を知り、説明出来るようにする。	
11回	授業内容	幼児期の心身の発達と食生活	○小テスト(7)・幼児期の食生活
	学習成果	幼児期の心身の発達と食生活を関連づけて理解し、具体的な支援方法について理解する。	
	予習復習の内容	幼児期の食生活の実態や問題点について整理する。	
	授業内容	食物アレルギーのある子どもへの対応	
12回	学習成果	食物アレルギーの種類や対応について理解する。	○小テスト(8)・食物アレルギー
	予習復習の内容	食物アレルギーの種類について整理し、保育者として具体的な対応についてまとめておく。	
13回	授業内容	食育の基本と内容(1) 概要	○課題作成 グループ毎にテーマに沿ってグループワークを行う。
	学習成果	食育の内容と評価、食をとおした支援について理解する。	
	予習復習の内容	食育の概要について理解する。	
	授業内容	食育の基本と内容(2) 食育の実際	
14回	学習成果	食育について課題を追求し考察することができる。	
	予習復習の内容	食育について考察し、意見をまとめる。	
15回	授業内容	食育の基本と内容(3) これまでの授業の振り返りとまとめ	○定期試験時に筆記試験を実施する。 これまでの学習内容についての学習理解を計る。
	学習成果	食育の内容について理解する。	
	予習復習の内容	この授業の内容全体について整理・確認する。	

科目名	保育・教育課程論					担当者	コシノガ イチ 朗 小森谷 一 朗					
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
授業時間数	30 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワー及びemail。オフィスアワー及びemail addressは初回の授業時に連絡する。											
専門的 学習成果	①	幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格及び位置付けについて説明できる。										
	②	幼稚園教育要領や保育所保育指針の改訂（定）の変遷及び改訂（定）内容について説明できる。										
	③	カリキュラム・マネジメントの意義や重要性、評価の基礎的な考え方について説明できる。										
	④	教育課程編成や全体的な計画作成の目的や基礎原理を理解し、教育・保育目標に沿った指導計画の構想の仕方を説明できる。										
	⑤	保育の評価を支える保育記録の重要性やその役割、実際の活用の仕方について説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	教育課程や全体的な計画の概要を学ぶことを通して、保育者に必要とされる専門的知識を習得し、実践につなげることができる。（専門的学習成果①②③）										
	(2)	子どもの興味や関心とそれを取り巻く環境を知り、支援の内容と方法に関する知識や技能を身につけ、援助ができる。（専門的学習成果④⑤）										
授業概要	教育課程・全体的な計画についてその意義・変遷や編成方法を理解するとともに、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の変遷、意図、考え方を学ぶ。また、具体的な教育課程・全体的な計画の展開、それを基にした長期・短期の指導計画について学ぶことを通して、保育者の役割を理解し、必要な能力について考え、実践する方法を学ぶ。最後に、小学校やその後の教育を見通した学びの土台づくりとしての幼児期という捉えでカリキュラムを考える。幼稚園教諭、小学校教諭としての実務経験をもとに実際の教育・保育目標及び保育内容や計画と保育記録との関係性の実態と照らし合わせながら授業を展開し、学生が自ら指導計画の立案ができることを目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		リアクション ペーパー	30	授業内容を踏まえたリアクションペーパーの内容を評価する。(@2点×15回)								
		テスト	30	正答率に応じて評価する。(@15点×2回)								
		レポート	30	授業内容を踏まえたレポートの内容を評価する。(@15点×2回)								
	ワークシート	10	授業内で取り組むワークシートの内容を評価する。(@10点×1回)									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②・③にて評価を行う。 (2) は、専門的学習評価④・⑤にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名				
	飯島典子・佐藤哲也 編著	『根付く・伸びる・発展することの遊び－主体性をはぐむ保育の手法とICTの活用－』						建帛社				
	飯島典子・本郷一夫 編著	『子どもの理解と援助』						建帛社				
	文部科学省	『幼稚園教育要領』						フレーベル館				
	厚生労働省	『保育所保育指針』						フレーベル館				
	内閣府・文部科学省・ 厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』						フレーベル館				
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業は、テキスト・参考資料・配布資料を基にして進める。また、授業計画に従い、時間外学習を必ず行うこと。 【事前学習（予習）週2時間程度】 テキストや事前に指示した内容、事前配布資料などを読み、分からない言葉は調べておくこと。特に、授業内容に関連する部分については、事前に関係する文献を読み理解を深めておくこと。 【事後学習（復習）週2時間程度】 毎回の学習内容を振り返りを行い、要点や疑問点、課題などについてまとめておくこと。テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりと行うこと。 ②フィードバックについては以下の通りとする。 【リアクションペーパー・レポート】実施後に記述のポイントとなる点を授業の中で解説する。 【テスト】実施後に授業の中で解答・解説する。 【ワークシート】実施後に授業の中で模範となる例を示し、解説する。											

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	カリキュラム（教育課程）とは	【リアクションペーパー①】	
	学習成果	カリキュラム（教育課程）とは何か、また、カリキュラムの類型とその特徴などについて理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	予習：シラバスを熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。		
2回	授業内容	日本におけるカリキュラムの基礎理論	【リアクションペーパー②】	
	学習成果	我が国の幼稚園教育要領や保育所保育指針等の変遷や幼児期の教育課程の歴史について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。		
3回	授業内容	保育における計画と評価の意義	【リアクションペーパー③】	
	学習成果	保育における計画と評価の意義やその重要性について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。		
4回	授業内容	カリキュラム・マネジメント	【リアクションペーパー④】	
	学習成果	カリキュラム・マネジメントの意義について理解し、PDCAサイクルによる保育の質の向上について説明できる。		
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。		
5回	授業内容	幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園の教育課程・全体的な計画	【リアクションペーパー⑤】 【ワークシート①】	
	学習成果	三つの要領・指針の内容について比較し、共通点や相違点を見出すとともに、改訂（定）のねらいについて説明できる。	・グループワークでの討議を踏まえてまとめる。	
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。		
6回	授業内容	幼稚園の教育課程	【リアクションペーパー⑥】	
	学習成果	幼稚園における教育課程の役割と編成について、その法的根拠に基づいて説明できる。	【テスト①】 ・第6回後半に実施 ・第1～4回の内容	
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。		
7回	授業内容	保育所の全体的な計画	【リアクションペーパー⑦】	
	学習成果	保育所における全体的な計画の役割と編成について、その法的根拠に基づいて説明できる。		
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。		
8回	授業内容	幼保連携型認定こども園の全体的な計画	【リアクションペーパー⑧】	
	学習成果	幼保連携型認定こども園における全体的な計画の役割と編成について、その法的根拠に基づいて説明できる。	【レポート①】 ・第6～8回に学習した内容を踏まえてまとめる。 ・第8回終了後1週間以内に提出	
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。		
9回	授業内容	長期の指導計画	【リアクションペーパー⑨】	
	学習成果	指導計画の基本的な考え方について理解し、長期の指導計画作成の意義やその構成について説明できる。		
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。		
10回	授業内容	短期の指導計画	【リアクションペーパー⑩】	
	学習成果	指導計画の基本的な考え方について理解し、短期の指導計画作成の意義やその構成について説明できる。		
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。		
11回	授業内容	3歳未満児の指導計画	【リアクションペーパー⑪】	
	学習成果	乳児保育や1歳以上3歳未満児の視点について理解し、指導計画作成の基礎やその後の実践展開についての概要を説明できる。		
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。		
12回	授業内容	3歳以上児の指導計画	【リアクションペーパー⑫】	
	学習成果	3歳以上児の発達の特徴を理解し、指導計画作成の基礎やその後の実践展開についての概要を説明できる。	【レポート②】 ・第9～12回に学習した内容を踏まえてまとめる。 ・第12回終了後1週間以内に提出	
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。		
13回	授業内容	保育の省察と保育記録	【リアクションペーパー⑬】	
	学習成果	保育の省察を支える保育記録の重要性や省察による保育の質の向上について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。		
14回	授業内容	小学校との接続	【リアクションペーパー⑭】	
	学習成果	幼児教育と小学校教育のカリキュラムの違いについて理解し、小学校との接続を踏まえた幼児教育の考え方やその方法について説明できる。		
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。		
15回	授業内容	生活の発達と連続性	【リアクションペーパー⑮】	
	学習成果	入園から修了までの生活と発達の連続性を踏まえて要録を作成することの重要性を理解し、説明できる。	【テスト②】 ・第15回後半に実施 ・13～15回の内容	
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。		

科目名	保育内容指導法「健康」				担当者	コンノ マイ						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		研究室への訪問、またはメール (konno.mai@m.seiwa.ac.jp) への連絡とする。 授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	領域「健康」のねらい及び内容を理解し、小学校への接続を視野に乳幼児に向けた指導法について考えることができる。										
	②	幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。										
	③	領域「健康」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上や改善に取り組むことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	乳幼児期の健康に関わる専門的知識および現代的課題や保育実践の動向について説明できる。(専門的学習成果①③)										
	(2)	領域「健康」に関わる保育指導を想定し、主体的に教養を深めながら、他者と協同して実践に活かそうとすることができる。(専門的学習成果②③)										
授業概要	領域「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解し、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を身に付ける。現代的課題や保育の取り組みについて興味をもち、子ども理解や支援に結びつけることができるよう、保育者を目指す者としての協働を意識しながらグループワークに取り組む。乳幼児期の健康に関わる生活習慣や心身の発育・発達、運動発達の特徴の理解を深め、適切な指導方法を身に付ける。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	40	筆記試験を2回実施し、評価を行う。								
		課題	40	課題、レポートの内容、提出、体裁、文脈、独創性で評価を行う。								
	平常点	20	授業およびグループワークへの態度・関心・意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により行う。 (1) は専門的学習成果①③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	清水将之 他		『保育内容・領域 健康指導法』						わかば社			
	柴田卓・石森真由子		『楽しく学ぶ運動遊びのすすめ』						株式会社みらい			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	文部科学省		『幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説』						フレーベル館			
	厚生労働省		『保育所保育指針・保育所保育指針解説』						フレーベル館			
	内閣府・文部科学省・厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』						フレーベル館			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①この科目では時間外学習(15時間)として、<事前学習>幼稚園教育要領および保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の当該箇所を各自で読み理解を深めること。また、乳幼児の健康、生活習慣、食育、安全、運動に関連するニュースについて目を通しておくこと。<事後学習>小テストに向けた復習、講義内で提示される課題への取り組みをすること。 ②小テストに対するフィードバックは実施後に正解を示し、解説する。課題についてはグループ発表形式で実施され発表内容と合わせてフィードバックを実施する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	領域「健康」のねらい及び内容の理解	○小テスト 7回目に実施 模擬保育で取り組んだテーマも含め、1回から6回までの内容を対象とする。テスト終了時にフィードバックを行う。 ○レポート、課題提出 模擬保育に関連したテーマについて、授業内で指定された期日を厳守すること。また、そのレポートや課題、取り組みなどの評価は随時フィードバックする。
	学習成果	ねらい、内容、内容の取り扱いを踏まえ、幼児と健康の内容を振り返る。	
予習復習の内容	教育要領、保育指針、保育・教育要領の健康に関する部分を読み込んでおく。		
2回	授業内容	基本的生活習慣の形成を支える援助	
	学習成果	乳幼児の生活習慣に関する現状と保育計画を知る。	
予習復習の内容	テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。		
3回	授業内容	健康管理と安全能力を育む援助	
	学習成果	乳幼児の安全に関する現状と保育計画を知る。	
予習復習の内容	テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。		
4回	授業内容	健康な心と体を育む保育の構想 計画立案1	
	学習成果	テーマに沿った内容を調査し、保育指導を計画する。	
予習復習の内容	テーマに関する情報収集と指導案の立案		
5回	授業内容	健康な心と体を育む保育の構想 教材研究1	
	学習成果	保育指導計画に基づき、教材研究・準備をする。	
予習復習の内容	指導案に基づいた教材研究		
6回	授業内容	健康な心と体を育む保育の実践 模擬保育1	
	学習成果	模擬保育を通して、専門的知識およびテーマの理解を深める。	
予習復習の内容	ロールプレイを通じた指導法の理解や反省をまとめる。		
7回	授業内容	健康な心と体を育む保育の評価と改善1	
	学習成果	乳幼児あるいは保護者、環境構成としての指導方法等について課題を見出す。	
予習復習の内容	他者との連携、あるいは学び合いから自己課題を見出す。		
8回	授業内容	多様な動きの経験を促す援助	
	学習成果	乳幼児の動きや運動あそびに関する現状と保育計画を知る。	
予習復習の内容	テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。		
9回	授業内容	領域「健康」における心身の発達の特徴を踏まえた環境構成と援助	
	学習成果	乳幼児期を支える環境構成と保育実践方法を考える。	
予習復習の内容	テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。		
10回	授業内容	健康な心と体を育む保育の構想 計画立案2	
	学習成果	テーマに沿った内容を調査し、保育指導を計画する。	
予習復習の内容	テーマに関する情報収集と指導案の立案		
11回	授業内容	健康な心と体を育む保育の構想 教材研究2	
	学習成果	保育指導計画に基づき、教材研究・準備をする。	
予習復習の内容	指導案に基づいた教材研究		
12回	授業内容	健康な心と体を育む保育の実践 模擬保育2	
	学習成果	模擬保育を通して、専門的知識およびテーマの理解を深める。	
予習復習の内容	ロールプレイを通じた指導法の理解や反省をまとめる。		
13回	授業内容	健康な心と体を育む保育の評価と改善2	
	学習成果	乳幼児あるいは保護者、環境構成としての指導方法等について課題を見出す。	
予習復習の内容	他者との連携、あるいは学び合いから自己課題を見出す。		
14回	授業内容	乳幼児期に育まれる健康な心と体と小学校へのつながり	
	学習成果	乳幼児期の健康に関わる幼保小の連携の実際と課題について知る。	
予習復習の内容	テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。		
15回	授業内容	領域「健康」をめぐる現代的課題と保育実践	
	学習成果	乳幼児期の健康に関連する外部組織の現状や連携について知る。	
予習復習の内容	テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。		

科目名	保育内容指導法「環境」				担当者	宮本美和子（実務家教員）						
区分	選択	1	単位	授業回数 15	回	授業 形態	演習	学年	1年	開講期	後期	
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室の訪問及び e-mail（miyamoto.miwako@seiwa.ac.jp）。オフィスアワーは初回授業時に連絡する。											
専門的 学習成果	①	領域「環境」のねらい及び内容を子どもの生活と関連付けて説明できる。										
	②	幼児が経験し身に付けていく保育内容と指導上の留意点を理解し、保育構想に活用することができる。										
	③	領域「環境」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用方法を理解し、指導案を作成できる。										
	④	模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点について説明することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	指導に関する領域の専門的知識と基礎的な技術を習得し、豊かな感性と表現力を養う。（専門的学習成果①②③④）										
	(2)	子どもを取り巻く環境を理解し、他者との協働と協調の中で子どもに必要な経験と保育者の援助について学び続ける力を培う。（専門的学習成果③④）										
授業概要	子どもの発達における環境の意義を知り、子どもの生活の中で「環境とかかわる力」の発達を支えているものと、その中で体験していることを理解する。また、教育要領と保育指針の領域「環境」のねらいと内容、内容の取扱いを他の領域と関連させて学ぶ。さらに、実践事例から具体的な援助と留意点を検討し、保育の展開とその改善のための評価の視点を養う。そして、具体的な指導場面を想定し、子どもの発達や学びの過程をふまえた指導法について深く理解する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		ワークシート	40	授業内容を踏まえたワークシートの内容を評価する。								
		小テスト	20	正答率に応じて評価する。								
		課題	30	内容を評価する。								
		平常点	10	授業の参加態度を評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果は、上記の通り専門的な学習成果の評価により評価を行う (1) は専門的学習成果①②③④で評価を行う (2) は専門的学習成果③④で評価を行う											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	小櫃智子編著	『実践例から学びを深める 保育内容・領域 環境指導法』				わかば社						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	文部科学省	『幼稚園教育要領解説』										
	厚生労働省	『保育所保育指針解説』										
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキスト、参考資料、自然教材を基にして授業を進める。植物栽培とその観察を含む、時間外学習を必ず行うこと。事前学習としてテキスト、参考文献を読み、予習しておくこと。事後学習として、授業内容の復習を行い、自身の身近な環境への関わりや時間外学習での経験を考え、保育内容の理解に努める。 ②提出されたワークシート、レポートに関しては、評価後授業内で解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	子どもと環境、子どもの生活の中で「環境とかかわる力」の発達について	・3回目終了後ねらいと内容に関する小テスト
	学習成果	子どもが身近な環境とどのようにかかわりを持つのか説明できる。	
	予習復習の内容	教科書 P8～10を読む。子どもの生活と遊びの環境についてまとめる。	
	授業内容	子どもの発達と領域「環境」のねらい・内容・内容の取扱い①1歳以上3歳未満児	
2回	学習成果	1歳以上3歳未満児の領域「環境」のねらいと内容について説明できる。	
	予習復習の内容	教科書 P18～22を読む。発達と1歳以上3歳未満児のねらいと内容のつながりをまとめる。	
3回	授業内容	子どもの発達と領域「環境」のねらい・内容・内容の取扱い②3歳以上児	
	学習成果	3歳以上児の領域「環境」のねらいと内容について説明できる。	
	予習復習の内容	教科書 P22～23を読む。領域「環境」と他領域の関係が説明できる。	
	授業内容	自然現象とのかかわり・生命尊重の保育実践	・ワークシートの記入、グループワークの参加態度
4回	学習成果	自然現象と生命尊重にかかわる保育実践の課題と対応について説明できる。	
	予習復習の内容	教科書 P60～65を読む。自身の経験と学習内容を照らし、生命尊重する保育についてまとめる。	
	5回	授業内容	自然とのかかわりの保育実践
	学習成果	自然とかかわる保育実践の配慮と留意点について説明できる。	
	予習復習の内容	自然とのかかわりの実践事例を読む。自然とかかわることでは育まれるものとかがわりを深めていくために必要なことをまとめる。	
6回	授業内容	ものとかかわりの保育実践	
	学習成果	ものとかかわりで育まれるものとその配置や工夫について説明できる。	
	予習復習の内容	保育場にあるものを調べる。身近な道具や素材との関わりと保育者の援助をまとめる。	
	7回	授業内容	数量・図形・文字への関心を育む保育実践
	学習成果	子どもの生活や遊びの中での数量・図形・文字とかかわりについて発達と関連付けて説明ができる。	
	予習復習の内容	子どもの生活と数量・図形・文字とかかわりの事例を読む。授業後は、授業内容と保育者の援助と環境構成を理解する。	
8回	授業内容	遊びを通じた総合的な指導の展開について	・教材研究と指導案の作成
	学習成果	子ども遊びの重要性と5領域の関連を説明できる。	
	予習復習の内容	教科書 P134～137を読む。子どもの興味・関心から始まる活動の展開の理解を深める。	
	9回	授業内容	社会生活とのかかわりと保育
	学習成果	社会・地域生活とのかかわりと保育実践のつながりを説明できる。	
	予習復習の内容	地域にある施設を調べる。地域・社会生活のかかわりを活かした保育についてまとめる。	
10回	授業内容	保育における行事	
	学習成果	保育における行事とその意義と指導計画とのつながりを説明できる。	
	予習復習の内容	伝承行事と社会的行事の内容と保育実践の留意点をまとめる。	
	11回	授業内容	指導計画と指導案の理解
	学習成果	指導計画と指導案のつながり、ねらいと内容に合わせた援助について説明できる。	
	予習復習の内容	配布した指導案を読む。指導案の基本的構成を理解する。	
12回	授業内容	模擬保育	・ワークシート記入、小テスト
	学習成果	模擬保育を通して導入、展開、まとめの流れを理解し、保育者の援助の意図を説明できる。	
	予習復習の内容	保育に必要な事前準備と保育者の援助を理解する。	
	13回	授業内容	模擬保育の振り返り
	学習成果	保育の振り返りの視点と自身の課題及び修正点について説明できる。	
	予習復習の内容	指導案の修正点を挙げ、具体的な対処を検討し、まとめる。	
14回	授業内容	伝承遊び	
	学習成果	伝承遊びについて知り、遊びの展開や工夫について説明できる。	
	予習復習の内容	伝承遊びとその由来を調べ、遊びの展開の工夫をまとめる。	
	15回	授業内容	小学校との連携・接続
	学習成果	幼児期の学びと保育、小学校との接続について説明できる。	
	予習復習の内容	教科書 P144～149を読む。幼児期と小学校との学びの連続性についてまとめる。	

科目名	保育内容指導法「表現（音楽）」					担当者	岩 淵 祺 子					
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。e-mail:iwabuchi.setsuko@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	子どもの発達と音楽的表現の発達を理解し、説明できる。										
	②	生活や遊びの中での子どもの音楽的表現を理解し指導することができる。										
	③	『幼稚園教育要領』領域「表現」のねらいと内容と『保育所保育指針』子どもの発達と保育の内容を理解して、指導や支援ができる。										
	④	子どもの発達に合わせた音楽的表現遊びの具体的な指導計画作成と実践ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	領域「表現」と保育者としての表現活動を理解し説明できる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	領域「表現」の幼児が経験身に付ける内容を理解し、指導を考えることができる。(専門的学習成果②③に関連)										
	(3)	表現活動の指導法を理解し、具体的な保育を想定した指導案作成ができる。(専門的学習成果③④に関連)										
	(4)	振り返りの方法や、課題抽出、指導計画の再構築の方法を理解して実践できる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	領域「表現」のねらい及び内容について他領域と関連させながら子どもの発達や学びの過程を理解する。具体的な指導場面を想定した模擬保育を行い、関わり方や指導法を身に付ける。幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」、幼児の自発的な活動である遊びや生活の中で、感性を働かせたり、気付き、経験が表現活動を通して育まれることを理解する。模擬保育実践を映像機器を使用して振り返り、課題を抽出する。情報機器を用いて保育指導計画案を作成し、柔軟な指導ができるようにする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	表現活動と指導法を理解し、テーマに沿ったレポートの評価を行う。								
		発表	50	保育指導案作成を基に行う模擬保育を評価する。								
平常点	20	授業への関心、意欲、態度、グループワークへの取り組みを評価する。										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③で評価を行う。 (3) は専門的学習効果③④で評価を行う。 (4) は専門的学習効果④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名				
	高御堂愛子 他編著	『楽しい音楽表現』						圭文社				
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名				
	文部科学省	『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示）										
	厚生労働省	『保育所保育指針』（平成29年3月告示）										
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示）										
	幼児表現教育研究会編著	『幼児のための表現指導－うたって、つくって、あそぼう』						音楽之友社				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。(予習：週2時間程度)事後学習としては、小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので、復習をしっかりとすること。(復習：週2時間程度) ②小テスト及びレポートに対するフィードバックは実施後に、解説を行う。 ③発表をビデオを用いて全体活動の振り返りを行い、フィードバックは映像確認後に講評を行う。											

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	表現のねらい及び内容（幼児の表現活動の分析（映像教材）にて）		○レポート 1回目の終了30分前で実施する。 ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の領域「表現」
	学習成果	幼児教育において育みたい資質・能力を幼児の生活する姿から捉えることができる。		
	予習復習の内容	「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」の領域「表現」のねらい及び内容を理解する。		
2回	授業内容	領域「表現」の他領域との関わり、領域「表現」を踏まえた保育構想		○小テスト 3回目の授業において手遊びの小テストを実施する。
	学習成果	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を5領域の内容を踏まえて理解することができる。		
	予習復習の内容	「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」の5領域のねらい及び内容を理解する。		
3回	授業内容	子どもの生活における領域「表現」		
	学習成果	子どもの音楽表現活動において発達の過程を理解することができる。		
	予習復習の内容	「保育所保育指針」年齢ごとの領域「表現」の内容と取り扱いを理解する。		
4回	授業内容	模擬保育に向けた保育構想と指導案の理解。		○発表 5回目で作自の手作り楽器を発表する。
	学習成果	子どもの音楽表現活動を考え、保育構想を指導案に作成できる。		
	予習復習の内容	「幼稚園教育要領」の領域「表現」のねらいと内容の理解を深めておく。		
5回	授業内容	映像（現場での実際の表現活動）を用いて模擬保育実施に向けた事前学習の提示。		
	学習成果	音楽表現活動を事例に沿って理解し、保育構想を指導案に作成できる。		
	予習復習の内容	保育現場における表現活動の理解を深めておく。		
6回	授業内容	指導案作成に向けた保育構想の計画および教材研究。(グループワーク)		
	学習成果	子どもの発達などの実態を知り、音楽表現活動を楽しみに繋げる保育構想を計画できる。		
	予習復習の内容	子どもの日々の生活や遊びを環境を通して考察する。		
7回	授業内容	指導案作成に情報機器を用いた保育構想の計画および教材研究。(グループワーク)		
	学習成果	考察した保育構想を情報機器を用いて指導案を作成することができる。		
	予習復習の内容	考察した保育構想を指導案にまとめておく。		
8回	授業内容	指導案作成における5領域の理解。(グループワーク)		
	学習成果	作成した指導案の音楽表現活動の5領域との関わりが理解できる。		
	予習復習の内容	「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」の5領域のねらい及び内容を理解を深めておく。		
9回	授業内容	『模擬保育』表現活動を通じた実践。(グループワーク)		
	学習成果	作成した指導案で『模擬保育』を通して音楽表現活動を理解できる。		
	予習復習の内容	指導案を読み込み教材を準備しておく。		
10回	授業内容	模擬保育実践の振り返り①（ビデオを用いた全体活動の確認）		
	学習成果	模擬保育実践をビデオで振り返り、反省と課題を挙げるができる。		
	予習復習の内容	模擬保育実践と指導案を照らし合わせて確認をする。		
11回	授業内容	模擬保育実践の振り返り②（ビデオを用いた全体活動の確認）		
	学習成果	ビデオで振り返った模擬保育実践の課題を修正することができる。		
	予習復習の内容	模擬保育実践を基に教材研究や保育構想の計画を再確認する。		
12回	授業内容	模擬保育実践の振り返り③（情報機器を用いた保育計画の再構築）グループワーク		○12回目 発表 昔話による素話の発表を行う。
	学習成果	模擬保育実践の課題を修正した指導案を作成できる。		
	予習復習の内容	模擬保育実践を基に保育構想の課題を考察する。		
13回	授業内容	模擬保育実践の振り返り④（保育計画の課題の検討）全体討議。		
	学習成果	模擬保育実践を振り返り、音楽表現活動の具体的な事例を提案し実践できる。		
	予習復習の内容	子どもの遊びや生活の中の姿から音楽表現活動を考察する。		
14回	授業内容	保育計画の方法と振り返りの理解、および再構築の方法に関する理解。		○14回目 秋の歌を用いた模擬保育を考案し、発表する。
	学習成果	保育実践を通じた課題を表述し、調和のとれた組織的、発見的な指導計画を作成できる。		
	予習復習の内容	子どもの発達を促すために活動の見直しを描く保育計画を考える。		
15回	授業内容	領域「表現」のまとめ。小学校へのつながりに関する理解。		○15回目 振り返りレポートを提出する。
	学習成果	「知的技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力・人間性等」を遊びを通しての総合的指導ができる。		
	予習復習の内容	幼児教育において育みたい資質・能力について理解する。		

科目名	幼児と健康				担当者	金野麻衣						
区分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	16	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、またはメール（konno.mai@m.seiwa.ac.jp）への連絡とする。 授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	乳幼児期の健康課題と健康の発達の意味を説明できる。										
	②	乳幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成について関連付けることができる。										
	③	安全な生活と怪我や病気の予防について説明できる。										
	④	乳幼児期の運動発達の特徴と意義について理解し、実践に活かそうとすることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	乳幼児期の健康および発達に関する専門的知識と現状について幅広く教養を身につけ、説明できる。（専門的学習成果①②③④）										
	(2)	自ら主体的、積極的に乳幼児期の生活習慣や安全、運動に関する情報を得て、保育や地域社会と関連付けて課題を見出し、他者と連携しながら学び続ける意欲を持つことができる。（②③④）										
授業概要	健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身につける。生活リズムや繰り返しなどの経験が様々な要因と複雑に絡み合いながら、互いに強く影響を及ぼし合いながら成立していることを学ぶ。協働学習を通じ幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達等において、乳幼児期を取り巻く社会状況や課題、大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、それを踏まえた指導方法に関連付けていくことを理解する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	40	筆記試験を2回実施し、評価を行う。								
		課題	30	課題、レポートの内容、提出、体裁、文脈、独創性で評価を行う。								
平常点	30	授業およびグループワークへの態度・関心・意欲を評価する。										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により行う。 (1) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名				
	清水将之 他	『保育内容・領域 健康指導法』						わかば社				
	柴田卓・石森真由子	『楽しく学ぶ運動遊びのすすめ』						株式会社みらい				
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名				
	文部科学省	『幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説』						フレーベル館				
	厚生労働省	『保育所保育指針・保育所保育指針解説』						フレーベル館				
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』						フレーベル館				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①この科目では時間外学習（15時間）として、＜事前学習＞幼稚園教育要領および保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の当該箇所を各自で読み理解を深めること。また、乳幼児の健康、生活習慣、食育、安全、運動に関連するニュースについて目を通しておくこと。＜事後学習＞小テストに向けた復習、講義内で提示される課題への取り組みをすること。 ②小テストに対するフィードバックは実施後に正解を示し、解説する。課題についてはグループ発表形式で実施され発表内容と合わせてフィードバックを実施する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	乳幼児を取り巻く生活環境と健康	○小テスト 5回目に実施。1回から4回までの内容を対象とする。テスト終了時にフィードバックを行う。 ○レポート、課題提出 関連したテーマについて、授業内で指定された期日を厳守すること。また、そのレポートや課題、取り組みなどの評価は随時全体に向けフィードバックする。
	学習成果	現代の生活環境と子どもの健康の現状について理解する。	
2回	予習復習の内容	テキストを読み、子どもの健康課題について調べる。	○レポート、課題提出 関連したテーマについて、授業内で指定された期日を厳守すること。また、そのレポートや課題、取り組みなどの評価は随時全体に向けフィードバックする。
	授業内容	乳幼児期の健康課題	
3回	学習成果	保育者としての視点から乳幼児期の健康課題について理解する。	○レポート、課題提出 関連したテーマについて、授業内で指定された期日を厳守すること。また、そのレポートや課題、取り組みなどの評価は随時全体に向けフィードバックする。
	予習復習の内容	テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。	
4回	授業内容	乳幼児期の身体の諸機能の発達	○レポート、課題提出 関連したテーマについて、授業内で指定された期日を厳守すること。また、そのレポートや課題、取り組みなどの評価は随時全体に向けフィードバックする。
	学習成果	乳幼児の発育発達について知識を広げる。	
5回	予習復習の内容	テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。	○レポート、課題提出 関連したテーマについて、授業内で指定された期日を厳守すること。また、そのレポートや課題、取り組みなどの評価は随時全体に向けフィードバックする。
	授業内容	乳幼児期の生活習慣の形成	
6回	学習成果	生活習慣の重要性について理解する。	○レポート、課題提出 関連したテーマについて、授業内で指定された期日を厳守すること。また、そのレポートや課題、取り組みなどの評価は随時全体に向けフィードバックする。
	予習復習の内容	テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。	
7回	授業内容	乳幼児の安全教育と安全管理	○レポート、課題提出 関連したテーマについて、授業内で指定された期日を厳守すること。また、そのレポートや課題、取り組みなどの評価は随時全体に向けフィードバックする。
	学習成果	乳幼児期の特徴と安全への配慮を理解する。	
8回	予習復習の内容	テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。	○レポート、課題提出 関連したテーマについて、授業内で指定された期日を厳守すること。また、そのレポートや課題、取り組みなどの評価は随時全体に向けフィードバックする。
	授業内容	乳幼児期の怪我や事故の特徴と病気の予防	
9回	学習成果	傷病・疾病予防の現状を理解し、他科目との関連について知る。	○レポート、課題提出 関連したテーマについて、授業内で指定された期日を厳守すること。また、そのレポートや課題、取り組みなどの評価は随時全体に向けフィードバックする。
	予習復習の内容	テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。	
10回	授業内容	乳幼児期の運動発達の特徴	○レポート、課題提出 関連したテーマについて、授業内で指定された期日を厳守すること。また、そのレポートや課題、取り組みなどの評価は随時全体に向けフィードバックする。
	学習成果	運動発達と現状、それを支える環境構成や生活習慣を理解する。	
11回	予習復習の内容	テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。	○レポート、課題提出 関連したテーマについて、授業内で指定された期日を厳守すること。また、そのレポートや課題、取り組みなどの評価は随時全体に向けフィードバックする。
	授業内容	遊びとしての運動	
12回	学習成果	発達段階を踏まえた運動遊びの重要性を知る。	○レポート、課題提出 関連したテーマについて、授業内で指定された期日を厳守すること。また、そのレポートや課題、取り組みなどの評価は随時全体に向けフィードバックする。
	予習復習の内容	テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。	
13回	授業内容		○レポート、課題提出 関連したテーマについて、授業内で指定された期日を厳守すること。また、そのレポートや課題、取り組みなどの評価は随時全体に向けフィードバックする。
	学習成果		
14回	予習復習の内容		○レポート、課題提出 関連したテーマについて、授業内で指定された期日を厳守すること。また、そのレポートや課題、取り組みなどの評価は随時全体に向けフィードバックする。
	授業内容		
15回	学習成果		○レポート、課題提出 関連したテーマについて、授業内で指定された期日を厳守すること。また、そのレポートや課題、取り組みなどの評価は随時全体に向けフィードバックする。
	予習復習の内容		

科目名	幼児と人間関係				担当者	君 島 智 子						
区 分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
授業時間数	16 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーで受け付ける。オフィスアワーは初回授業で連絡する。											
専門的 学習成果	①	子どもを取り巻く人間関係の現代的特徴と課題について説明できる。										
	②	乳児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。										
	③	幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について説明できる。										
	④	自立心、協同性、道徳性・規範意識の育ちについて発達の姿と合わせて説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	現代社会の特徴を踏まえて領域「人間関係」のねらい及び内容を理解し、人との関わりの発達に関する専門的知識を習得し、実践につなげることができる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	集団生活や家庭、地域との関わりの中で育つ人間関係と、「幼児期の終わりまでに育てたい姿」を関連づけて理解し、保育者の社会的役割を自覚して子どもの理解や支援ができる。(専門的学習成果③④に関連)										
授業概要	本講義は、領域「人間関係」の指導の基盤となる、子どもの人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身につけることを目的とする。子どもを取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景を理解し、関係発達論的視点から、乳幼児期の人間関係の発達について理解する。教員の精神保健福祉士としての精神保健センターでの実務経験をもとに具体的理解を深めることができるよう講義を展開する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	レポート	60	授業内容の理解についてレポートを課す。								
		中間ミニレポート	40	授業の理解について課す。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②で評価する。 (2) は専門的学習成果③④で評価する。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名							出版社名			
			『領域 人間関係』							教育情報出版		
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名							出版社名			
	文部科学省	『幼稚園教育要領』(平成29年3月告示)										
	厚生労働省	『保育所保育指針』(平成29年3月告示)										
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成29年3月告示)										
		(解説書、関連図書含む)										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①日常生活の中で子どもを取り巻く環境や人間関係の育ちについて意識し、考えること。特に授業内容に関連する部分については、テキスト該当部分の読了に加え事前に関係する文献を読み、理解を深めておくこと(予習:週2時間程度)。 ②毎回授業終了後にミニツレポートの提出を促し、次の授業でフィードバックを行うことから、テキストをもとに授業時間外学習を行って授業に臨むこと(復習:週2時間程度)。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	幼児教育の構造と保育内容5領域	
	学習成果	幼児教育の目的と保育内容が持つ意味について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	幼児教育と育てたい10の姿、保育内容5領域について理解し、説明できるようにしておく。	
2回	授業内容	領域「人間関係」の特性と子どもを取り巻く人間関係の現代的特徴	
	学習成果	現代社会の特徴を踏まえ、領域「人間関係」の特性を説明できる。	
	予習復習の内容	現代社会の特徴と子どもの人間関係の育ちを踏まえ、領域「人間関係」の特質を説明できるようにしておく。	
3回	授業内容	乳児期に育つ人と関わる力の発達	
	学習成果	乳児期に育つ人と関わる力の発達を、愛着の形成をもとに説明できる。	
	予習復習の内容	乳児期の愛着の形成について理解し、説明できるようにしておく。	
4回	授業内容	領域「人間関係」のねらいと内容	
	学習成果	「環境を通しての教育」を理解し、領域「人間関係」のねらいと内容を育てたい10の姿とつなげて説明できる。	
	予習復習の内容	領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。育てたい10の姿とつなげて説明できるようにしておく。	
5回	授業内容	遊びと人間関係の育ち	
	学習成果	遊びの中で育まれる社会性の発達について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	遊びを通して発達する人と関わる力について理解する。遊びの発達段階について説明できるようにしておく。	
6回	授業内容	集団生活と人間関係	
	学習成果	集団生活を通して育まれる自己主張、自己抑制、協同性、道徳性・規範意識について説明できる。	
	予習復習の内容	集団生活において育まれる人間関係の育ちを具体的に説明できるようにしておく。	
7回	授業内容	家庭の中で育つ人間関係、地域との関わりで育つ人間関係	
	学習成果	家庭生活や地域における人間関係の特徴と、価値やルールの学びについて説明できる。	
	予習復習の内容	家庭生活や地域における人間関係の特徴を理解し、連携の重要性について説明できるようにしておく。	
8回	授業内容	領域「人間関係」に関連する最新の知見と人との関わりの育ち	
	学習成果	少子化、核家族化、グローバル化、ICTの進展と子どもの人と関わる育ちについて理解し、課題を説明できる。社会情動的スキルについて説明できる。	
	予習復習の内容	現代社会の特徴が子どもの人と関わる育ちに与える影響と課題を理解する。社会情動的スキルについて説明できるようにしておく。	
9回	授業内容		
	予習復習の内容		
10回	授業内容		
	予習復習の内容		
11回	授業内容		
	予習復習の内容		
12回	授業内容		
	予習復習の内容		
13回	授業内容		
	予習復習の内容		
14回	授業内容		
	予習復習の内容		
15回	授業内容		
	予習復習の内容		

レポート 400字
「領域「人間関係」の特性と子どもを取り巻く人間関係の現代的特徴について」
第5回授業終了後提出

レポート 400字
「集団生活を通して育まれる人と関わる力について」
第8回授業終了後提出

レポート
8回の内容理解を評価する。配布資料をもとに内容を整理し、理解しておくこと。

科目名	幼児と環境				担当者	宮本美和子						
区分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 賞問等の受付方法				授業とメール miyakoto.miwako@m.seiwa.ac.jp にて受付ます。								
専門的 学習成果	①	幼児を取り巻く環境の諸側面（物的環境、人的環境、社会的環境、安全等）と幼児の発達におけるそれらの重要性について説明できる。										
	②	幼児の環境とのかかわりについて専門的概念（能動性、好奇心、探求心、有能感）を用いて説明できる。										
	③	幼児期の生物・自然とのかかわりの事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。										
	④	幼児期の標識・文字、情報・施設との関りと興味・関心、理解の発達を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	幼児を取り巻く環境と幼児の発達にとっての意義および幼児期の思考・科学的概念の発達を理解する。（専門的学習成果①②③④）										
	(2)	幼児が身の回りの環境に関わり、遊びや生活を通して学ぶ過程とそれを支える保育者の役割を理解する。（専門的学習成果①②）										
授業概要	現代の幼児を取り巻く環境とその現代的課題、幼児と身近な環境との関わりについて学ぶ、それらを踏まえ、周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う領域「環境」の指導の基盤となる保育内容の知識と技能を身に付ける。さらに保育者自らが感性を豊かに保ち、幼児の気持ちに共感し、幼児が自ら環境にかかわろうとする環境の構成の重要性に気づき、そのために役割を考える。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		小テスト	30	筆記試験の点数で評価する。								
		レポート	40	授業課題、レポートの内容、提出で評価する。								
	平常点	30	授業、グループワークの参加の意欲と態度を評価する。									
	汎用的 学習成果	汎用的学習成果は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①②で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	小櫃智子編著	『保育内容・領域 環境 指導法』				わかば社						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	文部科学省	『幼稚園教育要領解説』										
	厚生労働省	『保育所保育指針解説』										
	内閣府 文部科学省 厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前学習（週2時間程度）として授業計画に沿って、テキスト、幼稚園教育要領等に記載されている「ねらい」と「内容」、「内容の取扱い」を読み、授業に臨むこと。事後には授業内容の復習を行い、自身の身近な環境との関りについて考察する（週2時間程度）。屋外活動時は、服装、準備物など事前準備を行ったうえで取り組むこと。特にグループでの作業は他者と協力して取り組むこと。 ②授業課題やレポートに関して、授業およびコメントを用いてフィードバックを行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	幼児を取り巻く環境と現代的課題	小テスト 環境のねらい、内容、内容の取扱いについて理解する
	学習成果	幼児の育ちにおける環境とその現代的課題について説明できる	
	予習復習の内容	幼稚園教育要領の領域「環境」のねらいと内容を読み、理解する	
2回	授業内容	幼児の「環境とかかわる力」の発達を支えているもの	
	学習成果	幼児の発達の見方・捉え方を説明できる	
	予習復習の内容	幼稚園教育要領解説のP33～49を読み、幼児期の特性と人的環境についてまとめる	
3回	授業内容	生活の中で「環境とかかわる力」を育む	
	学習成果	生活の中で環境と関わる力を育む保育環境について説明できる	
	予習復習の内容	幼児期にふさわしい生活の展開についてまとめる	
4回	授業内容	遊びの中で「環境とかかわる力」を育む	
	学習成果	遊びと環境と関わる力のつながりについて説明できる	
	予習復習の内容	遊びの中で培われる環境と関わる力の育ちについてまとめる	
5回	授業内容	身近な自然との関り	
	学習成果	身近な自然との関わりから育まれるものについて説明できる	
	予習復習の内容	領域「環境」の内容(1)、(3)、(4)を理解し、自然体験活動で学んだことをまとめる	
6回	授業内容	身近な生き物との関わり	ワークシート 身近な自然や生き物とその関わりを調べる
	学習成果	身近な生き物との関わりから育まれるものについて説明できる	
	予習復習の内容	領域「環境」の内容(5)、内容の取扱い(2)、(3)をまとめる	
7回	授業内容	文字や記号、数量や図形との関わり	
	学習成果	文字や記号、数量や図形と遊びや生活の中での関りについて説明できる	
	予習復習の内容	文字や記号、数量や図形に関心をもつ教材を調べる	
8回	授業内容	「環境とかかわる力」を育む保育実践	
	学習成果	身近な環境への関りを促す保育実践について説明できる	
	予習復習の内容	身近な環境への興味・関心を引き出すための方法や工夫をまとめる	
9回	授業内容		
	学習成果		
10回	予習復習の内容		
	授業内容		
11回	予習復習の内容		
	授業内容		
12回	予習復習の内容		
	授業内容		
13回	予習復習の内容		
	授業内容		
14回	予習復習の内容		
	授業内容		
15回	予習復習の内容		
	授業内容		

科目名	幼児と言葉					担当者	山本 信 (実務家教員)					
区分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、または email:yamamoto.makoto@seiwa.ac.jp への連絡 (学籍番号・氏名記載必須) とする。											
専門的 学習成果	①	子どもにとっての言葉の機能と意義について説明できる。										
	②	子どもの言語の発達過程をその機能と関連付けて説明できる。										
	③	子どもの言葉の育ちと保育実践とを関連づけることができる。										
	④	子どもの豊かな言葉を育む児童文化財等の基礎的知識を身に付けている。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要な専門的知識として、子どもにとっての言葉の機能と意義およびその発達過程を理解するとともに、子どもの豊かな育ちを実現する多様な保育のあり方を構想できる。(専門的学習成果①②③④)										
	(2)	人類の社会的文化的進化の観点から言葉の獲得と使用について捉え、自らの保育観に取り入れることができる。(専門的学習成果①③)										
授業概要	領域「言葉」の指導の基盤となる、子どもにとっての言葉の意義と機能、言語発達のプロセスについて前言語的コミュニケーションと言語的コミュニケーションの特徴から学ぶ。これらの基礎知識を踏まえ、子どもの言葉に対する感覚と豊かな言葉を育てるための児童文化財等を利活用した教育・保育実践に関する知識を身に付ける。さらに、言葉の産出、文字や記号の発明が人類の社会的文化的進化による産物であることを踏まえ、保育者と子どもの文化的営みにおける言葉の価値を確認していく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		小テスト	40	4回：正答率に応じて評価を行う (各10点)。								
		ワークシート	30	2回：授業内容を踏まえ、テーマに沿ったワークシートの評価を行う (各15点)。								
		グループワーク	30	2回：テーマに基づいた発言や議論への参加姿勢の評価を行う (各15点)。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う (1) は専門的学習成果①②③④により評価を行う。 (2) は専門的学習成果①③により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
	文部科学省	『幼稚園教育要領』(平成29年3月告示)										
	厚生労働省	『保育所保育指針』(平成29年3月告示)										
	内閣府	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成29年3月告示)										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
	秋田喜代美・野口隆子 編著	『保育内容 言葉』					光生館					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業は、テキスト・参考資料・配付資料を中心に進める。また、授業計画に従い、時間外学習を必ず行うこと。 <事前学習(週2時間程度)>：テキスト・参考文献を読み、専門用語の理解をはじめ、各回の学習内容について予習を行うこと。また、自身の経験や日常生活と関連付けながら深く考える機会を多く持つこと。 <事後学習(週2時間程度)>：毎回の授業の内容について復習を行い、理解を深めること。また、新聞・ニュース等で得られた情報と学習内容を結びつけながら、自分の考えを言葉や文字で表現できるようにすること。 ②フィードバックの方法については、以下の通りとする。 <小テスト>テストの実施後に解答・解説を行う。 <グループワーク>グループワークへの参加姿勢や模擬授業の発表内容について、次回の授業において評価のポイントを含め、フィードバックを行う。 <ワークシート>提出後2週間以内を目安に、評価のポイントを含めたコメントとともに返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	言葉の機能と意義	
	学習成果	言葉の機能と意義を言語発達の観点から説明できる。	
	予習復習の内容	領域「言葉」のねらいおよび内容について理解しておくこと。5領域と乳幼児の言葉の発達との関連についてまとめておくこと。	
	授業内容	子どもの言葉の発達①：乳児期	
2回	学習成果	非言語的コミュニケーションの発達過程について説明できる。	
	予習復習の内容	保育所保育指針の「身近な人と気持ちを通じ合う」の項目について、ねらい・内容・内容の取扱い(解説も含めて)を熟読し、理解しておくこと。	
3回	授業内容	幼児期の言葉の発達②：1歳以上3歳未満児	
	学習成果	1歳以上3歳未満児の言葉の発達過程について説明できる。	
	予習復習の内容	領域「言葉」(1歳以上3歳未満児)の項目について、ねらい・内容・内容の取扱い(解説も含めて)を熟読し、理解しておくこと。	
	授業内容	幼児期の言葉の発達③：3歳以上児	
4回	学習成果	3歳以上児の言葉の発達過程について説明できる。	
	予習復習の内容	領域「言葉」(3歳以上児)の項目について、ねらい・内容・内容の取扱い(解説も含めて)を熟読し、理解しておくこと。	
5回	授業内容	子どもの言葉の育ちおよび言葉に対する感覚を豊かにする保育①言葉遊び	
	学習成果	グループワークを通して、言葉遊びの特徴と活用方法や領域「言葉」との関連について理解を深め、説明できるようになる。	
	予習復習の内容	言葉遊びについて調べ実際に遊ぶ。	
	授業内容	子どもの言葉の育ちおよび言葉に対する感覚を豊かにする保育②児童文化財	
6回	学習成果	グループワークを通して、児童文化財の特徴と活用方法や領域「言葉」との関連について理解を深め、説明できるようになる。	
	予習復習の内容	児童文化財の特徴と活用方法について調べる。	
7回	授業内容	子どもの言葉の育ちおよび言葉に対する感覚を豊かにする保育③教材活用 (ICTの利活用を含む)	
	学習成果	教材を活用する方法、工夫、配慮事項について考察できる。	
	予習復習の内容	言葉に関するそのほかの遊びについて調べる。	
	授業内容	子どもの言葉の育ちを豊かにする保育実践	
8回	学習成果	言葉の発達を促す保育について総合的に説明できる。	
	予習復習の内容	子どもの年齢に応じた教材についてまとめる。	
9回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
10回	学習成果		
	予習復習の内容		
11回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
12回	学習成果		
	予習復習の内容		
13回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
14回	学習成果		
	予習復習の内容		
15回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	幼児と表現				担当者	佐々木 貴 弘						
区分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。e-mail:sasaki.takahiro@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	領域「表現」のねらいや内容と合わせ、乳幼児の表現活動の特徴・特質を理解する。										
	②	基本的な保育表現技術の習得を通して、自身の感性を高める。										
	③	表現（造形表現を中心に）あそびの意義と特徴や、用具、材料、作品等の扱い方について学ぶ。										
	④	各種表現活動を通して、領域「表現」と他領域との関連について理解を深める。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる表現活動を理解し、保育現場における必要な基礎的知識・技能を身に付ける。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	子どもの発達や成長に即した保育実践力や、保育内容領域「表現」内における、造形表現を中心とした各種表現技術を高め、豊かな感性や想像力、表現力をもって子どもの支援ができる。(専門的学習効果②③に関連)										
	(3)	子どもや保護者及び地域社会における表現活動の意義を理解し、保育者の役割を考慮することができる。人間の成長を基軸として営まれる幼児教育が保育内容の5領域で構成されていることを理解できる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	領域「表現」に関する理解を深め、子どもの表現を育む為の保育表現術を習得し、保育者としての感性表現力を高めると共に、専門的な知識・技術を身に付ける。幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「表現」のねらいと内容の理解を深める。生活の中での身近な音や自然への興味、関心を持ち、イメージと重ね合わせる表現活動を展開することができる。造形表現を通して「よさ、たのしさ、うつくしさ」に触れ、子どもの感性について考える姿勢を持ち、保育教材製作を通して「描く、作る、演じる活動」を理解することができる。体験的に学んだ表現活動を踏まえ、保育者の役割を考え、領域を越えた総合表現的活動への意識を高めることができる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	40	各表現活動に対し創作劇遊びの実践から振り返りを行い、課題抽出と幼児期に育む表現の理解を観点に評価を行う。								
		作品製作・発表	40	保育表現、創作表現に関して、保育教材の製作やグループワークを中心に行う表現活動と発表内容でその評価を行う。								
汎用的 学習成果	平常点	20	表現活動や発表への取り組み、意欲・態度を評価する。									
	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	横英子	『保育をひらく造形表現』				萌文書林						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	文部科学省	『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示）										
	厚生労働省	『保育所保育指針』（平成29年3月告示）										
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示）										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。(予習：週2時間程度)事後学習としては、発表を実施し、その内容と課題抽出、考察のレポートを評価の対象とする。(復習：週2時間程度) ②発表に対するフィードバックは実施後に、学生間の感想の共有や講評を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「表現」の位置づけ。ねらいと内容の理解。	ワークシートへの取り組み。
	学習成果	「幼児期の終わりにまで育ってほしい姿」として提示された10項目を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「表現」を理解する。	
2回	授業内容	乳幼児期の表現の特徴「生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ」（造形活動を中心に）	映像教材を活用した鑑賞。多様な子どもの表現の理解。
	学習成果	生活の中での身近な音や自然への興味、関心を持ち、イメージと重ね合わせる表現活動を展開することができる。	
	予習復習の内容	「保育所保育指針」の第二章子どもの発達から「幼児期の発達の特徴と発達過程を理解する。	
3回	授業内容	保育表現「いろいろなものに興味を抱き、気づきを通して自分の感性、感覚について考える」表現活動①（造形表現を中心に）	振り返りシートへの取り組み。
	学習成果	表現活動を通して「よさ、たのしさ、うつくしさ」に触れ、これを基に子どもの感性について考える姿勢をもつことができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、「乳幼児期の造形表現」に興味関心を抱き、自身の研究心をより高めることができる。	
4回	授業内容	子どもと表現「感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ」表現活動②（音楽表現を中心に）	振り返りシートへの取り組み。
	学習成果	表現活動を通して「見る、聴く、感じる、あらす活動」を体験し、自分の表現について考え、気持ちを伝えることができる。	
	予習復習の内容	幼児期に体験したわらべうた、遊びうたを挙げ、その遊びを紹介できるようにまとめる。	
5回	授業内容	創作表現「描く・作る・演じるなどを通した表現活動」（グループワーク）① 製作、練習	グループワークを通した振り返り。
	学習成果	表現活動の広がりについて考え、作品、台本（指導案作成）、装置（仕組・しかけ）を応用した保育教材を製作し、演じることができる。	
	予習復習の内容	子どもの対象年齢とねらいを設定し、創作表現を応用した劇遊びを考える。	
6回	授業内容	創作表現「描く・作る・演じるなどを通した表現活動」（グループワーク）② 発表、鑑賞	○発表 グループワークで取り組んだ作品、教材を実演・実践する。
	学習成果	共同製作を通して、「表現、鑑賞」の関係性、「表現活動に関する構造的な理解」を深めることができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、表現のみならず、鑑賞への興味を持ち、広く芸術活動への関心を高めることができる。	
7回	授業内容	乳幼児の表現を育む保育者の役割「求められる感性と表現力」。表現活動と他領域との関連を考察。	振り返りシートへの取り組み。
	学習成果	各活動で体験的に学んだ表現活動を踏まえ、保育者の役割を考え、領域を越えた総合表現的活動への意識を高めることができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、表現活動に、より興味関心を抱き、自身の表現活動に対する研究心を高めることができる。	
8回	授業内容	幼児期に育む「豊かな感性と表現」についてのまとめ。	○レポート提出 全体総括。
	学習成果	幼児期における表現活動と、そこで培う「感性や表現力」について理解を深める。	
	予習復習の内容	他領域も含め、幼児と表現における総合的な学びに関して考えを深め、自身の保育表現技術の向上に繋げることができる。	
9回	授業内容		
	学習成果		
10回	授業内容		
	予習復習の内容		
11回	授業内容		
	予習復習の内容		
12回	授業内容		
	学習成果		
13回	予習復習の内容		
	授業内容		
14回	予習復習の内容		
	授業内容		
15回	予習復習の内容		
	授業内容		

科目名	乳児保育 I				担当者	中 島 恵 (実務家教員)						
区 分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスアワー及び e-mail (nakajima.megumi@seiwa.ac.jp) に連絡する。オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。										
専門的 学習成果	①	健やかな成長を支える生活と遊びについて理解し、3歳未満児及び幼児の発育・発達について説明できる。										
	②	乳幼児の生命を守ること、健康の保持増進について説明できる。										
	③	乳児保育の内容や方法、環境構成や記録等について理解し、意義について説明できる。										
	④	他機関との連携、保護者支援について理解し主体的に考えることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	現代社会における乳児保育の重要性を理解し、保育者に必要な知識・技能を身に付け実践することができる。(専門的学習成果①②③)										
	(2)	子どもと保護者及び地域社会における保育者の役割を理解し、自ら課題を見出し学びに向かい続け探求することができる。(専門的学習成果④)										
授業概要		乳児保育の理念と保育内容、方法について理解する。また、乳幼児期の子どもの発育や特徴を理解し、一人ひとりを大切に育てる乳児保育のあり方を学ぶ。乳幼児期の発達が、その後の心身の発達の土台となることを理解し、保育所保育指針の乳児保育の保育内容についても理解を深めながら、発達過程を見通して学ぶ。映像や事例、児童文化についての課題探求を実践しながらグループ討議などを通して乳児保育について理解を深めていく。保育者として、意欲的に授業に臨む姿勢や態度も含めて評価をしていく。保育士および保育園園長としての実務経験をもとに、乳児保育の実態や課題と照らし合わせながら授業を展開していく。										
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	レポート	30	養護と教育について理解できているかを観点に評価をする。								
		小テスト	60	乳児保育のねらいと内容を中心に実施する。								
		平常点	10	授業参加態度の意欲を評価する。								
	汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価より評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②・③にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果④にて評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名							出版社名		
	ChaCha Childrens & Co.編集		『見る・考える・創りだす乳児保育Ⅰ・Ⅱ』養成校と保育室をつなぐ理論と実践							萌文書林		
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名							出版社名		
	厚生労働省		『保育所保育指針解説』							フレーベル館		
	内閣府・文部科学省・厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』							フレーベル館		
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。特に、授業内容に関連する部分については、事前に関連する文献を読み理解を深めておくこと(予習:週2時間程度)。事後学習としては、小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりとすること(復習:週2時間程度) ②小テストは授業で返却し、解説を行う。レポートについては授業内でフィードバックを行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション 乳児保育の意義・目的	○小テスト 5回目の後半で実施する。 ・養護についての理解 ・乳児保育における教育(保育のねらい及び内容) ・児童福祉施設の設備及び運営に関する基準 保育所保育指針を熟読しておくこと。
	学習成果	乳児保育の定義について説明ができる。	
予習復習の内容	乳児の特徴、自分なりのイメージを記述しておく。		
2回	授業内容	乳児保育の役割と機能(人生の基礎である乳児期)	
	学習成果	乳児期の捉え方について説明ができる。	
予習復習の内容	保育所保育指針の関連部分を読み、理解をしていく。		
3回	授業内容	乳児保育における養護及び教育	
	学習成果	養護や教育の理念、ねらいや内容について説明ができる。	
予習復習の内容	保育所保育指針の関連部分を読み、理解をしていく。		
4回	授業内容	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題	
	学習成果	支援の実際と課題について説明ができる。	
予習復習の内容	テキストの該当範囲を事前に読み理解をしていく。		
5回	授業内容	保育所における乳児保育	
	学習成果	乳児保育のねらいや内容の3つの視点について説明ができる。	
予習復習の内容	保育所保育指針の該当部分を熟読しておく。		
6回	授業内容	保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育及び家庭的保育等	
	学習成果	乳児院や家庭的保育室について説明ができる。	
予習復習の内容	テキストの該当範囲を事前に読み理解をしていく。		
7回	授業内容	3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場	
	学習成果	現代における子育ての現状や課題について語ることができる。	
予習復習の内容	あらかじめ子育て家庭の課題についての調べ学習をする。		
8回	授業内容	3歳未満児の生活と環境	
	学習成果	3歳未満児の生活の流れについて説明ができる。	
予習復習の内容	3歳児のデイリープログラムや援助についてまとめる。		
9回	授業内容	3歳未満児の遊びと環境	
	学習成果	3歳未満児の遊びの捉えかたについて語ることができる。	
予習復習の内容	発達過程を考慮した遊びについてまとめる。		
10回	授業内容	3歳以上児の保育に移行する時期の保育	
	学習成果	基本的な生活習慣の自立にむけた保育士の援助について説明ができる。	
予習復習の内容	2歳児の発達過程と生活援助について必要な知識をまとめる。		
11回	授業内容	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり	
	学習成果	発達過程を考慮した援助について説明ができる。	
予習復習の内容	3歳未満児の発達過程と援助について必要な知識をまとめる。		
12回	授業内容	3歳未満時の発育・発達を踏まえた保育における配慮、個別の計画	
	学習成果	3歳未満児の個別計画の必要性について説明ができる。	
予習復習の内容	個別計画と3つの視点や5領域の関連性についてまとめる。		
13回	授業内容	乳児保育における計画・記録・評価とその意義	
	学習成果	全体的な計画からの指導計画の意味について説明できる。	
予習復習の内容	保育所保育指針の該当部分を熟読しておく。		
14回	授業内容	乳児保育における連携・協働	
	学習成果	保育現場の同僚性について語ることができる。	
予習復習の内容	テキストの該当範囲を事前に読み理解をしていく。		
15回	授業内容	保護者支援と連絡帳の意味、書き方についてまとめる確認	
	学習成果	保護者支援の意義について説明することができる。	
予習復習の内容	保護者支援に必要な知識や技術についてまとめる。		

科目名	乳児保育Ⅱ				担当者	中 島 恵 (実務家教員)						
区 分	必修	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30							
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワー及びe-mail (nakajima.megumi@seiwa.ac.jp) に連絡する。オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。											
専門的 学習成果	①	3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方を理解し、援助の実践ができる。										
	②	養護及び教育の一体性を踏まえ、子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について説明できる。										
	③	乳児保育における配慮の実践について具体的に述べるができる。										
	④	乳児保育における計画の作成について具体的に学び、指導計画や個別計画の一部を作成できる。										
汎用的 学習成果	(1)	現代社会における乳児保育の重要性を理解し、保育者に必要な知識・技能を身に付け実践することができる。(専門的学習成果②④)										
	(2)	保育者の社会的役割を自覚し、豊かな感性や想像力、表現力をもって、子どもの理解や支援ができる。(専門的学習成果①③)										
授業概要	乳児保育Ⅰで習得した知識を、さらに具体的な子どもの生活や遊びに照らし合わせながら、具体的な支援、援助方法について自ら考察する。また、個々の発達に合わせた一人ひとりの健やかな育ちを保障するために、保育者として必要な受容的で応答的な関わりや、援助の仕方を学んでいく。現代社会における、乳児保育の現状と課題について理解し、子どもの発達を踏まえた保育内容と保育者の役割について学ぶ。視聴覚教材や事例を基にして、グループ討議などを通して乳児保育について学びを深める。保育士および保育園園長としての実務経験をもとに、乳児保育の実態や援助方法を示しながら授業を展開していく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	レポート課題2回 テーマに沿ったレポートの評価(評価観点:体裁(2)文脈(3)内容(10))を行う。								
		確認テスト	60	これまでの学習内容に基づき、学習習熟度に関するテストを実施し、評価を行う。(60点)								
	平常点	10	演習への取り組み、意欲、態度により評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果(1)(2)については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1)は専門的学習成果②④により評価を行う。 (2)は専門的学習成果①③により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名				
	ChaCha Children & Co. 編集	『見る・考える・創りだす乳児保育Ⅰ・Ⅱ』養成校と保育室をつなぐ理論と実践						萌文書林				
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名				
	文部科学省	『幼稚園教育要領解説』						フレーベル館				
	厚生労働省	『保育所保育指針解説』						フレーベル館				
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼児連携型認定こども園教育・保育要領解説』						フレーベル館				
	必要に応じてプリントを配布する。											
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。特に、授業内容に関連する部分については、事前に関係する文献を読み理解を深めておくこと(予習:週2時間程度)。事後学習としては、小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりとすること(復習:週2時間程度) ②レポートや保育計画については、モデル案を示し、解説を行う。発表では相互の意見交換の時間も設け、その都度フィードバックを行う。											

授業計画			学習成果の評価			
1回	授業内容	子どもと保育士等との関係の重要性	○レポート 場面に応じた受容的、応答的かわりについて考察し、具体的な声掛け、態度をとることができているか。			
	学習成果	子どもと保育士等との関係について述べるができる。				
予習復習の内容	3歳未満児の発達の特性を確認しておく。					
2回	授業内容	個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり				
	学習成果	受容的応答的な具体的な場面に応じた関わりについて、説明ができる。				
予習復習の内容	テキストの関連部分を読んでおく。					
3回	授業内容	子どもの主体性の尊重と自己の育ち				
	学習成果	子どもの主体性について説明ができる。				
予習復習の内容	保育所保育指針の乳児保育、1歳以上3歳未満児の保育について熟読する。					
4回	授業内容	子どもの体験と学びの芽生え、乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実践		○レポート 発達過程や育てたい視点を理解した環境について説明ができているか。		
	学習成果	3つの視点と5領域のつながりについて説明ができる。				
予習復習の内容	保育所保育指針の3つの視点と5領域の内容を理解しておく。					
5回	授業内容	子どもの1日の生活の流れと保育の環境				
	学習成果	保育所での3歳未満児の生活の流れを説明できる。				
予習復習の内容	テキストの関連部分を読んでおく。					
6回	授業内容	子どもの生活や遊びを支える環境の構成				
	学習成果	事例場面の環境構成の意味について述べるができる。				
予習復習の内容	3歳未満児の発達の特性を確認しておく。					
7回	授業内容	0歳児の発育・発達を踏まえた生活や遊びの援助の実践	各年齢ごとの発達過程に合わせた手作り玩具を製作し、発表する。(発達過程にあっているか、危険はないかなどが評価の基準となる)			
	学習成果	0歳児の発達過程を理解した玩具や環境について説明ができる。				
予習復習の内容	おおむね0歳児の発達過程の理解。					
8回	授業内容	1歳児の発育・発達を踏まえた生活や遊びの援助の実践				
	学習成果	1歳児の発達過程を理解した玩具や環境について説明ができる。				
予習復習の内容	おおむね1歳児の発達過程の理解。					
9回	授業内容	2歳児の発育・発達を踏まえた生活や遊びの援助の実践				
	学習成果	2歳児の発達過程を理解した玩具や環境について説明ができる。				
予習復習の内容	おおむね2歳児の発達過程の理解。					
10回	授業内容	乳児保育における配慮の実践		温度や分量を配慮しながら、適温の調乳の実践ができているか。		
	学習成果	調乳やおんぶについて実践ができる。				
予習復習の内容	3歳未満児の発達の特性を確認しておく。					
11回	授業内容	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮	対象年齢を見通したふれあい遊びやわらべうたを発表する。			
	学習成果	わらべうた遊びやふれあい遊びの技術を習得し実践できる。				
予習復習の内容	発達過程に応じたふれあい遊びを調べておく。					
12回	授業内容	集団での生活における配慮、環境の変化や移行に対する配慮			○小テスト 児童福祉施設の設備及び運営に関する基準(職員の数等)	
	学習成果	最低基準の職員数について説明できる。				
予習復習の内容	児童福祉施設の設備及び運営に関する基準を理解しておく。					
13回	授業内容	乳児保育における計画の実践				
	学習成果	保育目標を考慮した保育のねらいを立てることができる。				
予習復習の内容	計画の意義について復習をしておく。					
14回	授業内容	長期的な指導計画と短期的な指導計画				
	学習成果	保育目標を考慮した保育のねらいを立てることができる。				
予習復習の内容	長期計画と短期計画の特徴についてまとめる。					
15回	授業内容	個別な指導計画と集団の指導計画				
	学習成果	事例の子ども発達を考慮した個別計画の一部を立案できる。				
予習復習の内容	3つの視点と5領域とのつながりをまとめておく。					

科目名	特別支援教育・保育概論				担当者	川村修弘・三浦光哉						
区分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	質問や要望等については、授業の前後で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	保育の場における特別な配慮、支援の多様性について説明できる。										
	②	保育の場では出会う特別な配慮を必要とする子ども（発達障がいを含む）の発達特徴・発達過程について説明できる。										
	③	発達課題に応じた個別の支援計画を立案するための基礎的な知識を有し、計画の策定ができる。										
	④	個別の支援計画を実行するための連携による保育の展開方法について説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	特別な支援を要する子どもへの教育の必要性について理解し、実践において必要な知識や理論について自ら学び得た内容について説明、報告することができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	専門職としての協働的な役割について理解し、自ら積極的に参加することができ、将来に向かい学びつづけるための研究心が養われ、学びに向かい探求することができる。（専門的学習成果②③④に関連）										
授業概要	保育の場では出会う特別な配慮を必要とする子どもが保育の場で豊かに生活できるように、様々な面から子どもを支援していくことは保育者の専門性のひとつである。そこで、特別な配慮を必要とする子どもの特徴や困難さについて概説し、そこから発達ニーズに応じた発達支援、援助のあり方について考察していく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	70	全15回分の授業内容の理解について筆記試験を行い評価する。								
		レポート										
		中間ミニレポート	30	授業内容の重点部分について理解されているか、レポートの記述内容により評価する。								
	汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①②③にて評価を行う。 (2)は専門的学習成果②③④にて評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名				
	川村修弘・三浦光哉著	仮『特別支援教育総論』						ジアース教育新社				
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名				
	文部科学省	『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示）						フレーベル館				
	厚生労働省	『保育所保育指針』（平成29年3月告示）						フレーベル館				
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示）（解説書、関連図書含む）										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①この科目の時間外学習（60時間）として事前にテキストを読み授業に参加する事前学習と、講義内容について関連領域について習熟を深める事後学習を行うこと。 ②講義内で提示される課題への取り組みも時間外学習に含まれ、課題へのフィードバックは講義内に行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	保育の場では出会う特別な配慮を必要とする子どもの保育と現代的課題	15回分の授業内容の理解について筆記試験で評価。 都度、ミニレポートを課し、理解度を確認、評価する。
	学習成果	配慮を必要とする子どもとその現状について説明できる。	
予習復習の内容	授業資料やノートを基に復習を行う		
2回	授業内容	特別な配慮を必要とする子どもの生涯発達の理解と保育	
	学習成果	気になる子どもの生涯発達について説明できる。	
予習復習の内容	授業資料やノートを基に復習を行う		
3回	授業内容	子どもの障がいと保育①視覚障がい・聴覚障がい	
	学習成果	感覚器の障害とその特徴を知り、適切な保育活動実践の基礎について説明できる。	
予習復習の内容	授業資料やノートを基に復習を行う		
4回	授業内容	子どもの障がいと保育②知的障がい	
	学習成果	知的障害とその特徴を知り、適切な保育活動実践の基礎について説明できる。	
予習復習の内容	授業資料やノートを基に復習を行う		
5回	授業内容	子どもの障がいと保育③自閉スペクトラム症	
	学習成果	自閉スペクトラム症について症候・背景・特徴について説明できる。	
予習復習の内容	授業資料やノートを基に復習を行う		
6回	授業内容	子どもの障がいと保育④ ADHD・LD	
	学習成果	ADHD・LDについて症候・背景・特徴について説明できる。（行動面中心）	
予習復習の内容	授業資料やノートを基に復習を行う		
7回	授業内容	子どもの障がいと保育⑤肢体不自由	
	学習成果	脳性まひをはじめとする肢体不自由について説明できる。	
予習復習の内容	授業資料やノートを基に復習を行う		
8回	授業内容	子どもの障がいと保育⑥重症心身障がい児、医療的ケア児の理解と援助	
	学習成果	重症心身障害とは何か学習を深め発達援助につながる支援について説明できる。	
予習復習の内容	授業資料やノートを基に復習を行う		
9回	授業内容	子どもの障がいと保育⑦その他の特別な配慮を必要とする子どもの保育の実際	
	学習成果	さまざまな「気になる子ども」について広く保育の方向性を知り、説明できる。	
予習復習の内容	授業資料やノートを基に復習を行う		
10回	授業内容	インクルーシブとユニバーサルデザイン	
	学習成果	ユニバーサルデザインの観点に立った保育とは何か事例を検証できる。	
予習復習の内容	授業資料やノートを基に復習を行う		
11回	授業内容	発達理解の理論と方法	
	学習成果	様々な発達支援の方法について障害別に説明することができる。	
予習復習の内容	授業資料やノートを基に復習を行う。さらに実践的なワークを通じて理解を深める		
12回	授業内容	発達理解と個別の支援計画	
	学習成果	様々な発達支援の方法について障害別に検証することができる。	
予習復習の内容	授業資料やノートを基に復習を行う。さらに実践的なワークを通じて理解を深める		
13回	授業内容	関連機関との連携による発達支援	
	学習成果	関連機関や専門家との連携の方法について事例を通じて検討できる。	
予習復習の内容	授業資料やノートを基に復習を行う		
14回	授業内容	保護者理解と保護者支援	
	学習成果	保護者理解と保護者支援のあり方について事例を通じて検討できる。	
予習復習の内容	授業資料やノートを基に復習を行う。さらに実践的なワークを通じて理解を深める		
15回	授業内容	まとめ	
	学習成果	授業全体を通じた「つながり」をイメージし、報告することができる。	
予習復習の内容	授業資料やノートを基に復習を行う		

科目名	保育実習指導ⅠA(1年)				担当者	佐々木 貴弘 ・ 中島 恵 ・ 伊ワガ 岩淵 禎子						
区 分	必修	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	通年
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内で指示する。											
専門的 学習成果	①	保育実習の意義・目的を理解できる。										
	②	実習の内容を理解し、自らの課題を明確にできる。										
	③	実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解できる。										
	④	実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解できる。										
	⑤	実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にできる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育士の役割を理解し、保育現場における必要な基礎的知識・技能を身につけることができる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	子どもの発達や成長や発達段階に関する理解を深め、実習で学んだことを観察記録に記すことができる(専門的学習成果③④に関連)										
	(3)	保育所や福祉施設の実際を知り、観察実習の自己評価を行い、課題を基に二次の本実習に活かすことができる(専門的学習成果④⑤に関連)										
授業概要	保育実習を行うにあたって必要とされる知識、技術を獲得する。また、保育実習の意義と目的を理解し、課題を明確にすることで、意欲的に実習に臨む姿勢を身につける。実習後の振り返りによる学びの整理と自己評価から、課題を明確化した新たな学習目標を立てる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合(%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	事前事後指導における、各種提出物(事前学習、提出書類、観察実習、自己評価、報告書など)にて総合的に評価する。								
		実習評価	30	学外実習(保育所・施設観察実習を中心として)における、巡回指導報告、並びに、実習先からの外部評価にて総合的に評価する。								
		実習日誌等総合評価	40	事前事後指導、事前学習、観察実習などへの取り組み、実習時の実習日誌内容などを総合的に評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果(1)(2)(3)については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1)は専門的学習成果①②により評価を行う。 (2)は専門的学習成果③④により評価を行う。 (3)は専門的学習成果④⑤により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名										出版社名
	聖和学園短期大学保育学科	『教育・保育実習ガイドブック』										
	宮城県保育実習連絡協議会編	『保育実習の手引き』										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名										出版社名
	厚生労働省	『保育所保育指針解説』										フレーベル館
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』										フレーベル館
		(解説書、関連図書含む)										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①この科目では時間外学習として、保育所保育指針の内容をよく理解しておくこと。また、ガイドス内で示される指導案の作成等の課題に取り組むこと。 ②提出された課題は適宜フィードバックを実施する。それを基に教材研究など自主的に学びを発展させるようにすること。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	保育所実習ⅠAの意義と目的	
	学習成果	保育所実習ⅠAの事前事後指導の進行について、概要を理解し、授業の進め方について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、保育所実習の意義と目的について理解し、保育実習に向けた学習目標を考える。	
2回	授業内容	保育所保育の実際	
	学習成果	保育所で勤務する保育所保育士について、職務内容や役割について理解し、実習の目標を立て、記すことができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、保育現場への関心を高め、保育の仕事に関する事前学習につなげる。	
3回	授業内容	保育所実習Ⅰの実習日誌の意義と記録方法	
	学習成果	実習記録を記す意義を考え、その記述方法について具体的に学び、理解することで、日誌作成をすることができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、観察の視点を確認し、観察記録を記すための文章力、語彙力を向上させる。	
4回	授業内容	保育所実習ⅠAの方法の理解	
	学習成果	保育実習先の選び方について確認し、希望調査書など、提出書類の記入の仕方について理解し実際に、正しく記すことができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、保育実習に関する事前学習を進めながら、文書作成や手続きなどをしっかり行う。	
5回	授業内容	保育所実習ⅠAの実習目標の課題と明確化	
	学習成果	保育所実習(観察実習を中心に)、学外実習に向けた実習目標を踏まえ、各実習先に関する課題を立て、示すことができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、実習マナーの確認や、実習に相応しい服装(名札)などを整える。	
6回	授業内容	保育士倫理の理解および保育所実習の心構えと留意事項	
	学習成果	保育所職員に求められる専門性や人間性について理解し、保育職を目指す実習生としての自覚を深め、行動することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、求められる保育者像に向けて、常に挨拶やマナーを意識した生活をするよう心掛ける。	
7回	授業内容	保育所実習ⅠAの振り返りと自己評価	
	学習成果	保育所実習に関するガイダンス全体を振り返り、自己評価を行いレポートできる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、今後の保育所実習への課題を再確認し、二次の本実習につなげる。	
8回	授業内容	施設実習の意義と目的	
	学習成果	福祉施設で勤務する施設保育士について、職務内容や役割について理解し、実習目標を考えることができる。	
	予習復習の内容	保育士資格取得において施設実習が必要とされた歴史的背景と施設実習の意義、目的について理解しておく。	
9回	授業内容	施設実習における留意点:守秘義務	
	学習成果	人権とプライバシーの保護、守秘義務について理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	全国保育士会倫理綱領を読み、職業倫理と守秘義務について説明できるようにしておく。	
10回	授業内容	施設観察実習の役割と機能	
	学習成果	児童発達支援センターの法的根拠、機能と役割について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	児童福祉法、障害者総合支援法等を読み、実習施設の機能と役割、利用する子どもの特徴を理解しておく。	
11回	授業内容	施設観察実習の課題の明確化	
	学習成果	児童発達支援センターの機能と役割、利用する子どもの障害について理解し、実習の課題を明確にできる。	
	予習復習の内容	発達障害について理解し、施設で行われる活動や援助を踏まえて課題を設定できるようにしておく。	
12回	授業内容	施設見学Ⅰ・Ⅱの意義と目的	
	学習成果	福祉型障害児入所施設と特別支援教育の関連性、児童養護施設について理解し、見学の意義と目的について説明できる。	
	予習復習の内容	福祉型障害児入所施設と特別支援教育、児童養護施設について理解し、説明できるようにしておく。	
13回	授業内容	施設見学Ⅰ・Ⅱの課題の明確化	
	学習成果	課題を明確にする意義を理解し、課題の設定の観点・方法を理解し、実践につなげることができる。	
	予習復習の内容	見学の意義を考え、見学施設・学校の理解を踏まえて課題を設定できるよう整理しておく。	
14回	授業内容	施設観察実習の振り返り	
	学習成果	施設観察実習の学びを共有し、自己評価を通して課題を明確化し、実践にいかすことができる。	
	予習復習の内容	グループで学びを共有し深める。自己評価を通して課題を明確にしておく。	
15回	授業内容	施設見学Ⅰ・Ⅱの振り返り	
	学習成果	施設見学Ⅰ・Ⅱの学びを共有し、自己評価を通して課題を明確化し、実践にいかすことができる。	
	予習復習の内容	グループで学びを共有し深める。自己評価を通して新たな課題を明確にしておく。	

科目名	児童文化				担当者	佐々木 貴 弘						
区 分	選択必修	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	sasaki.takahiro@sewa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で通知。授業内容等に関する質問等は毎時、授業の前後に教室内で対応する。											
専門的 学習成果	①	児童文化について理解を深める。										
	②	児童文化財が担う保育現場における役割を考え、手作り保育教材の製作を行う。										
	③	代表的な児童文化財を実製作し、実演を通して体験的に学ぶ。										
	④	児童文化を共感し、将来、保育者としてその担い手になる素地を培っていく。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる児童文化に関することを理解し、保育現場における必要な基礎的知識・技能を身に付ける。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	子どもの発達や成長に即した保育実践力や、児童文化財を用いた実演発表力を高める。(専門的学習成果②③に関連)										
	(3)	子どもや保護者、及び地域社会における児童文化の意義を理解し、伝承の担い手としての保育者の役割を考えることができる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	子どもは、あそびや体験を通して、生きる知恵や力を身に付けていく。また、子どもの中には、独自の文化的活動があり、それらを営み、伝える術として、「昔話」「わらべうた」「伝承あそび」「児童文学」などで伝承されてきた。保育者養成内での「児童文化」の位置付けは、主に、幼児教育で用いられている絵本、紙芝居、遊び、絵描き歌など、保育者側(大人)が用意し、子どもに提供して情緒、感性、生活スキル向上に働きかける保育教材を総称している。その役割を担うものを「児童文化財」といい、絵本、紙芝居に加え、近年はパネルシアターなど、保育現場で多用されているシアター教材などがある。本講義は、保育者として実際に子どもの前で実演できるよう、作品製作・発表を通して体験的に学んでいく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	児童文化財に関する技法や役割をまとめるレポートを課す。								
		作品製作・発表	50	製作技法の習得。それに伴う材料準備、製作手順の理解、活動時の試行錯誤の様子、留意点へ配慮、実演や内容、作品管理、持ち帰りまで評価する。								
平常点	20	製作活動や発表への取り組み、意欲・態度を評価する。										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果(1)(2)(3)については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1)は専門的学習成果①②③により評価を行う。 (2)は専門的学習成果②③により評価を行う。 (3)は専門的学習成果④により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	川勝 泰介(著)、生駒 幸子(著)、浅岡 靖央(著)	『ことばと表現力を育む児童文化』				萌文書林						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
		『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』				文部科学省						
		『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』				厚生労働省						
		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』				内閣府・文部科学省・厚生労働省						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①事前学習、準備物等は、その都度指示。基本的に、保育現場で使える手作り児童文化財づくりを目標とします。製作・実演を中心に進めます(時間外学習約15時間)。各自、乳幼児を対象として保育教材研究に繋げることを目標とする。画材・手芸セット・は必要に応じて持参。エプロン(または汚れても良い服装)着用。長い髪はまとめる。教材費は、各々の製作物によって異なる(個人負担)。画材、教科書等は、番号・氏名を記入のこと。 ②ワークシートを基に、グループ内にて、アイデアや工夫点などを発表、共有し、学び合いを行う。また、製作中や発表時に、助言やコメントをする。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション 児童文化とは何か。	ワークシートへの取り組み。
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要について説明できる。	
2回	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。オリエンテーションの説明を踏まえて、学習目標を立てる。	映像教材を活用した児童文化財鑑賞。 基本的扱い方の確認。 多種多様な児童文化財の理解。
	授業内容	児童文化財(絵本、紙芝居、各種シアター等)について。	
3回	学習成果	各種児童文化財についての再確認と、基本的な扱いができる。	代表的な児童文化財(小作品)を選択し複数製作。 製作への取り組み。 実演、展示。 活動まとめ。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、図書館などで関連図書などを探し、資料収集を行うことができる。	
4回	授業内容	児童文化財製作①-1(小作品課題製作)伝えたいことを考える。	児童文化財製作①-2(小作品課題製作)方法・手段を考える。
	学習成果	現場で多用されている手作り作品を活用し、「伝えたいこと」「製作目標」を考えアイデアスケッチを行うことができる。	
5回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、「伝えたいこと」を踏まえ、いくつかテーマを設定する。	児童文化財製作①-3(小作品課題製作)素材研究。 製作目標に対し、使用場所に適した素材について考え選ぶことができる。
	授業内容	児童文化財製作①-2(小作品課題製作)方法・手段を考える。	
6回	学習成果	「伝えたいこと」に基づき、それを伝える方法・手段を考え説明することができる。	児童文化財製作①-4(小作品課題製作)媒体の製作。 児童文化財の伝達媒体、手段としての役割を意識しながら、作品製作ができる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、「製作物」を踏まえ、仕掛けや構造を、自分で試作試行することができる。	
7回	授業内容	児童文化財製作①-3(小作品課題製作)素材研究。	児童文化財製作①-5(作品発表)実演・鑑賞。 自分の作品を発表し、他者の作品を鑑賞することで、作品、活用法などを意見交換することができる。
	学習成果	製作目標に対し、使用場所に適した素材について考え選ぶことができる。	
8回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、手触り、強度、演出効果などを考え、適切な素材を準備することができる。	児童文化財製作②-1(保育実践に向けた保育教材製作)教材として。 代表的な児童文化財(シアター類)に関して、教材としての活用法を考え計画・設計できる。 製作への取り組み。 実演、展示、伝達。 活動まとめ。
	授業内容	児童文化財製作②-1(保育実践に向けた保育教材製作)教材として。	
9回	学習成果	「伝えたいこと」に基づき、それを伝える方法・手段を、自分で考え示すことができる。	児童文化財製作②-2(保育実践に向けた保育教材製作)方法・手段を考える。 「伝えたいこと」に基づき、それを伝える方法・手段を、自分で考え示すことができる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、製作物に関して、仕掛けや構造を考えることができる。	
10回	授業内容	児童文化財製作②-3(保育実践に向けた保育教材製作)素材研究。	児童文化財製作②-4(保育実践に向けた保育教材製作)お話創作。 オリジナル作品作りも視野に入れ、独自の児童文化財製作へ発展させることができる。
	学習成果	製作目標に対し、使用場所に適した素材について、自分で考え選ぶことができる。	
11回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、手触り、強度、演出効果などを考え、適切な素材を、自分で準備することができる。	児童文化財製作②-5(保育実践に向けた保育教材製作)実製作。 試行錯誤をしながら、「手作り保育教材」のよさを実感しながら製作することができる。
	授業内容	児童文化財製作②-4(保育実践に向けた保育教材製作)お話創作。	
12回	学習成果	児童文化財製作②-5(保育実践に向けた保育教材製作)実製作。	児童文化財製作②-6(保育実践に向けた保育教材製作)模擬保育。 保育現場を想定し、児童文化財を活用しながら模擬保育を行うことができる(グループ学習)。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、既存に限らず、自分で創作、考案し、実製作に繋げることができる。	
13回	授業内容	児童文化財製作②-6(保育実践に向けた保育教材製作)模擬保育。	児童文化財製作②-7(作品発表)実演・鑑賞。 グループ発表の中から、クラス全体へ紹介する作品を選出。クラスの中で実演することができる。
	学習成果	保育現場を想定し、児童文化財を活用しながら模擬保育を行うことができる(グループ学習)。	
14回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、模擬保育を経て、自己あるいは他者から評価を基に、修正することができる。	児童文化財製作②-7(作品発表)実演・鑑賞。 グループ発表の中から、クラス全体へ紹介する作品を選出。クラスの中で実演することができる。
	授業内容	児童文化財製作②-7(作品発表)実演・鑑賞。	
15回	学習成果	グループ発表の中から、クラス全体へ紹介する作品を選出。クラスの中で実演することができる。	児童文化への理解と児童文化財製作研究のまとめ・総括。 振り返りシートへの取り組み。 全体総括。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、全体発表から学びえたことを基に、自分の製作や実演について考えを深める。	
15回	授業内容	児童文化への理解と児童文化財製作研究のまとめ・総括。	振り返りシートへの取り組み。 全体総括。
	学習成果	手作り体験から、発表を通して、体験的発見的に、児童文化への理解を深め、表現することができる。	
15回	予習復習の内容	学習内容を総括し、児童文化への理解をより深く、保育現場における児童文化財の活用に向けて表現力を磨く。	振り返りシートへの取り組み。 全体総括。
	授業内容	児童文化への理解と児童文化財製作研究のまとめ・総括。	

科目名	保育内容の理解と方法					担当者	宮本美和子（実務家教員）					
区分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	集中
				授業時間数	30							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスアワー及び e-mail:miyamoto.miwako@m.seiwa.ac.jp オフィスアワーは初回の授業時に連絡する										
専門的 学習成果	①	幼稚園、保育園、認定子ども園の保育の流れについて子どもの発達段階をもとに理解する。										
	②	子どもの心身発達、気持ちを理解し評価することが出来る。										
	③	保育観に基づいた、子ども達への働きかけ、言葉かけ、興味づけなどを具体的に理解する。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる保育指導方法の具体的な方法を理解して実践につなげることが出来る。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	保育者として豊かな感性や想像力をもって子ども達と関わり、子どもの理解や支援が出来る。(専門的学習成果②に関連)										
	(3)	保育者として必要なコミュニケーション能力を有し、自ら主体的に保育に関ると共に常に課題意識を持って保育指導法のあり方を考える。(専門的学習成果③に関連)										
授業概要	保育者の大きな役割は、子どもの発達段階や個々の気持ちに応じながら、より良い方向へ導いていくことである。その為には、子どもを知ること、理解を深めること、そして保育者自身がしっかりとした保育観を持って子ども達と接することが大切である。そこで、どのような働きかけ、言葉かけ、興味付け、援助のもとで喜びや楽しさ、充実感が味わえるのかを授業の中で、講義と実務経験をもとにした具体的な事例検討の両面から理解する。その理解の基に実際の保育現場における指導のあり方を考え、実践につなげられるようにする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	20	保育の流れの理解と日常の幼児の気持ちの理解、及び、保育への導入方法、指導法を理解しているかを観点として評価を行う。								
		レポート	20	実際の保育で行われる折り紙、描画指導、紙粘土製作などを通しての指導法について理解できているかを観点として評価する。								
		最終レポート	60	保育観に基づいて、どのような働きかけ、言葉掛け、興味付け、援助が必要か理解できているかを観点に評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果の①で評価を行う (2) は専門的学習成果の②で評価を行う (3) は専門的学習成果の③で評価を行う											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	厚生労働省		『保育所保育指針』（平成29年3月告示）									
	厚生労働省		『保育所保育指針解説』									
	文部科学省		『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示）									
	文部科学省		『幼稚園教育要領解説』									
	内閣府・文部科学省・厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示）									
佐藤 哲也 編		『子どもの心によりそう保育課程論』						福村出版				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①毎回配布する資料、視聴覚資料を活用し授業を進める。事前事後学習として授業理解の為配布資料を読み返しておくこと。(予習週2時間程度)。事後学習としては毎回の授業後に学んだことの要点をミニレポートにまとめて提出する。その内容を評価の対象とするので毎回しっかりとまとめて提出すること。 ②毎回のレポートに対するフィードバックは毎回の授業で解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	「保育内容の理解と方法」の授業のねらいと目標について。	
	学習成果	「保育内容の理解と方法」の授業のねらいと目標について理解する。	
2回	予習復習の内容	シラバスを事前に読みその内容を理解する。ガイダンスの内容を踏まえて学習計画を立てる。	
	授業内容	導入の大切さ・幼児の心を読み取る。	
3回	学習成果	保育における導入の大切さと、幼児の気持ちを読み取り方について理解する。	
	予習復習の内容	授業内容についてミニレポートにまとめることと、日常出会う幼児の気持ちについて考えてみる。	
4回	授業内容	生活の流れについて① 新しい環境へ迎え入れるときの配慮。	
	学習成果	幼稚園と保育所の生活の流れについて理解すると共に受け入れる側の配慮について理解する。	
5回	予習復習の内容	授業内容についてミニレポートにまとめることと、子どもを新しい環境に迎え入れる配慮について自分自身で考えてみる。	
	授業内容	生活の流れについて② 園生活の流れと指導の方法。	
6回	学習成果	幼稚園と保育所の生活の流れを理解すると共にその指導方法について理解する。	
	予習復習の内容	授業内容についてのミニレポートと、日常出会う幼児の気持ちについて考えてみる。	
7回	授業内容	絵本・詩の世界について 絵本の読み方、詩の伝え方。	
	学習成果	絵本・詩の世界について知り実際の絵本の読み方、詩の伝え方を理解する。	
8回	予習復習の内容	配布プリントによる授業の復習と実際に絵本の読み聞かせと詩の暗誦をする。	
	授業内容	幼児の描画・製作の指導について。	
9回	学習成果	幼児の描画を見てその成長の様子を理解すると共にその製作過程と指導のあり方について理解する。	
	予習復習の内容	授業の復習とミニレポートのまとめをして製作過程における指導のあり方について自分自身で考えてみる。	
10回	授業内容	折り紙の指導① 基本的折り方の指導法。	
	学習成果	折り紙の基本的な折り方の順序とその指導法について理解する。	
11回	予習復習の内容	授業の復習とミニレポートのまとめと折り紙で自分自身が作成し、その指導法を実践する。	
	授業内容	折り紙の指導② 応用方法の指導方法。	
12回	学習成果	折り紙の基本を踏まえた上での応用の指導法について理解する。	
	予習復習の内容	授業の復習とミニレポートのまとめと折り紙の応用方法を自分自身で指導法を考える。	
13回	授業内容	指人形製作指導① 紙粘土の扱い方と創作の指導方法	
	学習成果	指人形製作における保育者の準備と指導方法の実際と紙粘土の扱い方を体験し、指導法を理解する。	
14回	予習復習の内容	紙粘土による製作に限らず、保育者の事前準備についてミニレポートにまとめる。	
	授業内容	指人形製作指導② 指人形の制作方法及び指導法。	
15回	学習成果	指人形の製作過程での保育者の配慮について自分自身が製作することで理解する。	
	予習復習の内容	指人形の製作過程における保育者の配慮と自身の制作過程についての学びを整理する。	
16回	授業内容	製作した人形を用いての詩のグループ発表会。	
	学習成果	自身で製作した人形を用いて幼児に向けた詩の発表をグループで発表し幼児への詩の伝え方を理解する。	
17回	予習復習の内容	実際の発表体験を通して感じたことをミニレポートにまとめ課題を持って今後の保育指導法を考える。	
	授業内容	人間関係と遊びの援助「わらべうたあそびを通して①」保育者との関係を中心に	
18回	学習成果	段階をふんだわらべうたの指導方法について今回は担任との関係を育むことについて理解する。	
	予習復習の内容	授業で行った内容をミニレポートにまとめると共に行ったわらべうたを何度も歌って自身のものにする。	
19回	授業内容	人間関係と遊びの援助「わらべうたあそびをとおして②」同年齢同士の関係を中心に。	
	学習成果	段階をふんだわらべうたの指導方法について同年齢の関係を中心とした段階について理解する。	
20回	予習復習の内容	授業で行った内容をミニレポートにまとめると共に行ったわらべうたを何度も歌って自身のものにする。	
	授業内容	人間関係と遊びの援助③ 異年齢との関係を中心に	
21回	学習成果	段階をふんだわらべうたの指導法について、異年齢の友だちとの関係をふまえた指導法について理解する。	
	予習復習の内容	授業で行った内容をミニレポートにまとめると共に行ったわらべうたを何度も歌い自身のものにする。	
22回	授業内容	まとめ（レポート）	
	学習成果	14回の授業を振り返って自身の保育観と保育指導方法について理解したことを文章にまとめる。	
23回	予習復習の内容	14回のレポートを振り返り自身の保育観と指導方法について文章にまとめることで自身のものとする。	

科目名	ピアノ I				担当者	岩 淵 棋 子 他					
区分	必修	1	単位	授業回数 30	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	通年
教員との連絡方法 質問等の受付方法	sato.mariko@sewai.ac.jp, iwabuchi.setsuko@sewai.ac.jp 初回授業時に各担当教員に確認すること。										
専門的 学習成果	①	基礎的なピアノのテクニックを習得し、人前で演奏を実践できる。									
	②	初見視奏、コード奏法など保育現場で応用できるピアノ独奏及び伴奏技能を高め、実践できる。									
	③	基本的な音楽理論を理解し、五線譜の読譜ができる。									
	④	ピアノによる子どもの歌の弾き歌いの技能を習得し、実践できる。									
汎用的 学習成果	(1)	五線譜の読譜力を高め、基礎的なピアノのテクニックを身につけることによって、保育現場で必要とされるピアノ演奏技能を習得し、実践できる。(専門的学習成果①③に関連)									
	(2)	初見視奏やコード奏法などの応用力を身につけ、豊かな表現力をもってピアノを演奏できる。(専門的学習成果①②に関連)									
	(3)	挨拶の歌、季節の歌や行事の歌など様々な場面で用いられる子どもの歌の弾き歌いを行い、保育現場での実践につなげることができる。(専門的学習成果②④に関連)									
	(4)	レッスンや試験で弾くことにより人前で演奏する時の態度・マナーを身につけ、地域社会で活用することができる。専門的学習成果①に関連									
授業概要	主としてピアノの個人レッスンを行う。初心者では五線譜の読譜力を高めながらピアノの基礎的なテクニックを習得し、子どもの歌の弾き歌いにも慣れるようになる。経験者はそれぞれのテクニックをさらに向上させ、子どもの歌の弾き歌いを数多く習得し、保育現場で実際に役立つような応用力を身につける。教材として、ピアノの基礎テクニック向上のための練習曲や、様々な雰囲気をもつピアノ曲、挨拶の歌、季節の歌、行事の歌など保育の現場で用いられている様々な子どもの歌を取り上げる。一人当たりのレッスン時間は20分である。										
	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準							
評価方法 基準等	専門的 学習成果	定期試験	50	前期末及び後期末に演奏試験を行い、全担当教員により評価する。							
		レポート									
	平常点	50	レッスンへの取り組み・意欲・態度により各担当教員が評価を行う。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) (4) については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①③により評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②により評価を行う。 (3) は専門的学習成果②④により評価を行う。 (4) は専門的学習成果①により評価を行う。										
	テキスト 等	著者・編集者名	書名	出版社名							
	小林美実監修・井戸秀編	『こどものうた100』	チャイルド社								
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名								
	安川加寿子訳編	『メトードローズ・ピアノ教則本』	音楽之友社								
	木村鈴代他共著	『これだけは知ってほしい楽典 はじめの一步』	カワイ出版								
	全国大学音楽教育学会編	『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌—唱歌童謡140年の歩み』	音楽之友社								
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①音楽に関わる基本的な技能の上達は、毎日の反復練習と各自の熟意が大切となる。予習復習を含めて毎日30分程度はピアノに触れて練習を行う。練習の継続が基礎的なテクニックの習得につながる。音楽を楽しみ、より高い音楽的能力を身につけるよう練習に励む。 ②課題動画提出後に、担当教員によるレッスン指導内容とアドバイスのフィードバックを行う。										

		授業計画	学習成果の評価	授業計画	学習成果の評価
18回	授業内容	レベリチェック、各自のアキスト・提示の課題。ピアノを弾くための基礎。読譜の基礎。	○各回において、前回のレッスン内容を踏まえて演奏できているか。 ○各回において、Google Classroomへ提出された課題へのフィードバックを行う。	後期オリエンテーション。夏休みの各自の課題の確認。	○各回において、前回のレッスン内容を踏まえて演奏できているか。 ○各回において、Google Classroomへ提出された課題へのフィードバックを行う。
	学習成果	ピアノを弾くための良い姿勢と手の形を保つことができる。指番号、五線譜と鍵盤の位置関係を理解し、レッスンの記録にまとめることができる。		夏休み中の練習成果を免除できる。	
28回	予習復習の内容	各自、提示された課題を練習する。課題を動画に撮り、Classroomに提出する。		レッスン内容を振り返り、課題に気が付けて練習する。課題を動画に撮り、Classroomに提出する。	
	授業内容	5本指の基本ポジションで弾き合った音をユニゾンで弾く。ト音譜表の理解。四分音符と二分音符、全音符の長さの理解。		コード奏の基礎 (ハ長調 I V V V 7)	
38回	学習成果	ト音譜表がゆっくりに読める。基本のポジションで両手で弾くことができる。音符の長さの区別を弾き分けることができる。授業内容を記録にまとめることができる。		学習成果	ハ長調の旋律は I V V の和音で子どもの歌に伴奏をつけることができる。レッスン内容を記録にまとめることができる。
	予習復習の内容	レッスンを振り返り、各自の課題を練習する。課題を動画に撮り、Classroomに提出する。		予習復習の内容	レッスンを振り返り、コード奏を練習する。課題を動画に撮り、Classroomに提出する。
48回	授業内容	基本ポジションで練習音程を弾く。ハ音譜表の理解。		授業内容	コード奏の基礎 (ハ長調 I V V V 7)、秋の歌：まつはつくり
	学習成果	ハ音譜表がゆっくりに読める。跳躍音程を弾くことができる。学習した音符の長さを正しく表現できる。		学習成果	ハ長調のコードを理解し、演奏できる。秋の歌「まつはつくり」を弾き歌いできる。
58回	予習復習の内容	レッスンを振り返り、各自の課題を練習する。音符の長さをまとめる。課題を動画に撮り、Classroomに提出する。		予習復習の内容	コード奏を練習する。課題を動画に撮り、Classroomに提出する。
	授業内容	大譜表の読譜。両手で異なる動きの楽曲を弾く。脱力して弾く。		授業内容	コード奏の基礎 (ハ長調 I V V V 7)、秋の歌：メリーさんのひつじ
68回	学習成果	両手で異なる動きの楽曲を弾くことができる。脱力して弾くことができる。		学習成果	ハ長調の旋律はコードで伴奏をつける。「メリーさんのひつじ」を弾き歌いできる。
	予習復習の内容	レッスンを振り返り、各自の課題を練習する。課題を動画に撮り、Classroomに提出する。		予習復習の内容	課題を動画に撮り、Classroomに提出する。
78回	授業内容	楽譜上の記号 (スラー、繰り返し記号) を生かして弾く。春の歌：ちよちよ、ふみふみ。		授業内容	コード奏の基礎 (ハ長調 I V V V 7)、いろいろな歌：せみらはつづくよこまで
	学習成果	スラーの意味を理解し、スラーを生かしてピアノで表現できる。繰り返し記号の意味を説明できる。		学習成果	ハ長調の旋律はコードで伴奏をつける。「せみらはつづくよこまで」を弾き歌いできる。
88回	予習復習の内容	楽譜上の記号の意味を復習する。レッスンを振り返り、各自の課題を練習する。課題を動画に撮り、Classroomに提出する。		予習復習の内容	課題を動画に撮り、Classroomに提出する。
	授業内容	指を緩めて弾く。春の歌：チャーリー、せんせいとおともだち他		授業内容	コード奏の基礎 (二長調 I V V V 7)、秋の歌：ももじ
98回	学習成果	5度より高い音程を認識し、弾くことができる。課題の春の歌を弾き歌いできる。		学習成果	二長調の曲はコードで伴奏をつけることができる。「ももじ」を弾き歌いできる。
	予習復習の内容	レッスンを振り返り、各自の課題を練習する。課題を動画に撮り、Classroomに提出する。		予習復習の内容	課題を動画に撮り、Classroomに提出する。
108回	授業内容	楽譜上の記号 (D.C.)、符号音符の長さの理解。表題から曲名を考えて弾く。いろいろな歌：むすんでひいて		授業内容	コード奏のまとめ、秋の歌：まっかやち、たき火
	学習成果	D.C.の理解。意味を理解し説明できる。符号音符の長さを理解し表現できる。		学習成果	曲の調性に応じてコード伴奏をつけることができる。「たき火」を弾き歌いできる。
118回	予習復習の内容	レッスンを振り返り、各自の課題を練習する。課題を動画に撮り、Classroomに提出する。		予習復習の内容	課題を動画に撮り、Classroomに提出する。
	授業内容	変化記号 (シャープ、フラット、ナチュラル) の理解。二長調、三長調の楽曲。夏の歌：うみ、あくしゅでんには		授業内容	スラー、スワップノートを生かして演奏する。いろいろなうた：いぬのおまわりさん
128回	学習成果	変化記号の意味を理解し、ト長調、二長調の楽曲をピアノで演奏できる。		学習成果	「いぬのおまわりさん」を弾き歌いできる。
	予習復習の内容	レッスンを振り返り、各自の課題を練習する。練習の記録をつける。課題を動画に撮り、Classroomに提出する。		予習復習の内容	課題を動画に撮り、Classroomに提出する。
138回	授業内容	休符 (全体符、二分休符、四分休符) の練習。問いと答えの形の理解。夏の歌：はみがきしよう		授業内容	冬の歌：お正月 いろいろなうた：ぞらさん
	学習成果	休符の長さを理解し、説明できる。問いと答えの形式を理解し、ピアノで表現できる。		学習成果	季節感をもつ弾き歌いができる。
148回	予習復習の内容	レッスンを振り返り、各自の課題を練習する。課題を動画に撮り、Classroomに提出する。		予習復習の内容	課題を動画に撮り、Classroomに提出する。
	授業内容	八分音符の練習。楽譜上の記号 (タイ) の理解。ハ長調の理解。前期試験の楽曲。夏の歌：あきりさんのおはなし		授業内容	冬の歌：雪 いろいろなうた：うちゅうせんとう
158回	学習成果	八分音符、タイを理解し、説明できる。ハ長調の楽曲をピアノで演奏できる。		学習成果	雪のリズムを正しく表現できる。
	予習復習の内容	レッスンを振り返り、各自の課題を練習する。練習の記録をつける。課題を動画に撮り、Classroomに提出する。		予習復習の内容	雪、うちゅうせんとうを復習する。課題を動画に撮り、Classroomに提出する。
168回	授業内容	指の独立。各自の前期試験前のレッスン。夏の歌：みずあそび		授業内容	後期試験曲の選曲。冬の歌：あてんぼうのサンタクロース
	学習成果	試験曲のテンポ、曲想などを理解し、適正な指使いが分かる。課題の秋の歌を弾き歌いできる。		学習成果	後期的に選曲にかかわる。あてんぼうのサンタクロースを歌頭を生かして表現できる。
178回	予習復習の内容	試験曲のテンポ、曲想などを理解して、適正な指使いで練習する。課題を動画に撮り、Classroomに提出する。		予習復習の内容	後期試験曲の清読み。課題を動画に撮り、Classroomに提出する。
	授業内容	各自の試験曲のレッスン。夏の歌：とんぼのはがね		授業内容	後期試験曲を教い、正しい指使いを確認する。いろいろなうた：アイアイ
188回	学習成果	指の感覚をもって、正しいリズムで表現できる。		学習成果	試験曲を教い、正しい指使いで両手で弾くことができる。短調の曲の雰囲気を考えて弾き歌いできる。
	予習復習の内容	レッスンを振り返り、試験曲の難し箇所を取り出して練習する。課題を動画に撮り、Classroomに提出する。		予習復習の内容	試験曲を両手で練習する。曲想を考えて秋の歌を練習する。課題を動画に撮り、Classroomに提出する。
198回	授業内容	各自の試験曲のレッスン。いろいろな歌：あめくまのこ		授業内容	試験曲を両手でゆっくりに弾く。いろいろなうた：おもちゃのマーチ
	学習成果	強弱、フレージング、和声感を表現できる。		学習成果	試験曲を両手でゆっくりに弾くことができる。
208回	予習復習の内容	レッスンを振り返り、強弱、フレージング、和声感に気を付けて練習する。練習の記録をつける。課題を動画に撮り、Classroomに提出する。		予習復習の内容	試験曲を少しアップテンポを上げて練習する。課題を動画に撮り、Classroomに提出する。
	授業内容	各自の試験曲のレッスン。夏の歌：とんぼのひらひら		授業内容	試験曲を弾き歌いで通して弾くことができる。いろいろなうた：ふしぎなポケット
218回	学習成果	試験曲の難し箇所を克服し、通して弾くことができる。		学習成果	試験曲を弾き歌いで通して弾くことができる。いろいろなうた：ふしぎなポケット
	予習復習の内容	レッスンを振り返り、通して前週で練習をする。課題を動画に撮り、Classroomに提出する。		予習復習の内容	試験曲を適切なテンポで、前週で弾けるようになる。課題を動画に撮り、Classroomに提出する。
228回	授業内容	試験のリハーサル。演奏時のマナー。身だしなみについて、試験に向けた練習の仕方について。		授業内容	後期試験曲のリハーサル。いろいろなうた：てのひらをたいてうらな
	学習成果	試験曲を暗譜で演奏できる。人前で弾く時に必要なことを理解し、課題を発見できる。		学習成果	試験曲を表現豊かに弾き歌いできる。
238回	予習復習の内容	リハーサルの内容を振り返り、試験に備えて練習する。		予習復習の内容	リハーサルを振り返り、試験に向けて人前で弾くための練習をする。
	授業内容	○前期試験終了後に、担当教員による 前期学習成果と試験時の選曲についてフィードバックを行う。		授業内容	○後期試験終了後に、担当教員による 後期学習成果と試験時の選曲についてフィードバックを行う。

科目名	子どもと音楽					担当者	岩 淵 祺 子 ・ 松 原 優 子					
区分	必修	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	通年
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。e-mailiwabuchi.setsuko@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	音楽の基礎理論を理解し、説明することができる。										
	②	コードネームを理解し、簡単な伴奏付けができる。										
	③	呼吸法と発声法を身につけ、歌詞の内容に適した歌唱表現ができる。										
	④	童謡や幼児のうたにおいて、歌うことやピアノを弾く表現活動ができるようになる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる音楽の専門的知識を理解し、基礎的な技能を身につける。(専門的学習成果①③に関連)										
	(2)	幼児の発達に合わせた保育表現技術を理解し、保育実践力を高める。(専門的学習成果②③に関連)										
	(3)	豊かな感性や想像力を伸ばし、保育活動の中で幼児のうたを歌い、ピアノで伴奏するための表現力を高める。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	領域「表現」のねらいや内容を踏まえ、乳幼児の表現活動の特徴・特質を理解する。基本的な保育表現技術の習得を通して、自身の感性を高める。表現(音楽)あそびの意義と特徴や、用具、楽器等の扱い方について学ぶ。各種表現活動を通して、領域「表現」と他領域との関連について理解を深める。保育者に必要な基礎的な技能として音楽力を身に付けるために音楽理論と歌唱表現を学ぶ。音楽理論を土台として読譜力を伸ばし、リズム、伴奏付けの理解を深め、呼吸法と発声法の基礎を身につけ、歌詞の内容に適した表情豊かな歌唱表現を理解し、指導力や実践力を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		前期試験	30	音楽理論の筆記試験と歌唱実技試験の総合評価を行う。								
		後期試験	30	音楽理論の筆記試験と歌唱実技試験の総合評価を行う。								
汎用的 学習成果	小テスト・ 発表	40	各10%を4回(音楽理論2回・声楽2回)実施する。									
	汎用的 学習成果	汎用的学習成果は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1)は専門的学習成果①③で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②③で評価を行う。 (3)は専門的学習効果④で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
	木村鈴代 共著	『これだけは知ってほしい楽典 はじめの一步』					カワイ出版					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
	小林美実編	『子どものうた100』					チャイルド本社					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	幼児表現教育研究会 編著	『幼児のための表現指導-うたって、つくって、あそぼう』					音楽之友社					
	①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。(予習:週2時間程度)事後学習としては、小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので、復習をしっかりすること。(復習:週2時間程度) ②小テスト及び前期試験、後期試験に対するフィードバックは実施後に、正解を示し解説または講評を行う。											

		授業計画		学習成果の評価		授業計画		学習成果の評価	
1回	授業内容	保育者に必要とされる音楽の専門的知識習得の意義と目的。楽典の基礎知識について。		○音楽懸アଙ୍କトを1回目に実施する。		16回	授業内容	オリエンテーション 呼吸法・発声法	
	学習成果	音名・音節号の理解ができる。					学習成果	正しい呼吸法を理解し、声を出すことができる。	
	予習復習の内容	音節号の書き方を理解し、楽譜と鍵盤位置の認知、音名との照合ができるようにする。					予習復習の内容	腹式呼吸の練習をする。	
2回	授業内容	三種の音名、音符と休符について				17回	授業内容	呼吸法・発声法の実践 春の子ども歌の歌唱(1)	
	学習成果	イタリア、日本、英米音名読みと音符休符の理解ができる。					学習成果	正しい呼吸法・発声法を理解して声を出すことができる。	
	予習復習の内容	音名と音符・休符の種類や長さや書き方について理解する。					予習復習の内容	春の子ども歌を歌う練習をする。	
3回	授業内容	拍子記号とリズム(付点音符)		○小テスト3回目で音名、音符、休符について小テストを実施する。		18回	授業内容	呼吸法・発声法の実践 春の子ども歌の歌唱(2)	
	学習成果	単純拍子の理解とリズムの聞き取り、実践ができる。					学習成果	正しい呼吸法・発声法を実践し歌うことができる。	
	予習復習の内容	四分音符を分母とする拍子(2拍子、3拍子、4拍子)を説明できるようにする。					予習復習の内容	春の子ども歌を歌う練習をする。	
4回	授業内容	複合拍子と小節線及び春(4月・5月)の童謡				19回	授業内容	呼吸法・発声法の実践 夏の子どもの歌唱(1)	
	学習成果	複合拍子と小節線(縦線、複縦線、終止線)が理解できる。春の子どものうたを歌うことができる。					学習成果	正しい呼吸法・発声法により伸び伸びとした声で歌うことができる。	
	予習復習の内容	八分音符を分母とする拍子(6拍子、9拍子)を説明できるようにする。					予習復習の内容	春の子ども歌の練習をする。	
5回	授業内容	変化記号と全音・半音について				20回	授業内容	響く声・歌詞の音 夏の子どもの歌唱(2)	
	学習成果	変化記号(♯・b・n)の名称と意味を理解する。全音・半音について理解し、説明できる。					学習成果	響く声で歌詞を正確な発音で歌うことが理解できる。	
	予習復習の内容	楽譜上の変化記号と鍵盤の位置を確認する。					予習復習の内容	夏の子どもの歌の練習をする。	
6回	授業内容	音程と夏の子どものうたを歌う。				21回	授業内容	響く声・歌詞の発音 秋の子どもの歌唱(1)	
	学習成果	長3度と短3度について理解し、説明できる。					学習成果	響く声で歌詞を正確な発音で歌うことができる。	
	予習復習の内容	鍵盤(白鍵・黒鍵)を見ながら、長3度と短3度の音程関係を理解する。					予習復習の内容	夏の子どもの歌の練習をする。	
7回	授業内容	長調の音階、及びメジャーコードについて				22回	授業内容	歌唱表現 秋の子どもの歌唱(3)	
	学習成果	長調の音階とメジャーコードについて理解する。					学習成果	歌曲の内容(音楽・歌詞)を理解し表情豊かに歌うことができる。	
	予習復習の内容	長調の音階の構成を鍵盤上で理解する。					予習復習の内容	夏の子どもの歌の練習をする。	
8回	授業内容	ハ長調の主要三和音とコードネーム(曲奏に関する記号)について				23回	授業内容	歌唱表現の充実 これまでのまとめ 小テストの練習	
	学習成果	ハ長調の主要三和音(長三和音)とコードネームを理解し、こどものうたに簡単な伴奏をつけることができる。					学習成果	これまで学んだ呼吸法・発声法を発展させ響く声・歌詞の発音を大切に歌うことができる。	
	予習復習の内容	三和音(長三和音)の根音とコードネームの一致を理解する。					予習復習の内容	秋の子どもの歌の練習をする。	
9回	授業内容	ニ長調の主要三和音について		○小テスト9回目で音楽理論のテストを実施する。		24回	授業内容	小テスト(春・夏・秋の子どもの歌の課題より選曲し歌う)	
	学習成果	ニ長調の主要三和音を理解し、それらを用いて子どものうたに伴奏をつけることができる。					学習成果	歌曲の内容(音楽・歌詞)を理解し、子どもに語りかけるように歌うことができる。	
	予習復習の内容	ニ長調のカデンツを弾けるようにする。					予習復習の内容	秋の子どもの歌の練習をする。	
10回	授業内容	ト長調の主要三和音について				25回	授業内容	二重唱(1)／秋の子どもの歌唱(4)	
	学習成果	ト長調の主要三和音を理解し、それらを用いて子どものうたに伴奏をつけることができる。					学習成果	二重唱:それぞれのパートの音取りができる。秋の子どもの歌を表情豊かに歌うことができる。	
	予習復習の内容	ト長調のカデンツを弾けるようにする。					予習復習の内容	二重唱／秋の子どもの歌の練習をする。	
11回	授業内容	ハ長調の主要三和音について				26回	授業内容	二重唱(2)／秋の子どもの歌唱(5)	
	学習成果	ハ長調の主要三和音を理解し、それらを用いた伴奏に生かすことができる。					学習成果	二重唱:互いのパートを聴き合い歌うことができる。	
	予習復習の内容	ハ長調のカデンツを弾けるようにする。					予習復習の内容	二重唱／秋の子どもの歌の練習をする。	
12回	授業内容	マイナーコードについて				27回	授業内容	二重唱(3)／冬の子どもの歌唱(1)	
	学習成果	マイナーコードの構造を理解し、弾くことができる。					学習成果	二重唱:互いのパートを聴き合い表情豊かに歌うことができる。クリスマス・ソングを楽しく歌うことができる。	
	予習復習の内容	マイナーコードとメジャーコードの違いを理解する。					予習復習の内容	二重唱／秋の子どもの歌の練習をする。	
13回	授業内容	属七の和音について				28回	授業内容	様々な歌唱表現について(1)／冬の子どもの歌唱(2)	
	学習成果	属七の和音の構造を理解し、弾くことができる。					学習成果	楽器(カステネット、鈴、トライアングルなど)を演奏して歌うことができる。冬の子どもの歌を表情豊かに歌うことができる。	
	予習復習の内容	属七の和音の響きを感じ取る。					予習復習の内容	冬の子どもの歌の練習をする。	
14回	授業内容	スラー、テヌート、スタッカート等について				29回	授業内容	様々な歌唱表現について(2)／冬の子どもの歌唱(3) 期末試験曲の練習	
	学習成果	スラー、テヌート、スタッカート、及びベルグの使い方について理解し、表現できる。					学習成果	楽器の演奏をしながら伸び伸びと歌うことができる。	
	予習復習の内容	様々な記号について実践してみる。					予習復習の内容	期末試験曲の練習	
15回	授業内容	前期の音楽理論筆記試験と弾き歌いの発表		○前期試験15回目で実施する		30回	授業内容	期末試験(子どもの歌の課題より選曲し歌う)／まとめ	
	学習成果	音楽理論を理解して、表現できる。		・音楽理論 ・コード伴奏による弾き歌い			学習成果	歌曲の内容(音楽・歌詞)を理解し、明るく伸びのびとした歌声と表情豊かな音楽表現で子どもに語りかけ歌うことができる。	
	予習復習の内容	試験に向けて楽典の復習と、コード伴奏の弾き歌いを練習する。					予習復習の内容	歌唱表現の発展を目指し積極的に新しい子どもの歌のレパートリーを学んでいく。	

科目名	子どもと造形あそび					担当者	佐々木 貴 弘					
区分	選択必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	sasaki.takahiro@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で通知。授業内容等に関する質問等は毎時、授業の前後に教室内で対応する。											
専門的 学習成果	①	乳幼児の造形活動の基礎技術と知識を身に付ける。										
	②	乳幼児の造形表現の発達と特質を理解し、共感を持って援助できる。										
	③	造形活動を、安全かつ安心してできる環境を整えることができる。										
	④	造形表現を通して得る製作実感を共有し、体験的に保育内容について関連領域の知識を考察できる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる造形表現的活動を理解し、保育現場における必要な基礎的知識・技能を身に付ける。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	子どもの発達や成長に即した表現活動への保育実践力や、応用展開力を高める。(専門的学習成果②③④に関連)										
	(3)	子どもや保護者、及び地域社会における造形表現的活動の意義を理解し、保育者としての役割を果たすことができる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	幼児期の造形表現活動は、体全体が感覚器官であり、造形表現活動は、乳幼児の感覚や感性を養う上で、発達や成長に大きく関わる。本授業では、基本的な画材・用具の使用法を習得し、自然素材も取り入れ、将来の保育者にとって、生きる力を育む造形あそびを学ぶ場となるよう、製作活動を展開していく。主に平面造形を取り上げ、絵画表現の基本的な活動を行い、乳幼児期の表現の特質を理解し援助できるよう、保育技術や、活動の留意点を学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	40	毎時、技法や活動に関するまとめのレポートを課す。また、各自考案した活動、作品活用、展示法も評価する。								
		作品製作・発表	40	製作技法の習得。それに伴う材料準備、製作手順の理解、活動時の試行錯誤の様子、留意点へ配慮、発表と内容、作品管理・持ち帰り、後片付けまで評価する。								
汎用的 学習成果	平常点	20	製作活動や発表への取り組み、意欲・態度を評価する。									
	汎用的 学習成果	汎用的学習成果1.2.3については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②により評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③④により評価を行う。 (3) は専門的学習成果④により評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
	横英子	『保育をひらく造形表現』					萌文書林					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
	文部科学省	『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』					フレーベル館					
	厚生労働省	『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』					フレーベル館					
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』					フレーベル館					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①準備物、学習履修上の留意点は、事前学習、準備物等は、その都度指示。受講後は、毎時、活動ごとにまとめのプリントを課す(時間外学習約15時間)。各自、乳幼児あるいは福祉施設利用者を対象とした中心活動を考え教材研究に繋げる。教科書、スケッチブック、画材セットは毎回持参。エプロン(または汚れても良い服装)着用。おしぼり準備。長い髪はまとめる。教材費一人500円(半期分)集金。画材、教科書等は、番号・氏名を記入のこと。 ②まとめのプリントを基に、週週、グループ内にて、アイデアや工夫などを発表、共有し、学び合いを行う。また、製作中や発表時に、助言やコメントをする。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション 幼児と造形(平面造形)について	ワークシートへの取り組み。
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要について説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。オリエンテーションの説明を踏まえて、学習目標を立てる。	
2回	授業内容	画材、用具について(フィンガーペインティング(指絵)、ちぎり絵他から考える)	製作への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。
	学習成果	基本的な画材・用具の扱い方について、実際に絵画製作をしながら体験的に学び製作することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各技法ごとにまとめを行い、技法を応用した活動を考察する。	
3回	授業内容	子どもと造形あそび①絵画技法1(デカルコマニー、ドリッピング、にじみ、マープリング他)	製作への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。
	学習成果	造形あそびを通して、実際にいくつかの技法を体験的に学び製作することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各技法ごとにまとめを行い、技法を応用した活動を考察する。	
4回	授業内容	子どもと造形あそび②絵画技法2(フロッキング、スパックリング、コラージュ他)	製作への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。
	学習成果	造形あそびを通して、実際にいくつかの技法を体験的に学び製作することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各技法ごとにまとめを行い、技法を応用した活動を考察する。	
5回	授業内容	子どもと造形あそび③絵画技法3(パナック(はじき絵)、スクラッチ(ひっかき絵)他)	製作への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。
	学習成果	造形あそびを通して、実際にいくつかの技法を体験的に学び製作することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各技法ごとにまとめを行い、技法を応用した活動を考察する。	
6回	授業内容	版画①(消しゴムスタンプづくり、スタンピング(各種素材、野菜など))	製作への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。
	学習成果	簡単な版画を通して、実際にいくつかの技法を体験的に学び製作することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各技法ごとにまとめを行い、技法を応用した活動を考察する。	
7回	授業内容	版画②(型あそび、ステンシル(型紙版))	製作への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。
	学習成果	簡単な版画を通して、実際にいくつかの技法を体験的に学ぶ。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各技法ごとにまとめを行い、技法を応用した活動を考察する。	
8回	授業内容	版画③(紙版画、ローラー遊び)	製作への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。
	学習成果	簡単な版画を通して、実際にいくつかの技法を体験的に学び製作することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各技法ごとにまとめを行い、技法を応用した活動を考察する。	
9回	授業内容	絵画技法(応用)(切絵、ステンドグラス、かけ絵他)	製作への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。
	学習成果	光や影を活用した絵画製作を考え、実際にいくつかの技法を体験的に学び製作することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各技法ごとにまとめを行い、技法を応用した活動を考察する。	
10回	授業内容	絵画技法(応用)(イラスト作成、園だより(情報機器を用いて))	製作への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。
	学習成果	情報機器を活用したイラスト・デザインを製作し、お便りや広報物の作成に生かし、製作することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各技法ごとにまとめを行い、技法を応用した活動を考察する。	
11回	授業内容	壁面構成①(造形活動と環境構成(保育室デザイン))	共同製作(グループ活動)への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。
	学習成果	将来の職場となる保育室や施設の壁面(掲示板)などを想定し、造形活動を通じた環境構成を考え製作することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、空間造形や、装飾的な活動への関心を持ち、他の事例や参考作品などの資料収集ができる。	
12回	授業内容	壁面構成②(個人製作から共同製作へ、レイアウトを考える)	
	学習成果	個人製作から、共同製作への展開を考え、その為の具体的な方法を体験的に理解し製作することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、実際に行われている共同製作の作品に対し関心を持ち、鑑賞を通して学びを深めることができる。	
13回	授業内容	壁面構成③(技法活用と応用表現)	
	学習成果	習得した技法を基に、活用法を考え応用し、表現活動の幅を広げ製作することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各技法を駆使し、応用した表現活動を考察することができる。	
14回	授業内容	壁面構成④(伝えたいこと、表したいこと、主題と題材について)	
	学習成果	主題と題材について考え、担任として関わりを想定し、テーマ性を重視した共同製作への試みを行うことができる。	
	予習復習の内容	乳幼児の造形あそびから、テーマ性を意識した共同製作まで、造形活動の展開を考える。	
15回	授業内容	まとめ(作品発表、活動振り返り、総括)	振り返りシートへの取り組み。 全体総括。
	学習成果	授業内容の総括を行い、造形表現活動の意義を考え発表することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を総括し、造形表現への理解を深め、保育現場における領域表現(造形表現)の展開を考察する。	

科目名	子どもと運動あそび				担当者	金野麻衣						
区分	選択必修	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	16	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、またはメール (konno.mai@m.seiwa.ac.jp) への連絡とする。 授業内容に関する質問等は授業の前後に受け付ける。											
専門的 学習成果	①	乳幼児の運動発達や健康をとりまく現状をふまえ、運動遊びの意味や意義、内容を理解する。										
	②	身体を動かすことの楽しさや面白さをはじめ、達成感や自己肯定感、社会性の発達について体験を通して理解を深める。										
	③	発達段階をふまえ、遊具・用具等を活用し創意工夫しながら取り組むことができる。										
	④	指導・援助する際の配慮や準備の重要性を理解するとともに課題を見出し考察することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	乳幼児の運動発達や健康に関連する専門的知識および現状を理解し、子ども理解するために他者と協働しながら積極的な行動ができる。(専門的学習成果①②)										
	(2)	運動遊びにおける発達や育ちを理解し、教材研究および指導法、援助、環境構成について体験を通して学び続けることができる。(専門的学習成果②③④)										
授業概要												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		実技試験	30	実技試験を実施し、評価を行う。								
		課題	40	記録および課題の内容、提出、体裁、文脈、独創性、態度、意欲で評価を行う。(提出期限を厳守)								
平常点	30	授業への参加態度(個人・集団での取り組み)、関心、意欲を評価する。										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により行う。 (1)は専門的学習成果①②で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②③④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名				
	柴田卓・石森真由子	『楽しく学ぶ運動遊びのすすめ』						株式会社みらい				
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名				
	文部科学省	『幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説』						フレーベル館				
	厚生労働省	『保育所保育指針・保育所保育指針解説』						フレーベル館				
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』						フレーベル館				
	文部科学省	『幼児期運動指針』										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①この科目では時間外学習としては、<事前学習>授業内理解のため、テキストあるいは指示した資料を読んでいただくこと。また体調管理に努め、ストレッチなどをしていただくことが望ましい。(週2時間程度) <事後学習>授業ごとの記録をまとめ、授業内で示された課題に取り組むこと。提出期限が指定されているものについては、厳守すること。(週2時間程度) 動きやすい服装(フード付き、袖や裾の長いものは不可)と指定されている靴で出席すること。安全に活動することができるようアクセサリ類は外し、髪型や爪の長さにも十分気をつけること。汗拭きタオルや水分補給などは各自準備をすること。 ②記録に対するフィードバックは授業内で行うため、自主的に学びを発展させるようにすること。実技試験に対するフィードバックは実施後に示す。体験を通じた理解や気づきを重視するため、グループワークでは協調性を持ち、積極的に取り組むことを期待する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス・乳幼児の運動および発達の現状の理解、運動遊びの意義	○記録および課題の提出 指示された期限までに取り組んだ内容と気づき、課題についてイラストとともにまとめて提出する。また、課題に関わる資料の読み取ることでも更なる理解に努めること。 ○自己評価、他者評価においては、その視点、言葉選び、表現、タイミング、雰囲気作りについて考慮し取り組むこと。
	学習成果	子どもの体力や運動環境の現状、運動遊びの意義について知る。	
予習復習の内容	幼児期運動指針を読んでくる。発達の特性に応じた運動遊びの大切さについてまとめる。		
2回	授業内容	遊具を用いた運動遊び①フープ・ボール・棒	
	学習成果	遊具の活用法や工夫を知り、遊具の特性を知る。	
予習復習の内容	前回の記録を確認する。テキスト等を用いて運動遊びを調べ授業記録にまとめる。		
3回	授業内容	遊具を用いた運動遊び②フープ・ボール・縄	
	学習成果	遊具の活用法や工夫を知り、遊具の特性を知る。	
予習復習の内容	前回の記録を確認する。テキスト等を用いて運動遊びを調べ授業記録にまとめる。		
4回	授業内容	遊具を用いた運動遊び③パルーン	
	学習成果	遊具の活用法や工夫を知り、遊具の特性を知る。	
予習復習の内容	前回の記録を確認する。テキスト等を用いて運動遊びを調べ授業記録にまとめる。		
5回	授業内容	ルールのある運動遊び	
	学習成果	ゲームや競争を含む運動遊びのポイントを知る。	
予習復習の内容	前回の記録を確認する。テキスト等を用いて運動遊びを調べ授業記録にまとめる。		
6回	授業内容	体操・表現遊び①乳幼児の体操やダンスの理解	
	学習成果	保育者としての表現法や指導法について理解し、実践する。	
予習復習の内容	前回の記録を確認する。テーマに合わせた課題に取り組み授業記録にまとめる。		
7回	授業内容	体操・表現遊び②表現法や指導法の理解	
	学習成果	保育者としての表現法や指導法について理解し、実践する。	
予習復習の内容	前回の記録を確認する。テキスト等を用いて運動遊びを調べ授業記録にまとめる。		
8回	授業内容	身近な素材を使った運動遊び・まとめ	
	学習成果	保育現場で活用されやすい素材を活かした遊びの工夫や他科目との連携を知る。	
予習復習の内容	これまでの実践を通じた学びをまとめる。		
9回	授業内容		
	学習成果		
予習復習の内容			
10回	授業内容		
	学習成果		
予習復習の内容			
11回	授業内容		
	学習成果		
予習復習の内容			
12回	授業内容		
	学習成果		
予習復習の内容			
13回	授業内容		
	学習成果		
予習復習の内容			
14回	授業内容		
	学習成果		
予習復習の内容			
15回	授業内容		
	学習成果		
予習復習の内容			

科目名	教育方法				担当者	小森谷 一 朗						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスアワー及びemail。オフィスアワー及びemail addressは初回の授業時に連絡する。										
専門的 学習成果	①	これからの社会を担う子どもに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法や教育の技術を説明できる。										
	②	子ども理解とその方法や子ども理解に基づいた評価について説明できる。										
	③	遊びを通じた総合的な指導や環境を通じた保育について説明できる。										
	④	基本的な生活習慣の自立を目指した保育や家庭・地域と連携した保育について説明できる。										
	⑤	情報機器を活用した効果的な保育や適切な教材の作成方法について説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	教育の方法や教育の技術等を学ぶことを通して、保育者に必要とされる専門的知識を習得し、実践につなげることができる。(専門的学習成果①②)										
	(2)	子どもの興味や関心とそれを取り巻く環境を知り、支援の内容と方法に関する知識や技能を身につけ、援助ができる。(専門的学習成果③④⑤)										
授業概要	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法や教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能等を身につける。具体的には、幼児教育・保育の基盤となる子ども理解の在り方やそれを踏まえた保育の計画・実践・評価といった保育方法の基礎的な理論と実践の理解を目指す。また、保育者として関わり方や子どもの関係性を捉える方法についての理解を深める。さらに、情報機器を含めた教材の活用に関する基礎的な知識・技能の習得を目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		リアクション ペーパー	30	授業内容を踏まえたリアクションペーパーの内容を評価する。(＠2点×15回)								
		テスト	30	正答率に応じて評価する。(＠10点×3回)								
		ワークシート	25	授業内で取り組むワークシートの内容を評価する。(＠5点×3回、10点×1回)								
	レポート	15	授業内容を踏まえたレポートの内容を評価する。(＠15点×1回)									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1)は、専門的学習成果①・②にて評価を行う。 (2)は、専門的学習評価③・④・⑤にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
	文部科学省	『幼稚園教育要領』					フレーベル館					
	厚生労働省	『保育所保育指針』					フレーベル館					
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』					フレーベル館					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業は、テキスト・参考資料・配布資料を基にして進める。また、授業計画に従い、時間外学習を必ず行うこと。 【事前学習（予習）週2時間程度】 テキストや事前に指示した内容、事前配布資料などを読み、分からない言葉は調べておくこと。特に、授業内容に関連する部分については、事前に関係する文献を読み理解を深めておくこと。 【事後学習（復習）週2時間程度】 毎回の学習内容を振り返りを行い、要点や疑問点、課題などについてまとめておくこと。テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりと行うこと。 ②フィードバックについては以下の通りとする。 【リアクションペーパー・レポート】実施後に記述のポイントとなる点を授業の中で解説する。 【テスト】実施後に授業の中で解答・解説する。 【ワークシート】実施後に授業の中で模範となる例を示し、解説する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	保育の基本と保育の方法	
	学習成果	保育とは何か、保育方法とは何かを切り口に幼児教育・保育の基本を説明できる。	
2回	予習復習の内容	予習：シラバスを熟読する。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
	授業内容	子ども理解とその方法	
3回	学習成果	保育における子ども理解の重要性やそれを基にした保育方法について説明できる。	
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
4回	授業内容	子ども理解に基づいた評価	
	学習成果	保育における子ども理解に基づいた評価やPDCAサイクルについて説明できる。	
5回	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
	授業内容	子どもにとっての遊び	
6回	学習成果	子どもにとっての遊びとはどのような意味があるのかを説明できる。	
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
7回	授業内容	遊びを通しての総合的な指導	
	学習成果	遊びを通しての総合的な指導やそれを支える保育者の関わりについて説明できる。	
8回	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
	授業内容	環境を通じた保育	
9回	学習成果	環境を構成することの意義や意味を学び、環境を通じた保育の方法について学ぶ。	
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
10回	授業内容	保育における個と集団	
	学習成果	様々な保育形態とその特徴を基に、子どもにとってふさわしい園生活について説明できる。	
11回	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
	授業内容	子どもの遊びとその環境構成や援助	
12回	学習成果	遊びを展開させるために保育者にはどのような環境構成や援助が必要なのかを説明できる。	
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
13回	授業内容	基本的な生活習慣の自立と道徳性の芽生え	
	学習成果	園生活を通して行う基本的な生活習慣の自立や道徳性の芽生えなどの生活の指導について説明できる。	
14回	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
	授業内容	子ども理解に基づく発達援助	
15回	学習成果	保育の場における「気になる子」への理解や支援について説明できる。	
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
16回	授業内容	家庭・地域と連携した保育とその実際	
	学習成果	家庭や地域と連携した望ましい保育について、実践例を基に説明できる。	
17回	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
	授業内容	児童文化財に関わる保育とその実際	
18回	学習成果	児童文化財を保育に活用することの意義やその実際について説明できる。	
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
19回	授業内容	指導案の作成	
	学習成果	題材を決めて短い計画の指導案作成に取り組むことができる。	
20回	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
	授業内容	情報機器を活用した保育とその実際	
21回	学習成果	情報活用能力基礎の育成を視野に入れた保育環境としての活用について説明できる。	
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
22回	授業内容	小学校との接続	
	学習成果	小学校教育や幼児教育との連携・接続やこれから幼児教育に求められることを説明できる。	
23回	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	

科目名				教育実習事前事後指導Ⅰ				担当者		宮本 美和子 ・ 小森谷 一朗 ・ 金野 麻衣			
区 分	必修	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	通年	
				授業時間数	30	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。オフィスアワーは授業内で連絡する。											
専門的 学習成果	①	教育実習の意義・目的・内容を理解し、取り組むことができる。											
	②	教育実習生として遵守すべき義務や責任を理解し、子どもの遊びと心身の発達について理解を深め、幼稚園・認定こども園の教育活動に意欲的に参加することができる。											
	③	自らの実習で得られた知識と経験を振り返り、学習の新たな目標・課題を明確にできる。											
汎用的 学習成果	(1)	乳幼児に関する専門的知識と基礎的な技能を身につけ、実践につなげながら自身の課題を見つけることができる。(専門的学習成果①③)											
	(2)	保育者として自覚し、豊かな感性や想像力、表現力をもって、子どもの理解や支援を意欲的に取り組むことができる。(専門的学習成果②③)											
授業概要		教育実習の意義・目的および実習生として遵守すべき心構えや態度を学ぶ機会とする。実習に臨むための事前の準備をはじめ幼児理解や観察の視点と方法、記録、教材研究、指導計画の作成等を学ぶ。また、全体、グループあるいは個別指導を基に事前・事後指導を実施し、保育者としての自覚や意識を高め、専門的知識の理解と子ども理解を深める。実習後の反省と総括、そして1・2年生が合同で実施する実習報告会から、今後に向けての自己の課題や展望を持てるようにする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート	10	観察実習協力園に向けたレポートの内容、提出状況、体裁、文脈で評価を行う。									
		課題	40	各種提出物の内容、提出状況課題、体裁、文脈、独創性で評価を行う。									
	平常点	50	実習園からの評価および授業、グループワークへの態度・関心・意欲を評価する。										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により行う。 (1)は専門的学習成果①③で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②③で評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名							
	聖和学園短期大学保育 学科	『教育・保育実習ガイドブック』											
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名							
	文部科学省	『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』				フレーベル館							
	厚生労働省	『保育所保育指針』『保育所保育指針解説書』				フレーベル館							
	内閣府・文部科学省・ 厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』				フレーベル館							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①この科目では時間外学習(15時間)として、<事前学習>幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み、理解を深めること。<事後学習>実習に必要な教材準備・研究、指導案の作成、学習成果と課題の整理、提出、まとめを行うこと。 ②実習園からの評価については全体およびグループ、個別指導にてフィードバックを実施。提出課題については確認もしくは添削後、全体もしくはグループ、個別指導等に随時フィードバックを実施。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	教育実習の意義と目的、流れの確認	
	学習成果	幼児教育の現状と、幼稚園、認定こども園等について説明できる。	
2回	予習復習の内容	実習ガイドブックを読み、実習園の違いと実習の流れについて説明できる。	
	授業内容	実習生として遵守すべき義務や責任の自覚について	
3回	学習成果	保育者になるにあたっての準備物や意識を高め、説明できる。	
	予習復習の内容	実習希望先について調べ、第3希望までまとめる。	
4回	授業内容	幼稚園・認定こども園の役割と子どもの生活、観察実習の心得と留意事項	
	学習成果	実習に向けた事前準備の確認と守秘義務について説明できる。	
5回	予習復習の内容	ガイドブックを読み込み、個別に必要なものを準備する。	
	授業内容	幼稚園における保育および子どもの発達についての観察および記録について	
6回	学習成果	観察のポイントや子ども理解に向けた方法や記録について説明できる。	
	予習復習の内容	ガイドブックを読み込み、記録の仕方や観察について理解する。	
7回	授業内容	子ども理解と援助についての協同学習	
	学習成果	グループでの実習に取り組み、報告できる。	
8回	予習復習の内容	観察実習に向けた実習課題について考える。	
	授業内容	実習記録の書き方の留意点	
9回	学習成果	全体もしくはグループで実習での学びや反省の記録方法を説明できる。	
	予習復習の内容	実習時のメモを再度確認し、自分の言葉で伝えられるようにまとめる。	
10回	授業内容	幼稚園における指導計画の内容と理解	
	学習成果	グループもしくは個別で指導計画について理解しまとめることができる。	
11回	予習復習の内容	実習時のメモ等を再度確認し、自分の言葉で伝えられるようにまとめる。	
	授業内容	保育目標の達成にむけた保育の構想	
12回	学習成果	実習報告会を通して、保育目標等と自身の課題について報告できる。	
	予習復習の内容	実習報告書を読み込み、準備を進める。	
13回	授業内容	構想を展開するための教材研究	
	学習成果	実習に向けた事前準備と守秘義務、役割分担について報告できる。	
14回	予習復習の内容	グループ内の役割分担を決め、報告する。	
	授業内容	構想を展開するための指導計画	
15回	学習成果	保育計画や指導案を作成できる。	
	予習復習の内容	聖和幼稚園の指導案を読み込み、理解する。	
16回	授業内容	子どもの発達をふまえた考察の観点の理解	
	学習成果	ロールプレイを通して、客観的視野を広め、課題解決方法を発表できる。	
17回	予習復習の内容	教材研究や環境構成について理解を深める。	
	授業内容	保育活動実践	
18回	学習成果	保育実践を通して環境構成や援助について説明できる。	
	予習復習の内容	事前準備の確認および担当部分のロールプレイを実践しておく。	
19回	授業内容	実習活動の共有化の方法にかかわる理解	
	学習成果	全体もしくはグループで実習での学びを共有し、報告できる。	
20回	予習復習の内容	実習時のメモを再度確認し、自分の言葉で伝えられるようにまとめる。	
	授業内容	体験の振り返りと自己の課題の明確化(今後習得に必要な知識・技能の理解)	
21回	学習成果	グループもしくは個別で実習での学びや反省を確認し、今後の課題を報告できる。	
	予習復習の内容	実習時のメモ等を再度確認し、自分の言葉で伝えられるようにまとめる。	
22回	授業内容	実習評価にかかわるフィードバック	
	学習成果	これまでの実習経験を振り返り、課題を見出し、計画できる。	
23回	予習復習の内容	指定された課題について取り組み、提出する。	
	学習成果	教育実習事前事後指導Ⅱに向けて3・4・5歳児の保育内容について調べ、指定された期日までに提出する。保育教材の準備をする。	